

令和4年度少子高齢社会等調査検討事業

報告書

令和5年3月

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

はじめに

本報告書は、厚生労働省委託調査「令和 4 年度少子高齢社会等調査検討事業」の成果を取りまとめたものである。

人口減少・少子高齢化の進行により、社会保障を取り巻く環境が大きく変化している昨今において、核家族化や未婚化・晩婚化を背景とした単身世帯の増加によって、血縁・地縁などのつながりが弱まり、孤独・孤立への対応は重要な課題となっている。

こうした現況を踏まえ、政府は、地域共生社会の実現を図るために社会福祉法の一部改正を行い、令和 3 年 4 月 1 日に「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」が施行された。これにより創設された重層的支援体制整備事業は、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を市町村が一体的に実施することで、包括的な相談支援体制の構築を目指している。また、「地域づくりに向けた支援」では、世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備等を目指している。令和 3 年 4 月には地域共生ポータルサイトも開設され、地域共生社会実現へ向けた気運はいつそう高まっている。

地域共生社会の実現や、孤独・孤立といった課題への対応においては、行政による包括的な相談支援体制とともに、地域住民の方々の地域における活動や、それによって生じる様々な人と人のつながりも重要な役割を持つだろう。

本調査では、このような観点から、人々の地域における活動への参加状況、活動への参加意向、他者との交流と活動の参加状況との関係などについて調査を行った。また、地域における活動の参加状況や他者との交流状況と孤独感の関係などについても調査を行った。

目次

1.	調査の概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査方法	1
1.2.1	調査対象	1
1.2.2	調査期間	2
1.2.3	回収数	2
1.2.4	集計上の留意点	2
1.3	調査内容	3
2.	調査結果	11
2.1	回答者の属性	11
2.1.1	性別	11
2.1.2	年齢	12
2.1.3	居住都道府県	12
2.1.4	地方公共団体区分	13
2.1.5	職業	14
2.1.6	婚姻状態	15
2.1.7	同居家族	16
2.2	孤独感の有無	17
2.2.1	全体と属性別のクロス集計結果	17
2.2.2	対面コミュニケーションと孤独度合いについて【問 9】×【問 8】	19
2.2.3	非対面コミュニケーションと孤独度合いについて【問 10】×【問 8】	24
2.2.4	交流内容と孤独の度合いについて【問 11】×【問 8】	29
2.2.5	今後の社会参加活動参加意向と孤独の度合いについて【問 12】×【問 8】	33
2.2.6	2022 年 1 年間の社会参加活動状況と孤独の度合いについて【問 13】×【問 8】	34
2.2.7	社会参加活動をしない理由と孤独の度合いについて【問 15】×【問 8】	34
2.3	他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に関する意識等	35
2.3.1	対面コミュニケーションの状況【問 9】	35
2.3.2	非対面コミュニケーションの状況【問 10】	37
2.3.3	人との付き合い方【問 11】	39
2.4	社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等	43
2.4.1	今後の社会参加活動参加意向【問 12】	43
2.4.2	2022 年 1 年間の社会参加活動状況【問 13】	45

2.4.3	社会参加活動参加のきっかけ【問 14】.....	50
2.4.4	社会参加活動をしない理由【問 15】.....	51
2.4.5	具体的な社会参加活動参加状況【問 16-1】.....	52
2.4.6	具体的な社会参加活動の今後の参加意向【問 16-2】.....	56
2.4.7	具体的な社会参加活動の参加理由【問 17】.....	59
2.4.8	具体的な社会参加活動について良かったと思うこと【問 18】.....	60
2.4.9	地域における社会参加活動を進めるために有効だと思う施策【問 19】	63
3.	考察.....	65
3.1	孤独感の有無.....	65
3.2	他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に関する意識等.....	66
3.3	社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等.....	68

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

地域共生社会の実現において重要と認識している、他者との交流、地域活動やボランティア等の社会参加活動に関する認識、孤立・孤独感等について意識調査を行い、厚生労働省白書及び今後の制度検討の基礎資料として活用することを目的として実施した。

1.2 調査方法

1.2.1 調査対象

本調査では、当社が三菱総合研究所と共同で運用している、独自のアンケート定点調査「生活者市場予測システム(mif)¹」パネルを用いて、性別・年齢区分別に 252 件のサンプルを確保することとし、居住地の均等割付を行い、調査を実施した。居住地は表 1-1 のように、7 ブロックの地域区分に分けた。サンプル割付に対して想定回答数が得られるまで回答を受け付けた(表 1-2)。その結果、サンプル割付と回収数は一致している。

回収後、令和 4 年 1 月 1 日現在の「住民基本台帳年齢階級別人口」に基づいた地域、性別、年齢の人口構成比に応じたウエイトバック値(表 1-3)を元に補正して集計した。本報告書に掲載しているすべての集計表及びグラフは、ウエイトバック補正後の結果である。

表 1-1 地域区分

地域ブロック	内訳
1 北海道・東北	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
2 東京都	東京都
3 関東(東京都以外)	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県
4 中部	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
5 近畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
6 中国・四国	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
7 九州・沖縄	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

¹ 当社と三菱総合研究所が共同で運用している独自のアンケート定点調査パネル。本業務では、考察部分で 2022 年 6 月時点の調査結果(ただし 20~69 歳までの 30,000 人のサンプルから構成されるパネルに限定)を引用している。

表 1-2 サンプルの割付

地域ブロック	男性						女性						総計
	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-89歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-89歳	
1 北海道・東北	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
2 東京都	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
3 関東(東京都以外)	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
4 中部	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
5 近畿	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
6 中国・四国	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
7 九州・沖縄	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
総合計	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	3,024

表 1-3 ウェイトバック値

地域ブロック	男性						女性						総計
	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-89歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-89歳	
1 北海道・東北	0.006	0.007	0.0092	0.0088	0.0093	0.0128	0.0055	0.0067	0.0089	0.009	0.0098	0.0173	0.1102
2 東京都	0.0084	0.0094	0.0108	0.01	0.0067	0.0096	0.0083	0.0091	0.0104	0.0096	0.0067	0.0126	0.1116
3 関東(東京都以外)	0.0157	0.0172	0.0222	0.0214	0.0167	0.0256	0.0145	0.0158	0.0206	0.0199	0.0166	0.0313	0.2375
4 中部	0.0116	0.0126	0.0162	0.0154	0.0133	0.0206	0.0104	0.0115	0.0152	0.0149	0.0136	0.0259	0.1812
5 近畿	0.0104	0.0108	0.014	0.0138	0.0109	0.0179	0.0102	0.0108	0.0143	0.0142	0.0117	0.0235	0.1627
6 中国・四国	0.005	0.0055	0.0073	0.0066	0.0066	0.0104	0.0046	0.0053	0.0071	0.0068	0.007	0.0137	0.0861
7 九州・沖縄	0.0065	0.0075	0.0092	0.0084	0.0089	0.0122	0.0064	0.0076	0.0094	0.0089	0.0095	0.0163	0.1106
総合計	0.0634	0.07	0.0889	0.0845	0.0724	0.1092	0.0599	0.0668	0.0859	0.0833	0.075	0.1406	1

1.2.2 調査期間

令和5年1月18日(水)～令和5年1月20日(金)

1.2.3 回収数

3,024 件

1.2.4 集計上の留意点

本報告書に示す集計数値について、合计数値と内訳数値が四捨五入の関係で合致しない場合がある。また、ウェイトバック補正をしている関係で、グラフや表には N を表示していない。選択肢項目の「その他」や自由記述設問について、グラフや表の掲載はしているが、報告書本文では触れていない。

1.3 調査内容

アンケート調査項目は表 1-4 のとおりである。具体的な設問文、選択肢は次ページ以降に示す。

表 1-4 調査内容

調査項目	調査内容
1. 回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別(問 1) ・ 年齢(問 2) ・ 居住地(問 3) ・ 居住地域の地方公共団体区分(問 4) ・ 職業(問 5) ・ 婚姻状態(問 6) ・ 同居家族(問 7)
2. 孤独感の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独感(問 8)
3. 他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に関する意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面でのコミュニケーション状況(問 9) ・ 非対面でのコミュニケーション状況(問 10) ・ 家族や友人、地域の活動仲間との交流状況(問 11)
4. 社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参加活動への参加意向(問 12) ・ 2022 年 1 年間での社会参加活動有無(問 13) ・ 社会参加活動の参加きっかけ(問 14) ・ 社会参加活動を行わない理由(問 15) ・ 具体的な社会参加活動の参加状況と今度の参加意向(問 16) ・ 具体的な社会参加活動を始めた理由(問 17) ・ 具体的な社会参加活動をしていて良かったと思うこと(問 18) ・ 地域における社会参加活動を進めるために有効だと思う施策(問 19) ・ 地域内での活動についての意見(問 20)

属性

回答者:全員

問1 あなたの性別をお答えください。

SA

- 1 男性
- 2 女性

回答方法 ↓

<input type="radio"/>	SA	単一回答
<input type="checkbox"/>	MA	複数回答
	N	数値回答
	FA	自由記述

回答者:全員

問2 あなたの年齢をお答えください。

N

()歳

回答者:全員

問3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

SA

- 1 北海道
- 2 青森県
- ⋮
- 46 鹿児島県
- 47 沖縄県

回答者:全員

問4 あなたのお住まいの地方公共団体区分をお答えください。

SA

- 1 東京23区・政令指定都市
- 2 政令指定都市以外の、県庁所在地の市
- 3 その他の市町村

回答者:全員

問5 あなたの職業をお答えください。

SA

- 1 学生
- 2 専業主婦/主夫
- 3 会社員
- 4 契約社員
- 5 派遣社員
- 6 会社役員
- 7 公務員(教職員を除く)
- 8 教職員
- 9 会社経営
- 10 自営業
- 11 パート・アルバイト
- 12 無職
- 13 その他()

回答者:全員

問6 あなたは結婚していますか。

SA

- 1 未婚
- 2 既婚
- 3 離別
- 4 死別

回答者:全員

問7 あなたと同居している方をすべてお選びください。

MA

- 1 配偶者(既婚のみ表示)
- 2 父
- 3 母
- 4 未成年の子
- 5 成年の子
- 6 祖父母
- 7 未成年の孫
- 8 成年の孫
- 9 兄弟姉妹
- 10 その他の親族
- 11 親族以外
- 12 同居家族はいない(一人暮らし)※排他

孤立・孤独感の有無等

回答者:全員

問8 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

SA

- 1 決してない
- 2 ほとんどない
- 3 たまにある
- 4 時々ある
- 5 しばしばある・常にある

他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に対する意識等

回答者:全員

問9 あなたは2022年の1年間、下記の方とどれくらい、対面でのコミュニケーションを取りましたか。(対面とは、直接会う場合をさし
ます。LINEやテレビ電話、メール、電話、手紙、オンラインでのやりとり等は含みません)

SA, FA

	つながり時間	回答
1	同居の家族	
2	別居の家族	
3	現在属している学校・職場の友人・同僚	
4	過去属していた学校・職場の友人・同僚	
5	居住地域の近隣の人	
6	居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)	
7	学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人	
8	ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人	
9	その他()	

※「その他」に該当する方がいない場合は、この設問は未回答のままお進みください

↓ 選択肢

- 1 週5日以上
- 2 週2～4日
- 3 週1日
- 4 月1～3日
- 5 年に数回程度
- 6 まったくない
- 7 そのような人はいない

問10 あなたは2022年の1年間、下記の方とどれくらい、非対面でのコミュニケーションを取りましたか。(非対面でのコミュニケーションとは、LINEやテレビ電話、メール、電話、手紙、オンラインでのやりとり等、直接会う以外のコミュニケーションをさします。)

SA, FA

	つながり時間	回答
1	同居の家族	
2	別居の家族	
3	現在属している学校・職場の友人・同僚	
4	過去属していた学校・職場の友人・同僚	
5	居住地域の近隣の人	
6	居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)	
7	学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人	
8	ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人	
9	その他(問9の内容を表示)	

↓ 選択肢

- 1 週5日以上
- 2 週2～4日
- 3 週1日
- 4 月1～3日
- 5 年に数回程度
- 6 まったくない
- 7 そのような人はいない

回答者: 全員(問9および問10の両方で「6まったくくない」または「7そのような人はいない」と回答した相手は表示しない)

問11 あなたは下記の方とはどのような付き合いをしていますか。※複数回答可

MA

	つながり時間	回答
1	同居の家族	
2	別居の家族	
3	現在属している学校・職場の友人・同僚	
4	過去属していた学校・職場の友人・同僚	
5	居住地域の近隣の人	
6	居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)	
7	学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人	
8	ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人	
9	その他(問9の内容を表示)	

↓ 選択肢

- 1 会えば挨拶・会話を(自宅での日常会話を含む)
- 2 外でちょっと立ち話をする
- 3 お茶・食事・飲み会を一緒にする(自宅での食事を含む)
- 4 一緒に外出・旅行する
- 5 日常生活での相談ごとがあるとき、相談したり、されたりする
- 6 家事や送迎などちょっとした用事を手伝ってもらう
- 7 他の人には言えないような悩みを相談する
- 8 金銭の貸し借りをする
- 9 上記に該当するものはない

社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等

回答者:全員

問12 あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。

※このアンケートにおいて、社会参加活動とは地域におけるボランティア活動、NPO活動、町内会・自治会・PTAなどの地縁的活動、その他の市民活動を指します。

いずれかに当てはまる場合は「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を選択ください。

SA

- 1 参加したい
- 2 どちらかといえば参加したい
- 3 どちらかといえば参加したくない
- 4 参加したくない

回答者:全員

問13 あなたは2022年の1年間、社会参加活動を行いましたか。

SA

- 1 社会参加活動を行っている
- 2 社会参加活動を行っていない

回答者:問13で「1 社会参加活動を行っている」と回答した者

問14 社会参加活動をどのようなきっかけ(方法)で始めましたか。

MA, FA

- 1 地域内の広報などを通じて知り、自分で連絡をとった
- 2 オンライン上(ホームページ、Instagram、Twitter等)で活動を知り、自分で連絡をとった
- 3 家族や友人・知人に誘われた
- 4 活動をしている者から勧誘された
- 5 その他()

回答者:問13で「2社会参加活動を行っていない」と回答した者

問15 社会参加活動をしない主な理由はなんですか。 ※複数回答可

MA, FA

- 1 どのような活動が行われているか知らないから
- 2 時間的な余裕がないから
- 3 家庭の事情(仕事、家事、介護、通院等)があるから
- 4 興味・関心がないから
- 5 経費や手間がかかりすぎるから
- 6 気軽に参加できる活動が少ないから
- 7 同好の友人・仲間がないから
- 8 近所に活動場所がないから
- 9 人と付き合うのがおっくうだから
- 10 過去に参加したが期待外れだったから
- 11 その他()
- 12 特に理由はない

回答者: 全員

問16 以下の社会参加活動について、あなたの現在の参加状況と、今後の参加意向をお答えください。

SA, FA

※以降、あなたの居住地域における社会参加活動についてご回答ください。

	活動内容	現在の参加有無	今後の参加意向
1	地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)		
2	地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)		
3	地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)		
4	その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動		
5	地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)		
6	まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動		
7	PTA・自治会・町内会などの活動		
8	その他()		

※「その他」は回答必須

- ↓
- 1 現在参加している
- 2 現在参加していない

↓

選択肢

- 1 今後、参加したい
- 2 今後、どちらかといえば参加したい
- 3 今後、どちらかといえば参加したくない
- 4 今後、参加したくない

※FAを別設問で聴取

回答者: 問16の現在の参加有無で「1参加している」にした項目だけ表示

問17 問16で回答した各社会参加活動を始めた理由は何ですか。 ※複数回答可

MA, FA

	活動内容	理由
1	地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)	
2	地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)	
3	地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)	
4	その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動	
5	地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)	
6	まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動	
7	PTA・自治会・町内会などの活動	
8	その他(問16の内容を表示)	

↓

選択肢

- 1 自分が子育て、高齢者、障害者等に関する支援を受けたことがあるから
- 2 社会や人の役に立ちたいと思ったから
- 3 時間的な余裕があるから
- 4 家族以外の人と交流したいから
- 5 収入を得たいから
- 6 その他()
- 7 特に理由はない

※FAを別設問で聴取

回答者: 問16の現在の参加有無で「1参加している」にした項目だけ表示

問18 問16で回答した各社会参加活動をしていて良かったと思うことはなんですか。※複数回答可

MA, FA

	活動内容	よかったこと
1	地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)	
2	地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)	
3	地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)	
4	その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動	
5	地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)	
6	まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動	
7	PTA・自治会・町内会などの活動	
8	その他(問16の内容を表示)	

↓ 選択肢

- 1 生活に充実感ができた
- 2 自分の技術、経験を活かすことができた
- 3 新しい友人を得ることができた
- 4 社会への見方が広まった
- 5 お互いに助け合うことができた
- 6 地域社会に貢献できた
- 7 孤独感が軽減・解消された
- 8 その他()
- 9 特にない

※FAを別設問で聴取

回答者: 全員

問19 地域における社会参加活動を進めるために有効だと思う施策はなんですか。

MA

- 1 社会参加活動を行うことの出来る場の提供
- 2 実施されている社会参加活動内容の周知・広報
- 3 実施されている社会参加活動に参加するメリットの広報
- 4 簡単に社会参加活動に参加できる仕組み
- 5 仕事と社会参加活動を両立できるような支援
- 6 子育て、介護、家事などの家庭における負担が減るような支援
- 7 参加することで対価やポイントが得られるようなインセンティブの付与
- 8 社会参加活動全般に関する幅広い相談窓口の設置
- 9 その他()
- 10 特にない

回答者: 全員

問20 地域内での活動について、ご意見をお聞かせください。

FA

()

2. 調査結果

表 1-4 の集計結果に基づいて、主要な調査結果を示す。なお、本調査におけるキーワードについては、下記のように定義している。

孤独	主観的な概念で、ひとりぼっちと感じる精神的な状態のこと
社会参加活動	地域におけるボランティア活動、NPO 活動、町内会・自治会・PTA などの地縁的活動、その他の市民活動

2.1 回答者の属性

2.1.1 性別

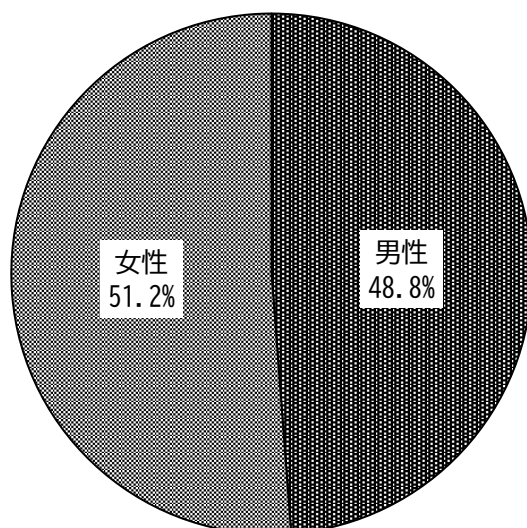


図 2-1

2.1.2 年齢

年齢での回答であったが、集計は割付同様に年代で実施した。

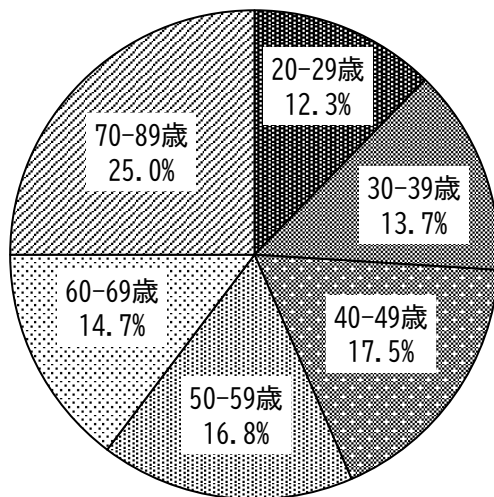


図 2-2

2.1.3 居住都道府県

47 都道府県での回答であったが、集計は割付同様に地域区分(7 区分)で実施した。

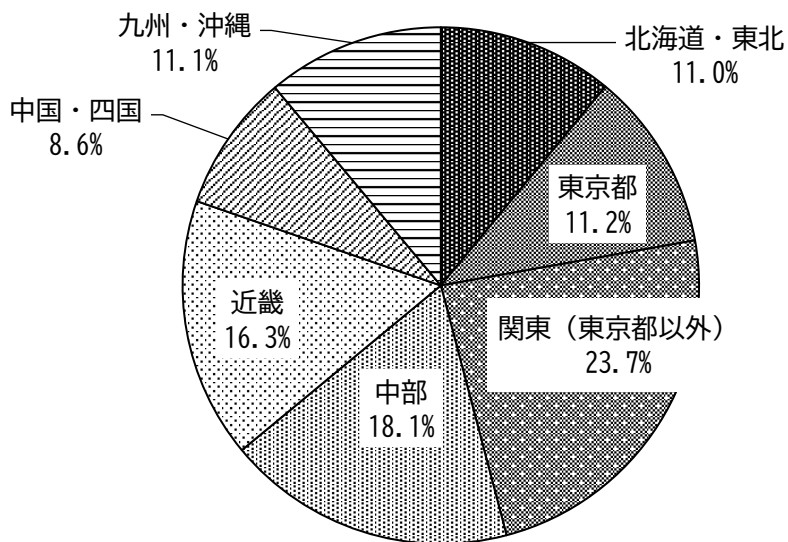


図 2-3

2.1.4 地方公共団体区分

地方公共団体区分は、全体では「その他の市町村」が50.5%で最多、次いで「東京23区・政令指定都市」が30.4%、「政令指定都市以外の、県庁所在地の市」が19.2%であった。

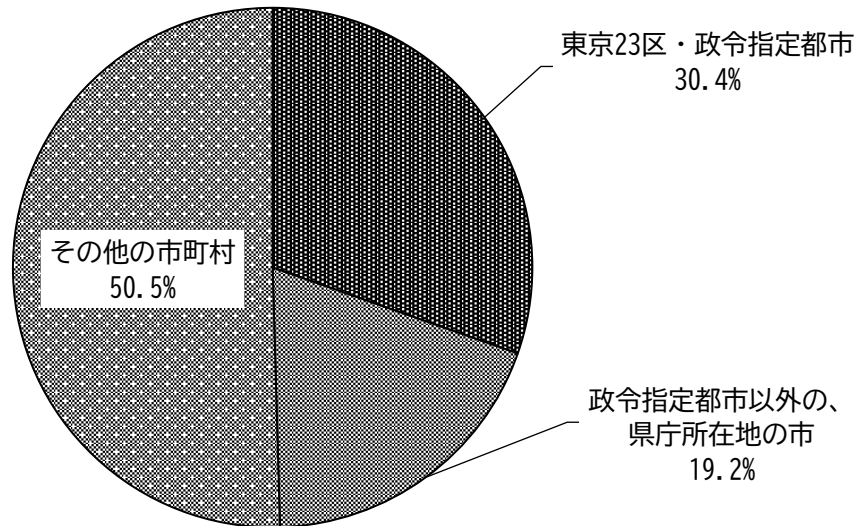


図 2-4

2.1.5 職業

職業は、「会社員」が 26.1%で最多、次いで「無職」が 21.2%、「専業主婦／主夫」が 20.3%であった。

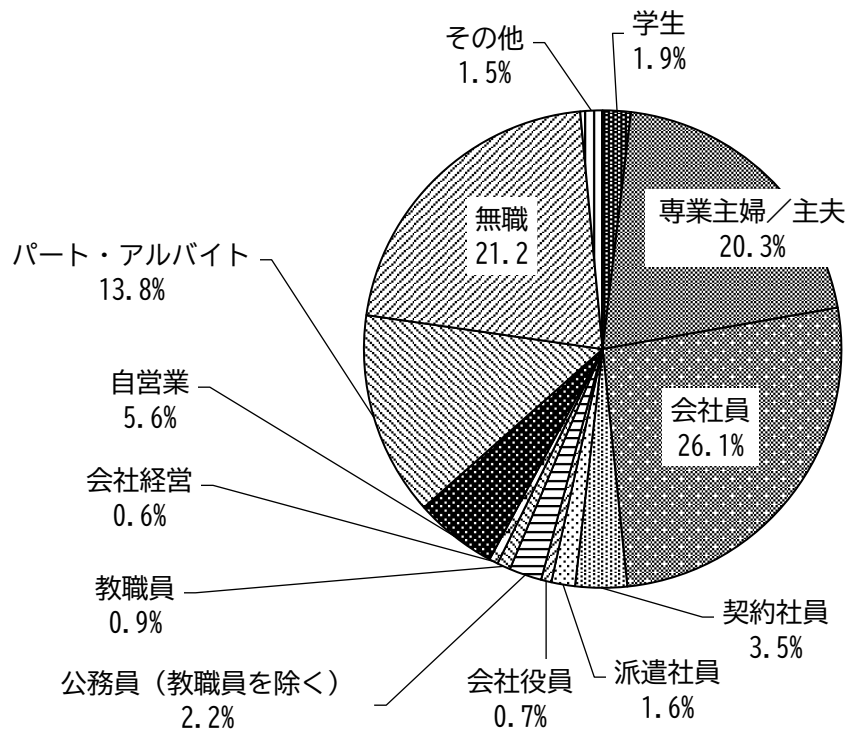


図 2-5

2.1.6 婚姻状態

婚姻状態は、「既婚」が58.2%で最多、次いで「未婚」が31.1%、「離別」が7.3%であった。

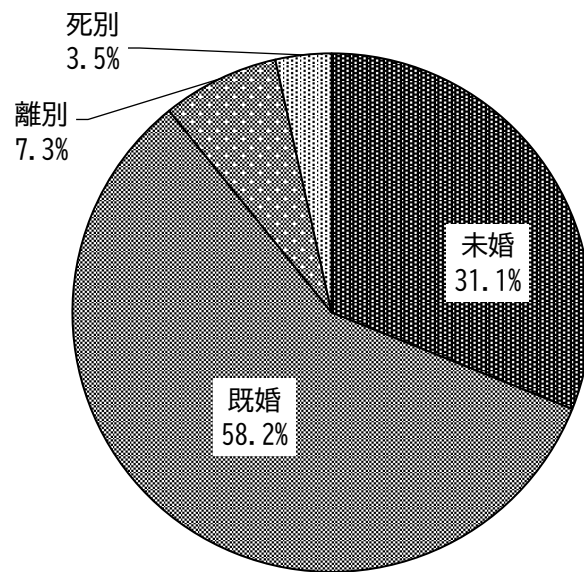


図 2-6

2.1.7 同居家族

同居家族は回答の組み合わせによって、表 2-1 の同居家族類型で集計した。全体では、「2 世代(ひとり親を除く)」が 36.3%で最多、次いで「夫婦のみ」が 29.0%、「単身」が 18.2%であった。

表 2-1 同居家族類型表

分類	同居構成
単身	単身
夫婦のみ	夫婦のみ
2 世代 (ひとり親を除く)	夫婦と未成年の子のみ
	夫婦と成年の子のみ
	夫婦と成年・未成年の子
	夫婦とその親
2 世代 (ひとり親)	ひとり親と未成年の子のみ
	ひとり親と成年の子のみ
	ひとり親と成年・未成年の子
3 世代	3 世代以上
その他	その他

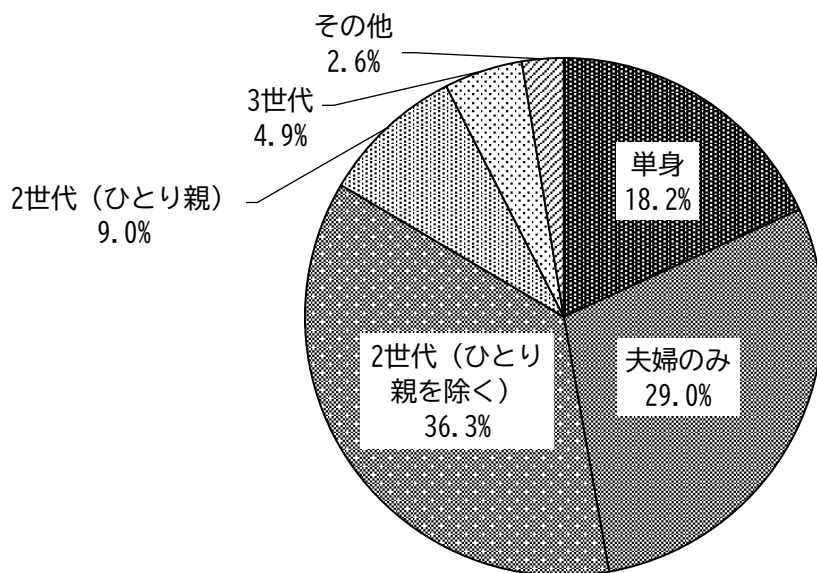


図 2-7

2.2 孤独感の有無

2.2.1 全体と属性別のクロス集計結果

孤独を感じるかについて、全体では「ほとんどない」が40.1%で最多、次いで「たまにある」が26.2%、「決してない」が14.3%であった。

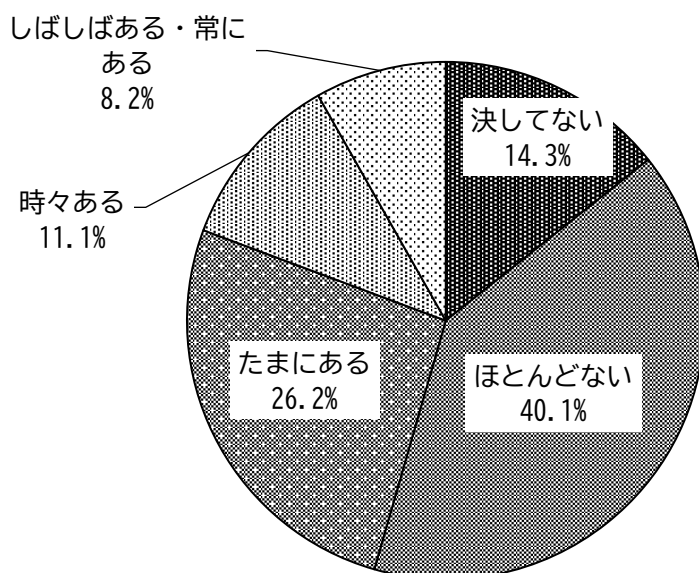


図 2-8

性別と年代別にみると、男女ともに、「決してない」「ほとんどない」と回答した割合（以降『ない』という。）が最も高いのは70-89歳であり、また概ね年代が高いほど孤独感を感じていない結果となった。

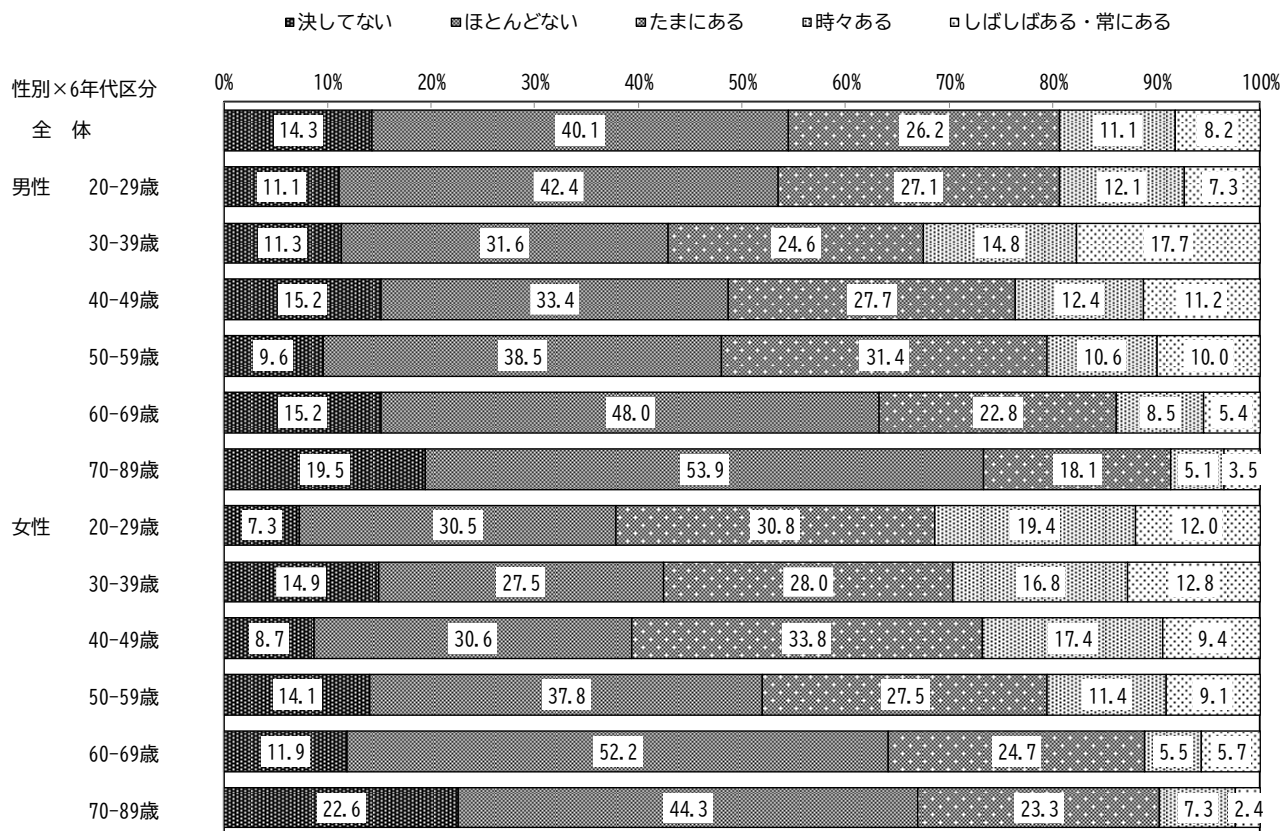


図 2-9

同居家族別にみると、「決してない」と回答した割合は3世代(20.7%)で最も高く、次いで夫婦のみ(17.4%)、2世代(ひとり親を除く)(13.6%)であった。夫婦のみを除くどの類型でも、『ない』と、「たまにある」「時々ある」「しばしばある・常にある」の合算(以降『ある』という。)は概ね半数であった。

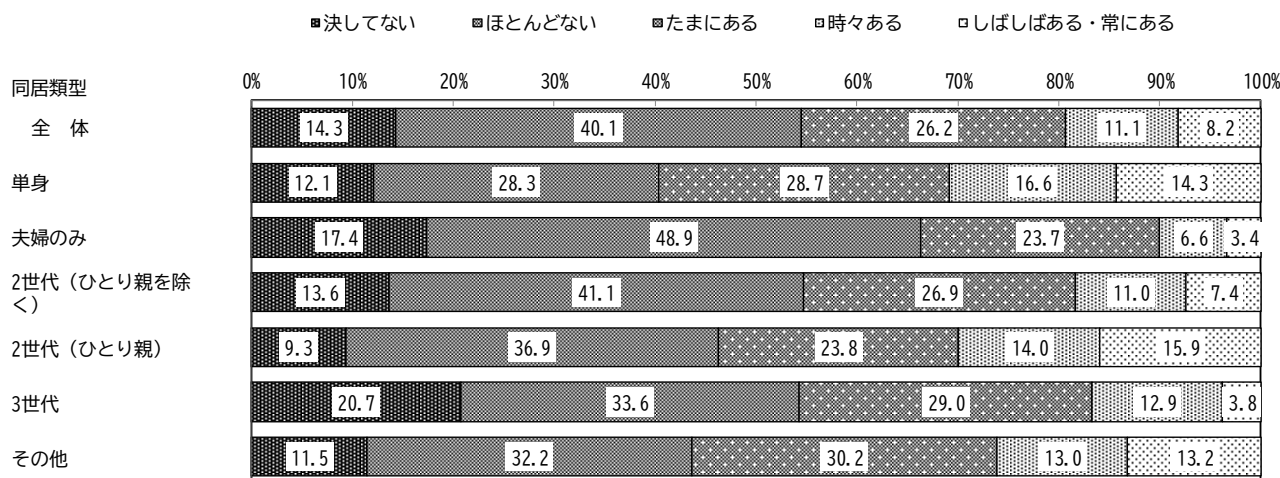


図 2-10

2.2.2 対面コミュニケーションと孤独度合いについて【問9】×【問8】

2022年1年間の対面コミュニケーションの状況について、表2-2の人的区分で調査をした。ただし、問9及び問10の両方で、「6.まったくない」または「7.そのような人はいない」と回答した場合は、回答対象から除外しているため、「全体」の割合が異なる場合がある。

表 2-2 コミュニケーションの人的区分

番号	人的区分
(1)	同居の家族
(2)	別居の家族
(3)	現在属している学校・職場の友人・同僚
(4)	過去属していた学校・職場の友人・同僚
(5)	居住地域の近隣の人
(6)	居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)
(7)	学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人
(8)	ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人
(9)	その他(回答者自由記述)

※(9)その他は、自由記述の集合のため、本編では触れていない。

表2-2の相手を問わず、いずれかの最も高い対面のコミュニケーション頻度別にみると、『ない』は概ねコミュニケーション頻度が高いほど、割合が高い。一方で、対象の人的区分がまったくない、そのような人はいない場合は、『ない』と『ある』は概ね半数であった。

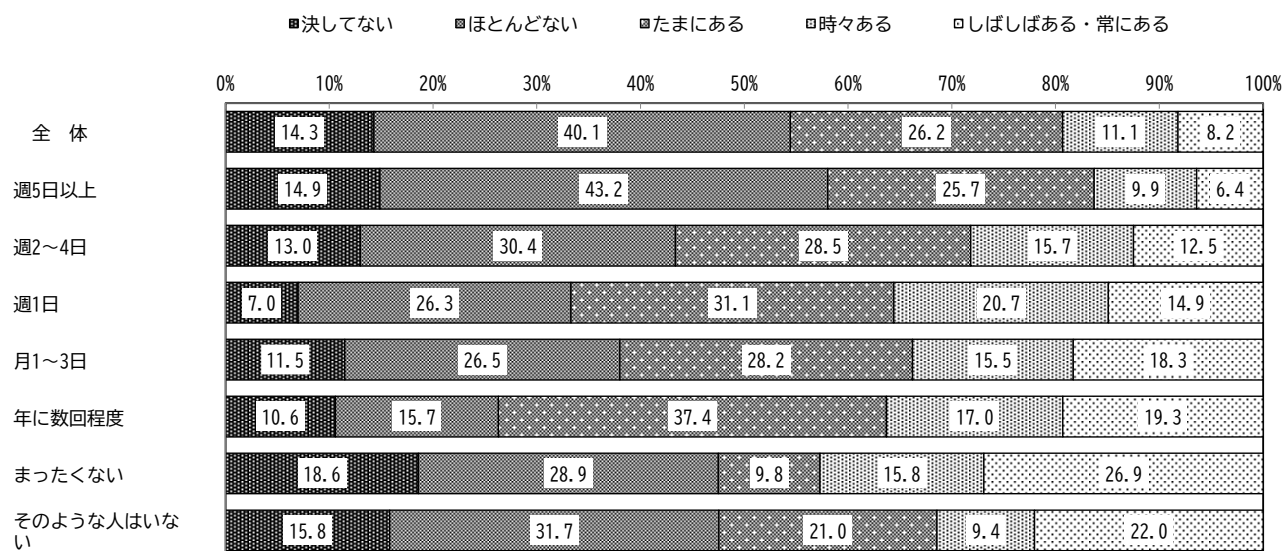


図 2-11

(1) 同居の家族

同居の家族がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上対面コミュニケーションのある家庭では『ない』が 59.6%と突出しているが、週 2～4 日以下の頻度ではコミュニケーション頻度と孤独の度合いには関係はみられない。同居の家族との対面コミュニケーションがない、もしくは同居の家族がいない場合は、『ない』がいずれも 6 割前後となっており、同居家族との対面コミュニケーション自体がない場合は孤独感との関係が一切みられない結果となった。

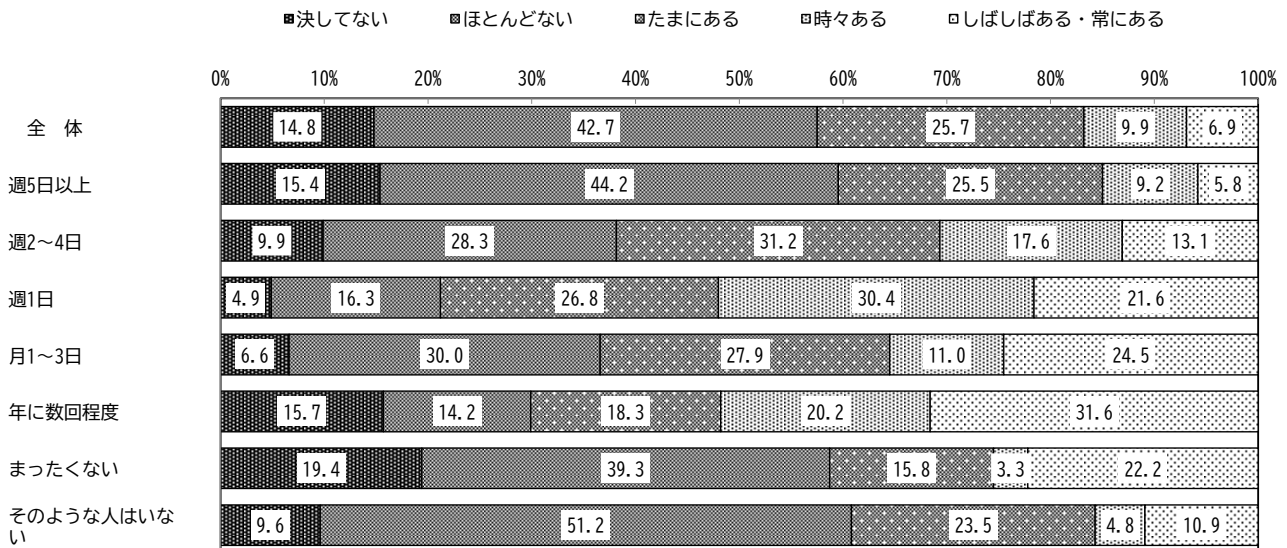


図 2-12

(2) 別居の家族

別居の家族がいる回答者の孤独感については、概ねコミュニケーション頻度の高い別居家族がいる回答者のほうが「決してない」の割合が高く、週 5 日以上対面コミュニケーションがある場合は、70.2%の人が『ない』と回答している。

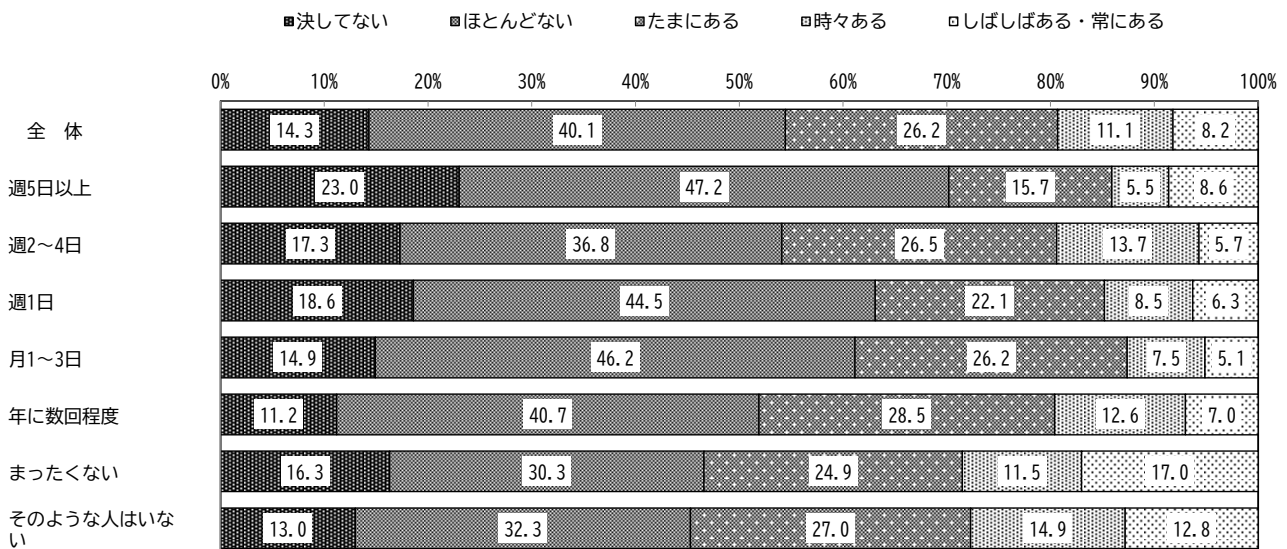


図 2-13

(3) 現在属している学校・職場の友人・同僚

現在属している学校・職場の友人・同僚がいる回答者の孤独感については、コミュニケーション頻度と孤独感に関係はみられない。

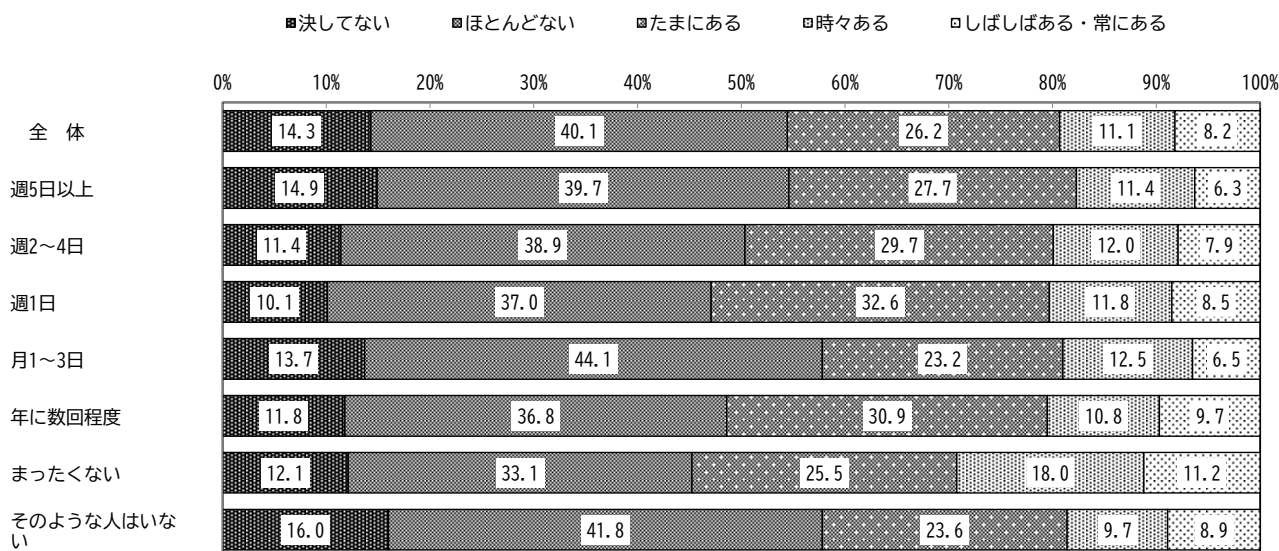


図 2-14

(4) 過去属していた学校・職場の友人・同僚

過去属していた学校・職場の友人・同僚がいる回答者の孤独感については、週5日以上対面コミュニケーションがある場合に、41.1%の人が「決してない」と回答しており、突出している。

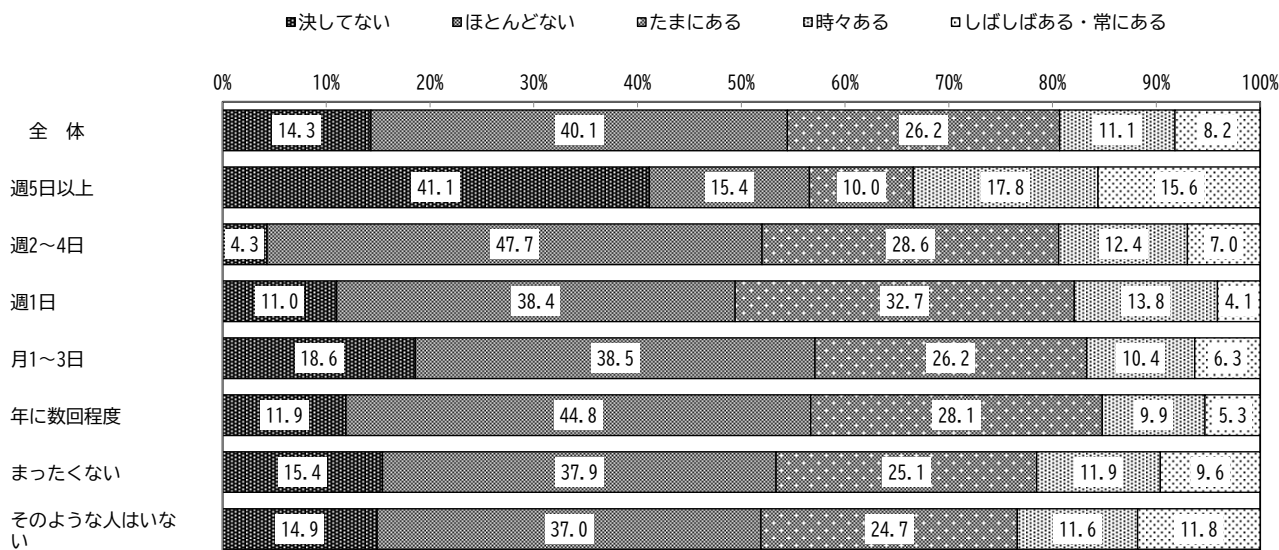


図 2-15

(5) 居住地域の近隣の人

居住地域の近隣の人がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上対面コミュニケーションのある人の「決してない」が 20.5%と高く、また概ねコミュニケーション頻度が高いほど孤独感が低い。年に数回程度のコミュニケーションがあれば、53.0%が『ない』と回答しているのに対し、まったくないもしくはそのような人はいない場合において、『ある』が5割を超えており、家族や学校・職場の友人・同僚と比較すると、近隣住民とのコミュニケーションは孤独感に及ぼす影響は強い結果となった。

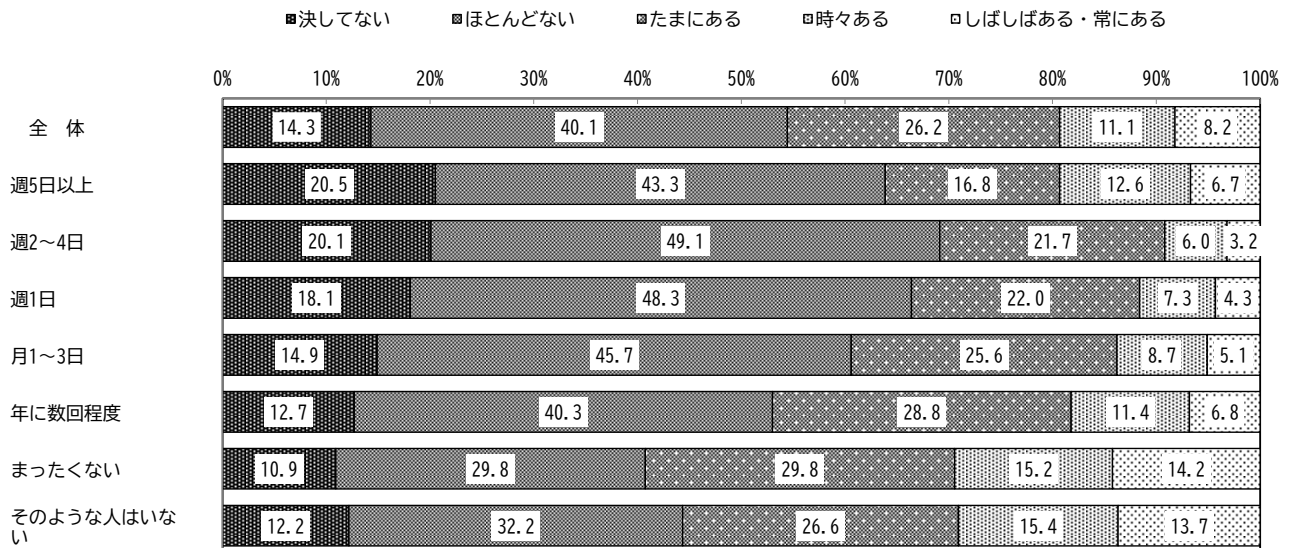


図 2-16

(6) 居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)

居住地域における活動の仲間がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上対面コミュニケーションのある人の「決してない」が 26.1%と高く、また概ねコミュニケーション頻度が高いほど孤独感が低い。

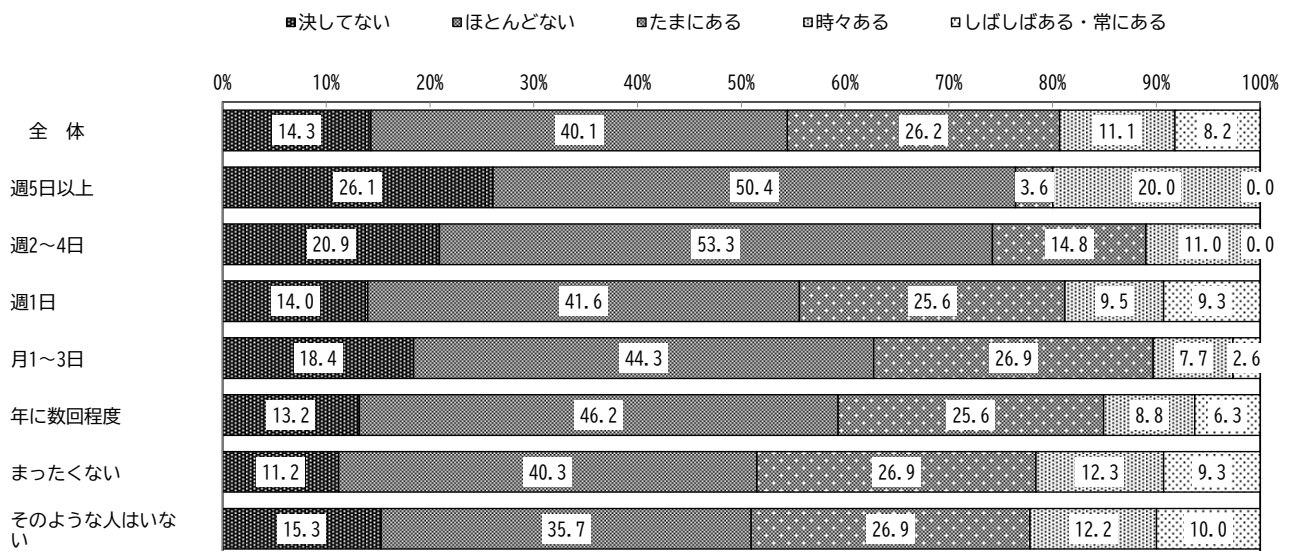


図 2-17

(7) 学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人

学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上と週 2～4 日対面のコミュニケーションがある場合は「決してない」が約 2 割と高い。概ねコミュニケーション頻度が高いほど孤独感は低い。

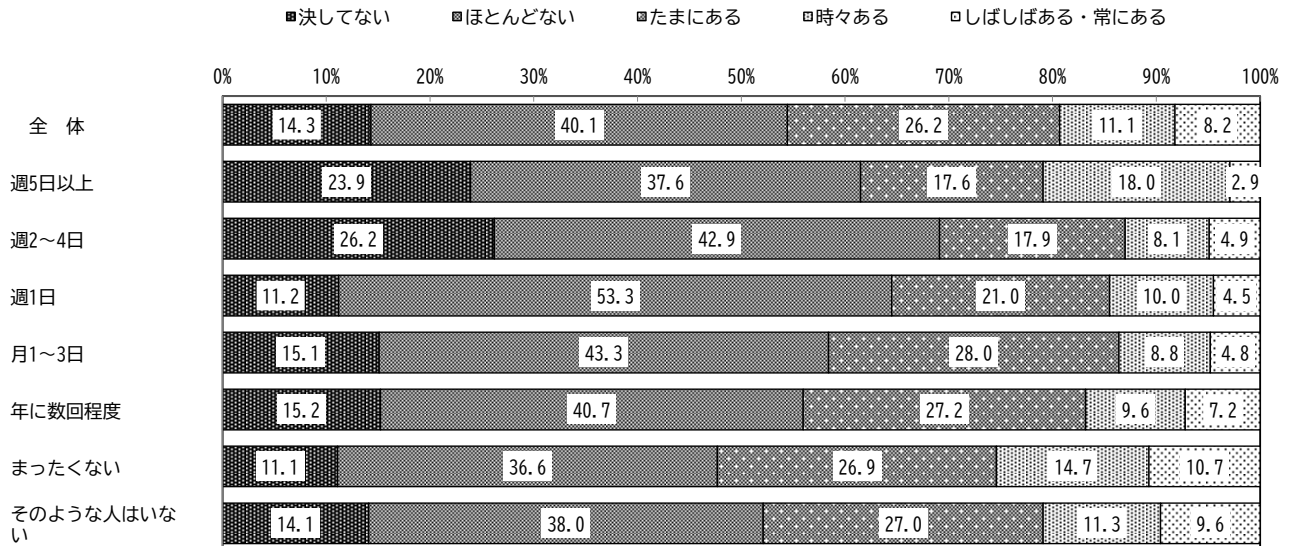


図 2-18

(8) ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人

ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人がいる回答者の孤独感については、対面コミュニケーションが週 5 日以上、週 2～4 日の場合は、『ない』が『ある』を上回っているが、週 1 日、月 1～3 日、年に数回程度では『ある』が 5 割～6 割であり、『ない』を上回っている。

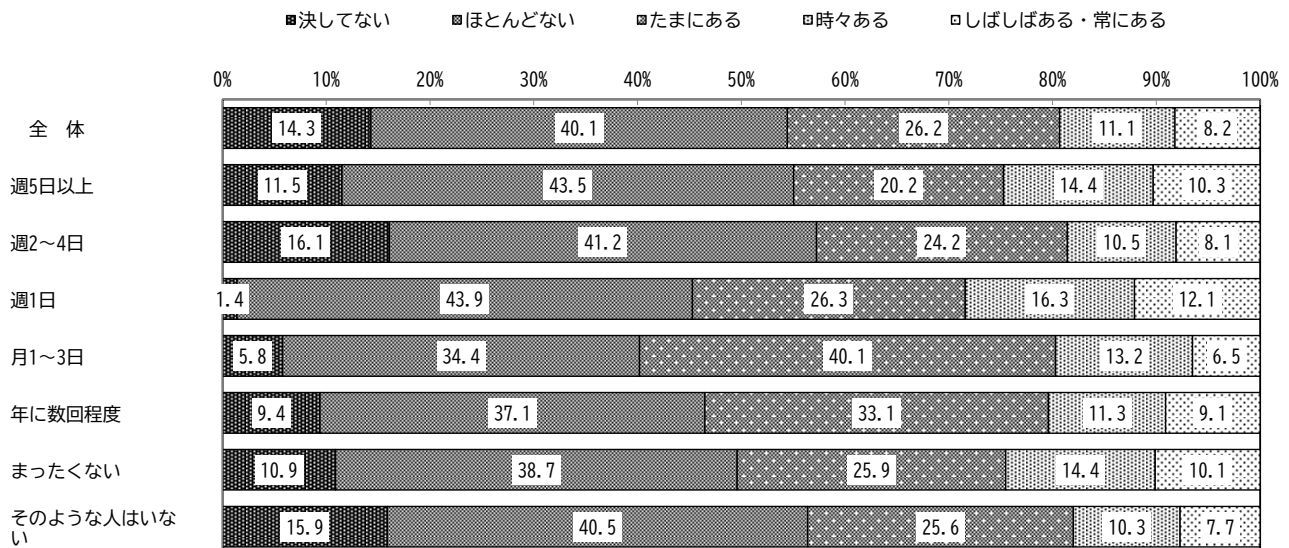


図 2-19

2.2.3 非対面コミュニケーションと孤独度合いについて【問 10】×【問 8】

表 2-2 の相手を問わず、いずれかの最も高い非対面のコミュニケーション頻度別にみると、対面コミュニケーションのような頻度と孤独感に関係はみられない結果となった。

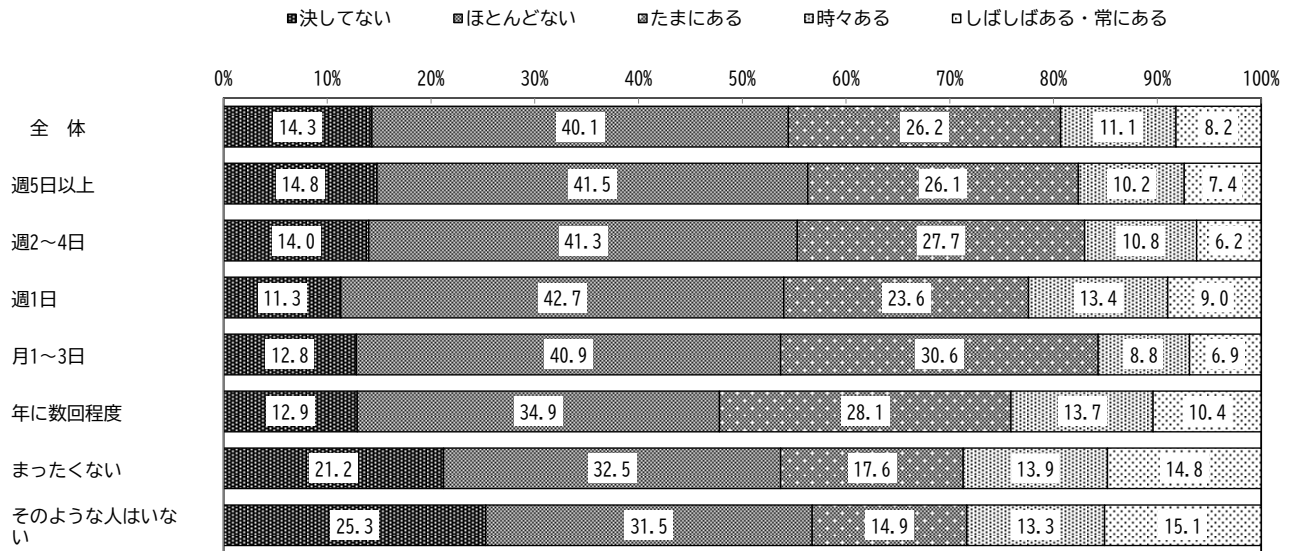


図 2-20

(1) 同居の家族

同居の家族がいる回答者の孤独感については、対面コミュニケーション頻度と孤独感に関係がみられたが、非対面コミュニケーションと孤独感には関係はみられなかった。

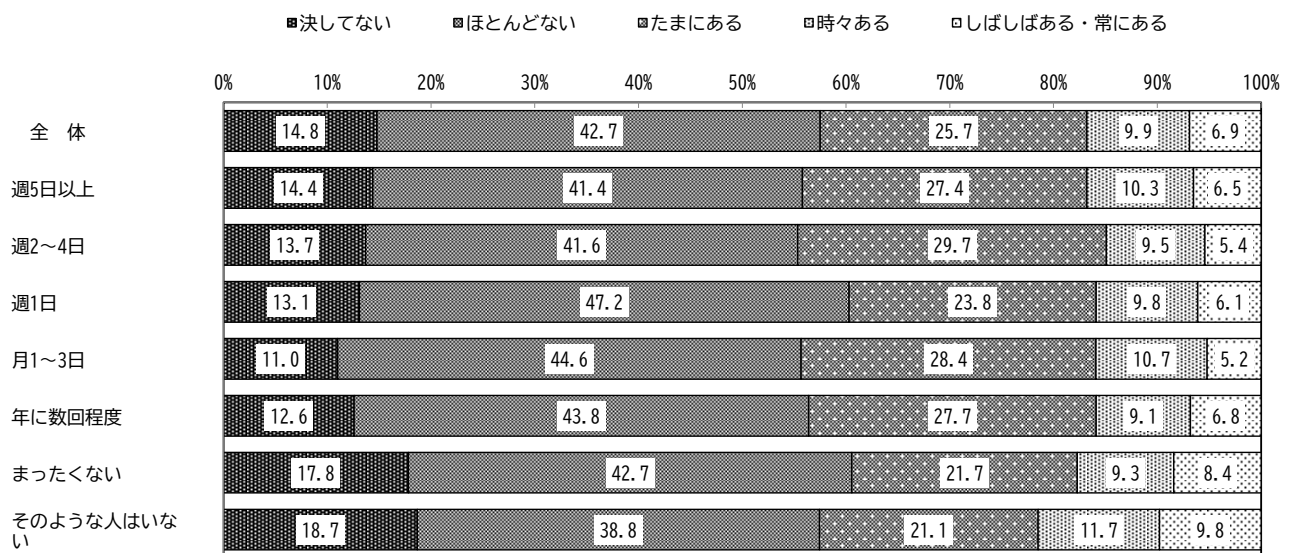


図 2-21

(2) 別居の家族

別居の家族がいる回答者の孤独感については、週 5 日程度非対面のコミュニケーションがある場合に、「決してない」が 24.0%、「ほとんどない」が 39.4%で、『ない』が 63.4%であった。概ねコミュニケーション頻度が高いほど、孤独感が低い。

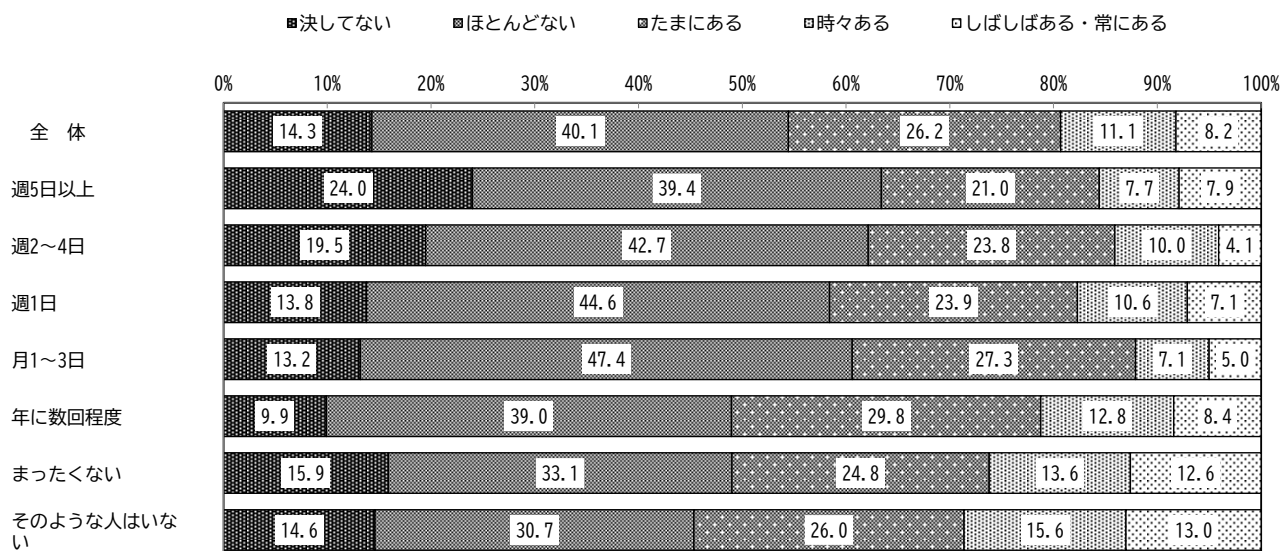


図 2-22

(3) 現在属している学校・職場の友人・同僚

現在属している学校・職場の友人・同僚がいる回答者の孤独感については、非対面コミュニケーションの頻度と関係はみられない。

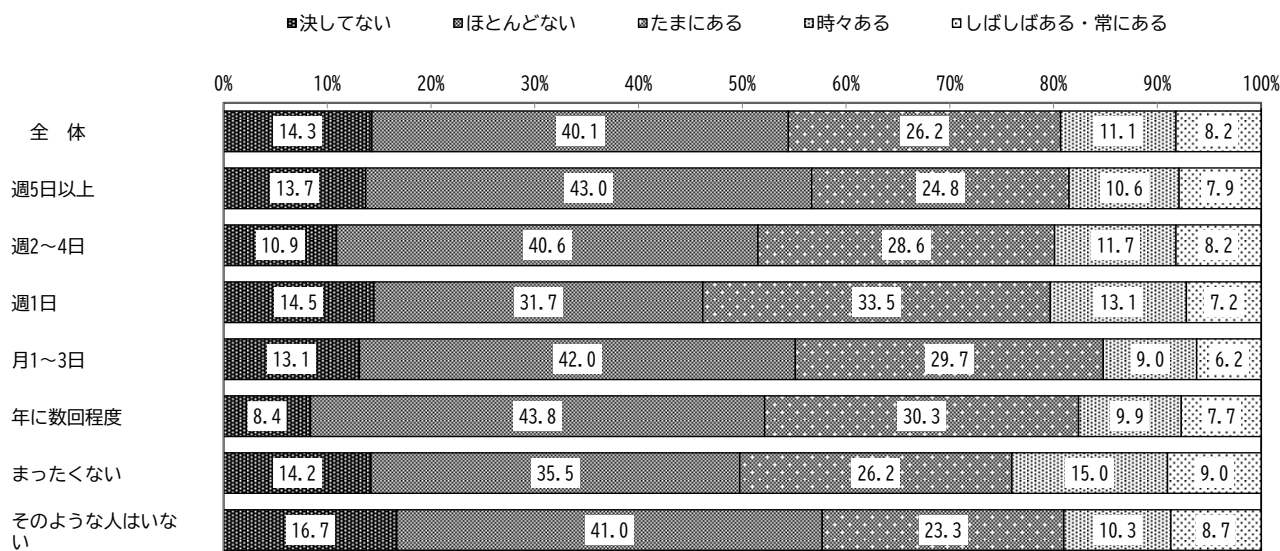


図 2-23

(4) 過去属していた学校・職場の友人・同僚

過去属していた学校・職場の友人・同僚がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上非対面コミュニケーションがある場合において『ない』が 65.7%と突出しているものの、それ以外のコミュニケーション頻度では特段違いはみられない。

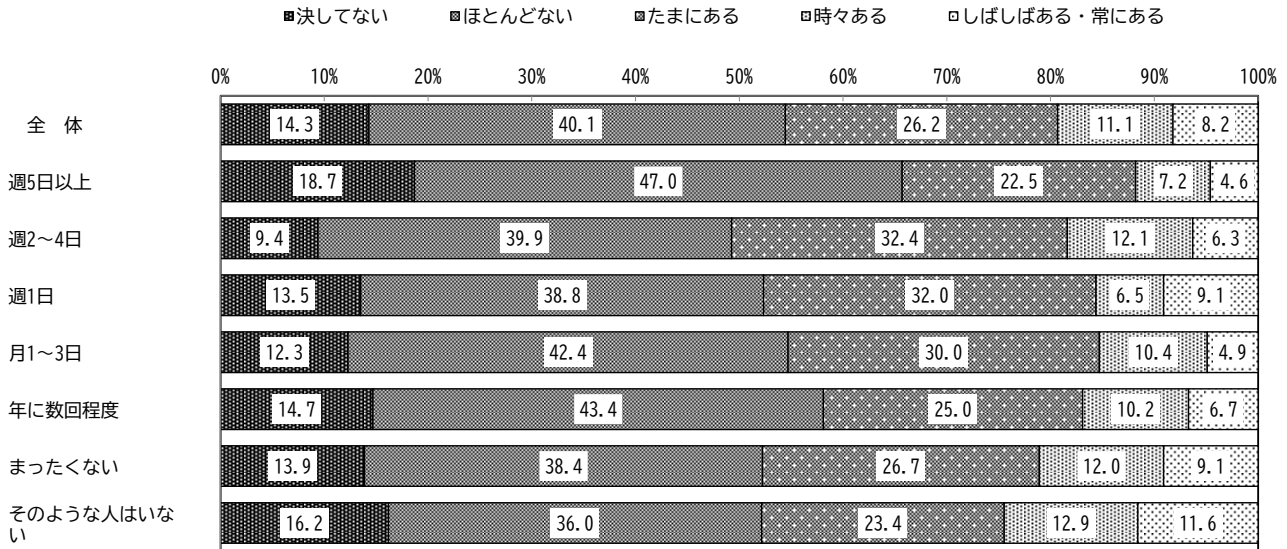


図 2-24

(5) 居住地域の近隣の人

居住地域の近隣の人がいる回答者の孤独感については、いずれの非対面コミュニケーション頻度も『ない』が半数以上を占め、週 2~4 日の場合に 7 割を超えた。

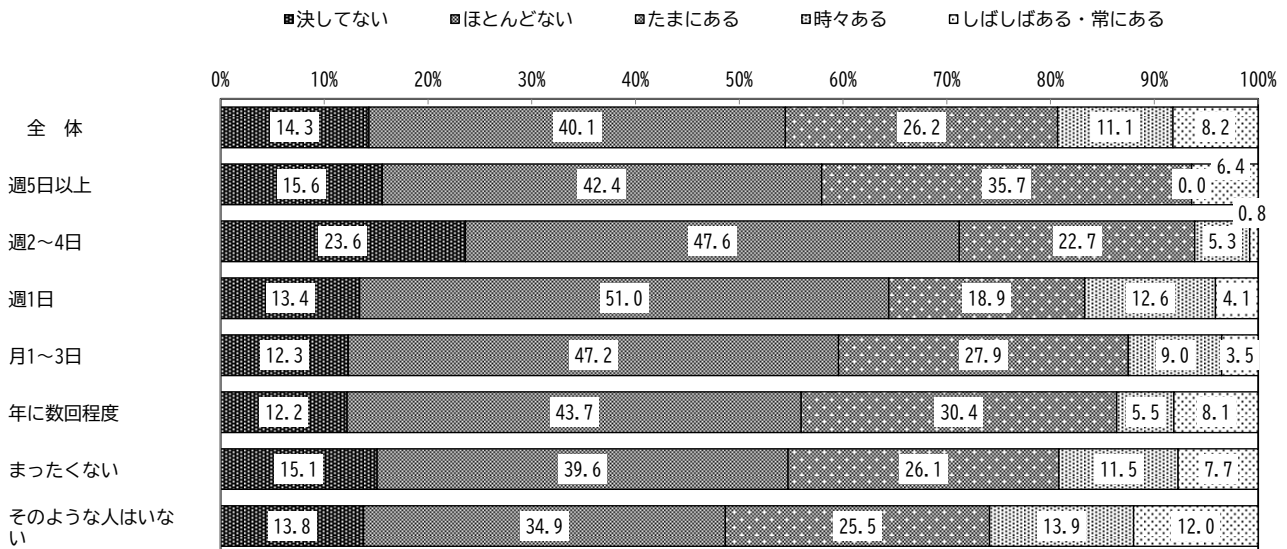


図 2-25

(6) 居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)

居住地域における活動の仲間がいる回答者の孤独感については、週 5 日以上と週 2~4 日以上の非対面コミュニケーションがある場合に「決してない」が高く、『ない』も突出している。

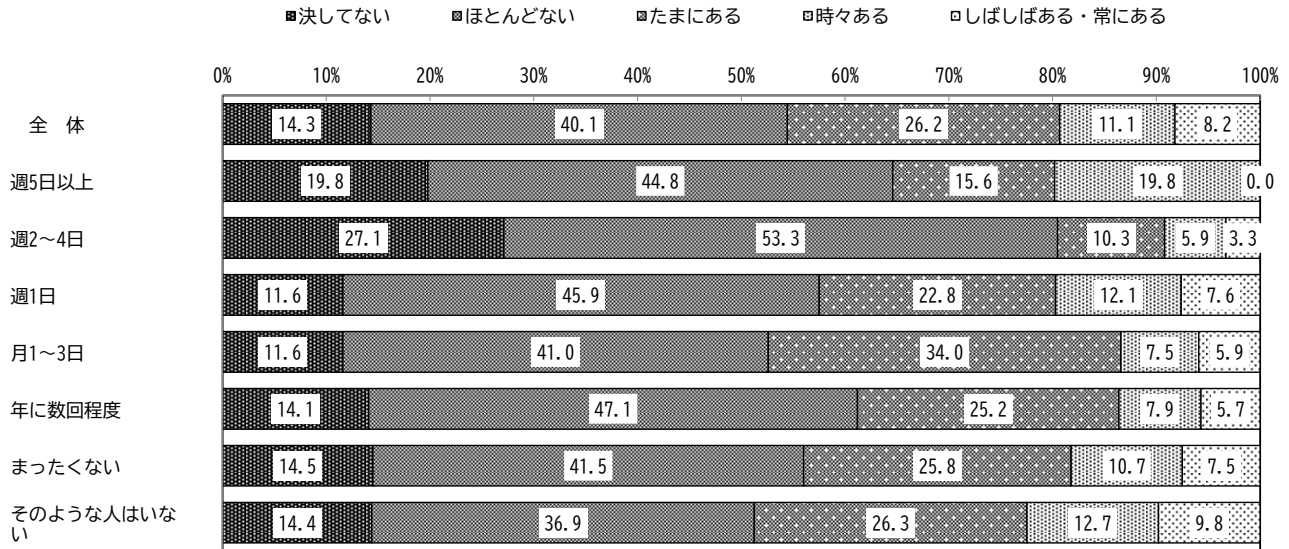


図 2-26

(7) 学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人

学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人のいる回答者の孤独感については、非対面コミュニケーションと関係がみられない。

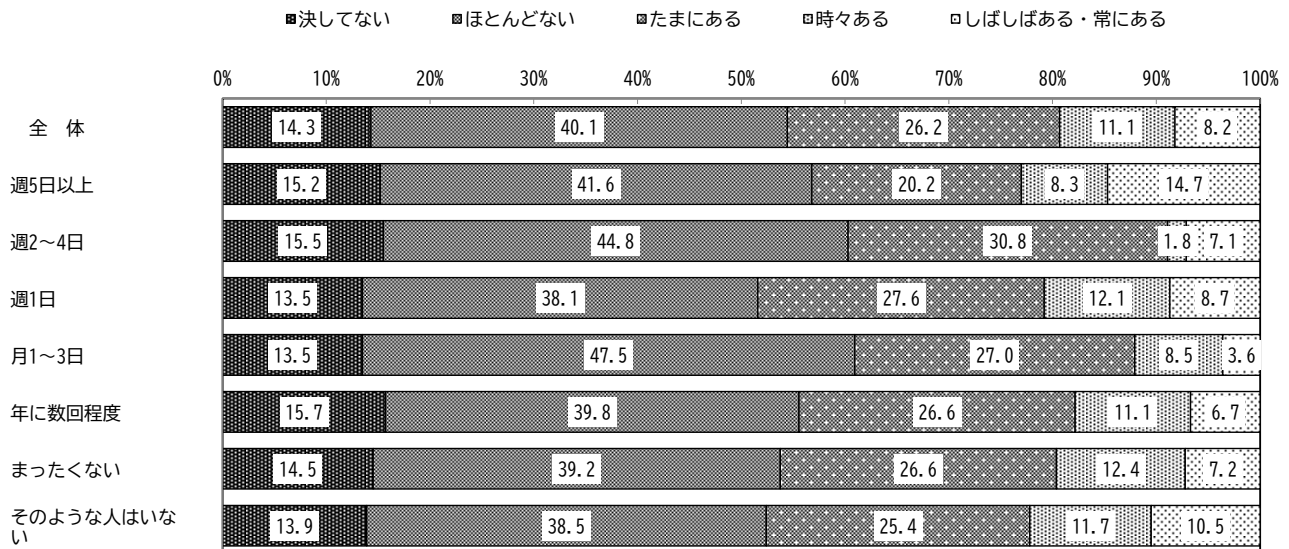


図 2-27

(8) ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人

ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人のいる回答者の孤独感については、週 5 日以上非対面コミュニケーションがある場合に『ない』が 61.0%であった。概ねコミュニケーション頻度が高いほど、孤独感が低い。

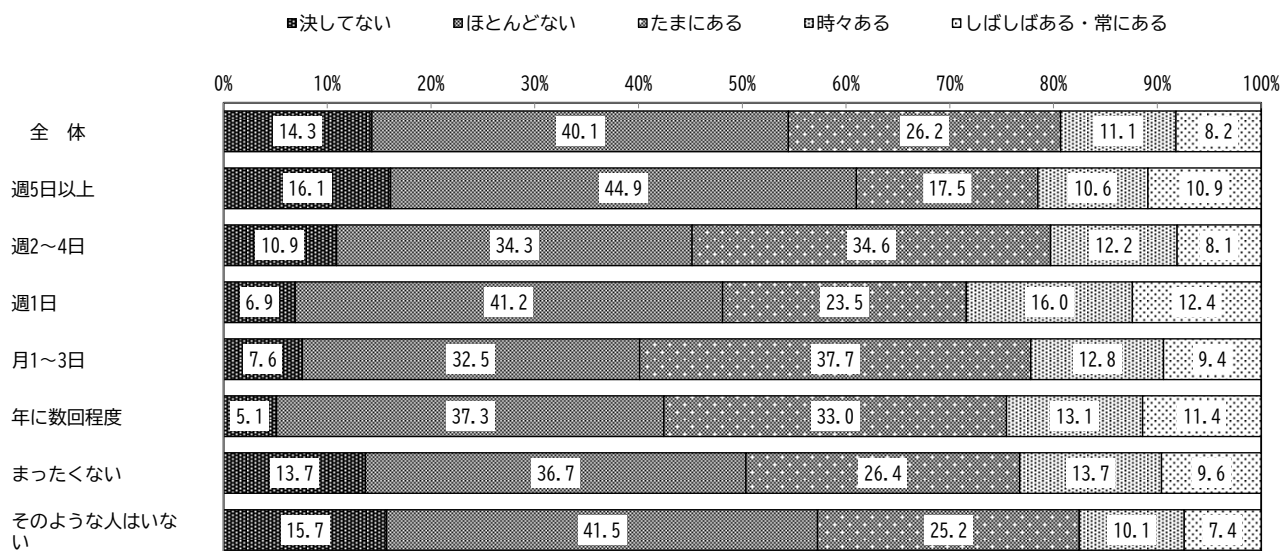


図 2-28

2.2.4 交流内容と孤独の度合いについて【問 11】×【問 8】

人との交流内容と孤独の度合いについて、どのような違いがあるかを集計した。

(1) 同居の家族

同居の家族との交流度合いと孤独感との関係については、大きな差はみられない。

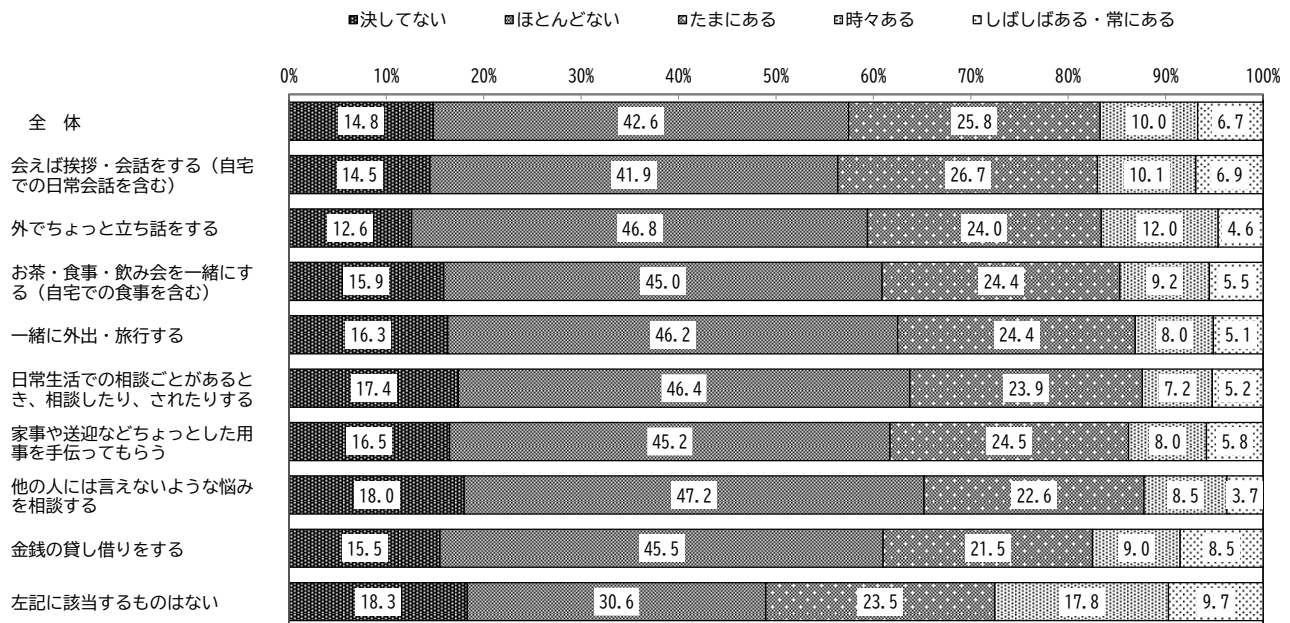


図 2-29

(2) 別居の家族

別居の家族との交流度合いと孤独感との関係については、大きな差はみられない。

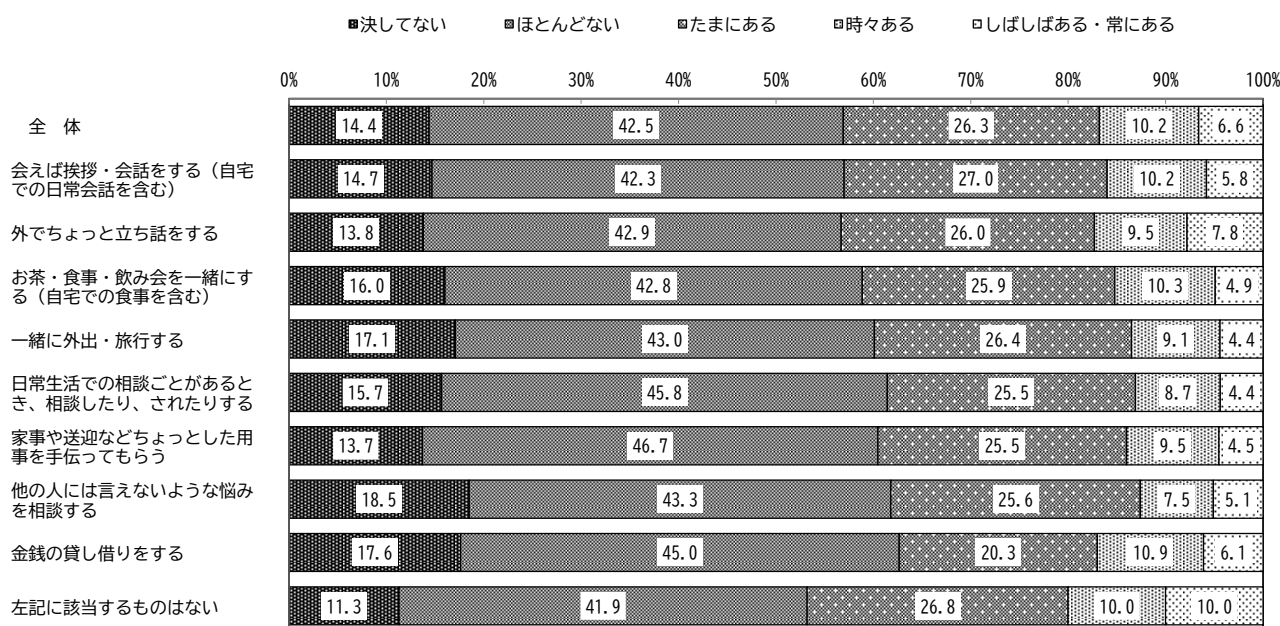


図 2-30

(3) 現在属している学校・職場の友人・同僚

現在属している学校・職場の友人・同僚との交流度合いと孤独感との関係については、大きな差はみられない。

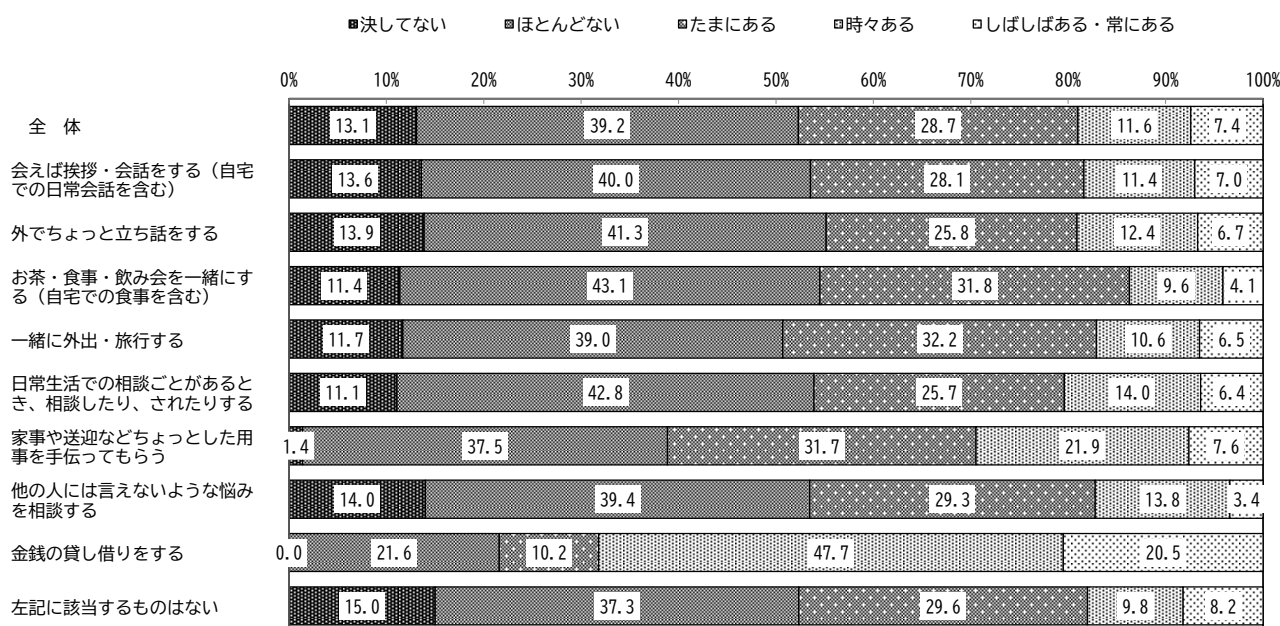


図 2-31

(4) 過去属していた学校・職場の友人・同僚

過去属していた学校・職場の友人・同僚との交流度合いと孤独感との関係については、大きな差はみられない。

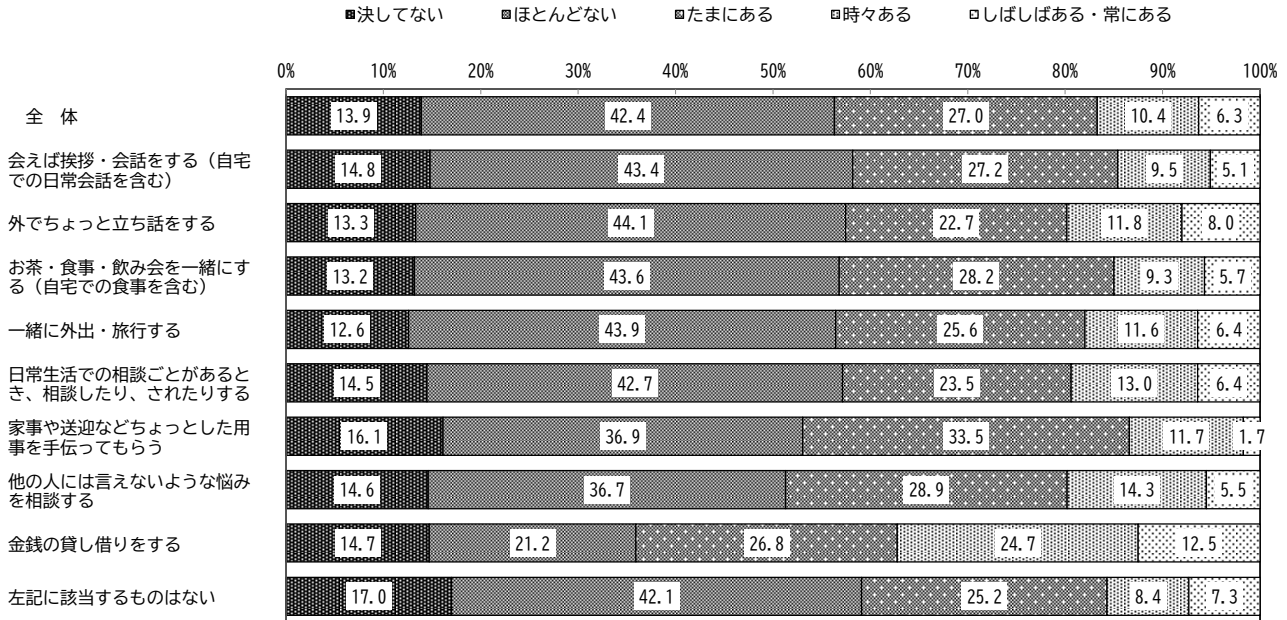


図 2-32

(5) 居住地域の近隣の人

居住地域の近隣の人との交流度合いと孤独感との関係については、大きな差はみられない。

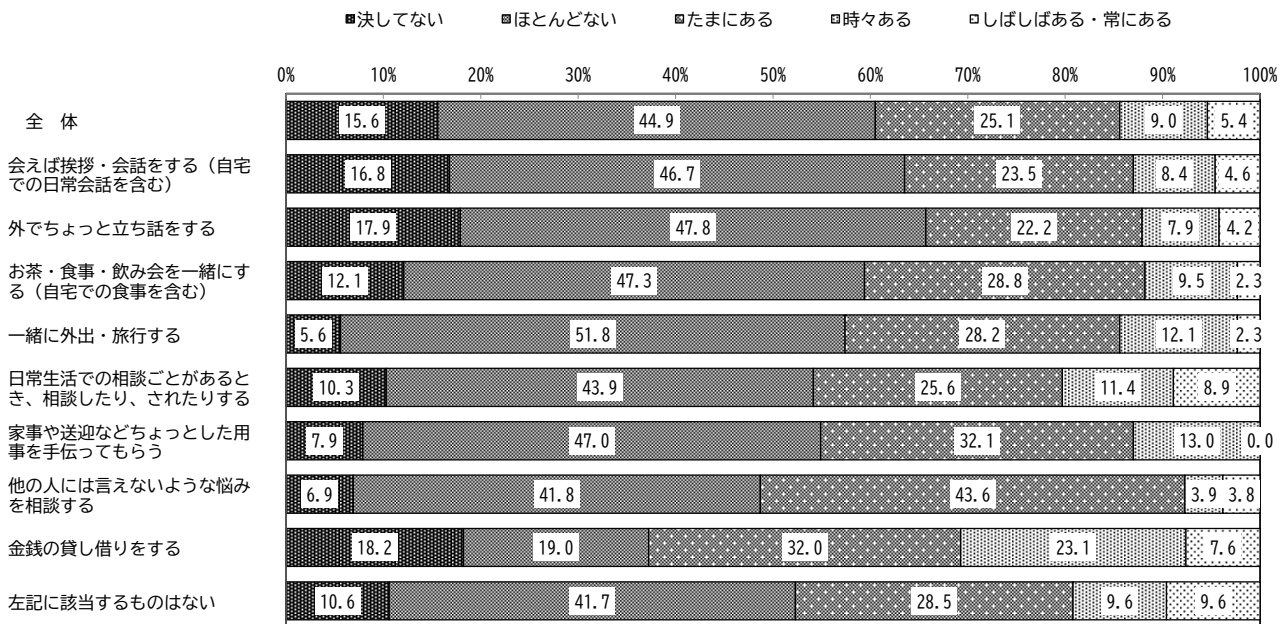


図 2-33

(6) 居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治体活動など)

居住地域における活動の仲間と孤独感との関係については、大きな差はみられない。

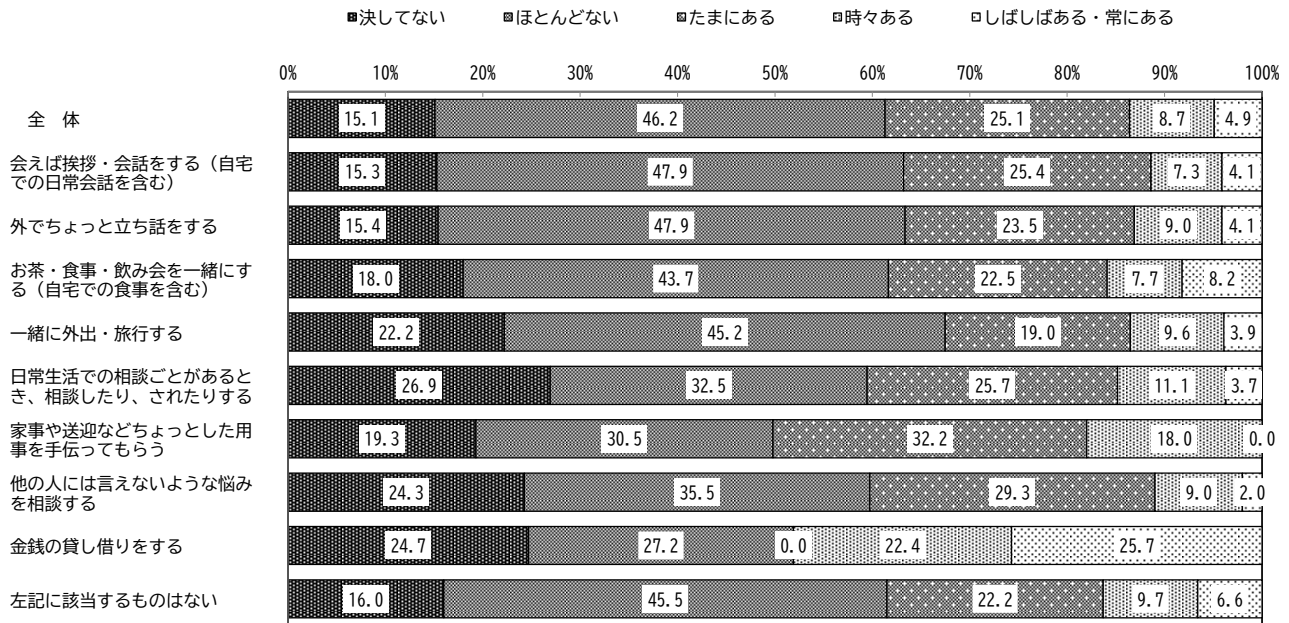


図 2-34

(7) 学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人

学校や職場以外の趣味・地域活動等における友人・知人と孤独感との関係については、大きな差はみられない。

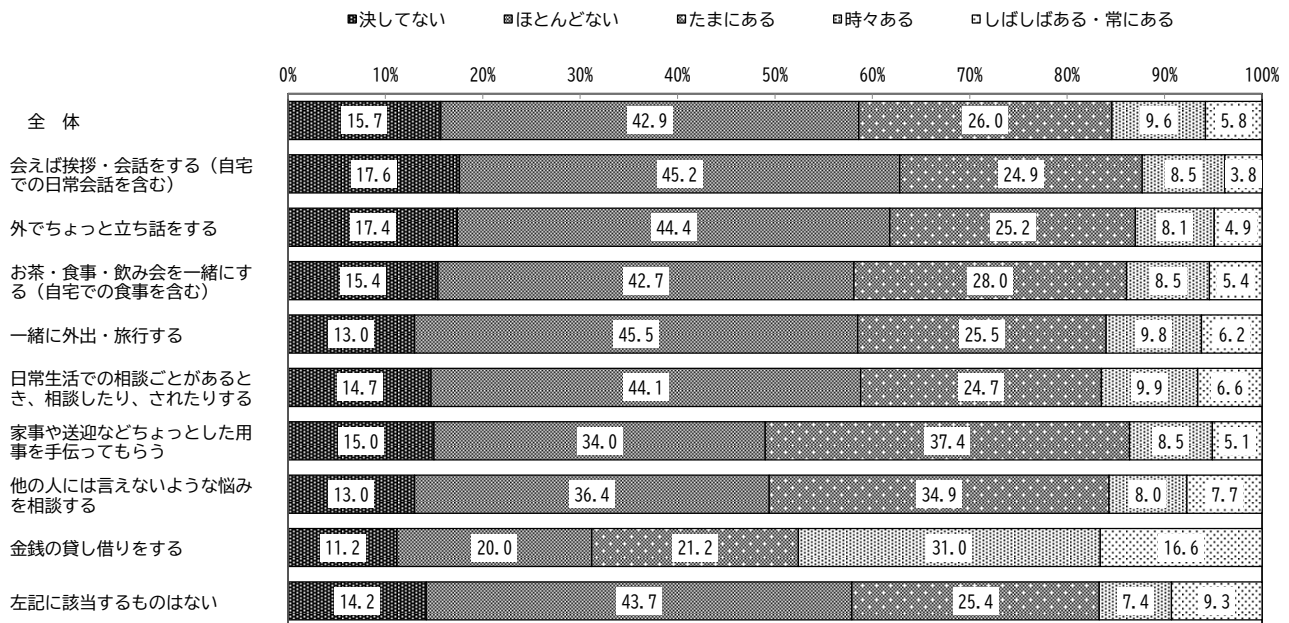


図 2-35

(8) ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人

ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人と孤独感との関係については、大きな差はみられない。

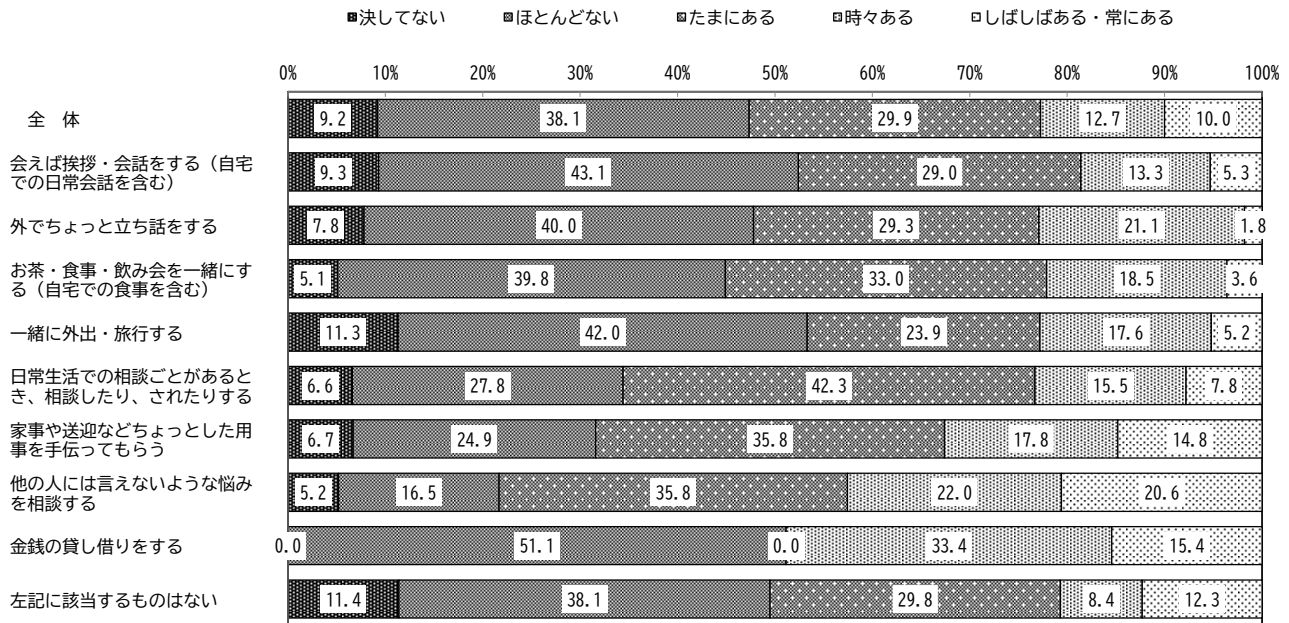


図 2-36

2.2.5 今後の社会参加活動参加意向と孤独の度合いについて【問 12】×【問 8】

今後の社会参加活動意向と孤独感との関係については、大きな差はみられない。

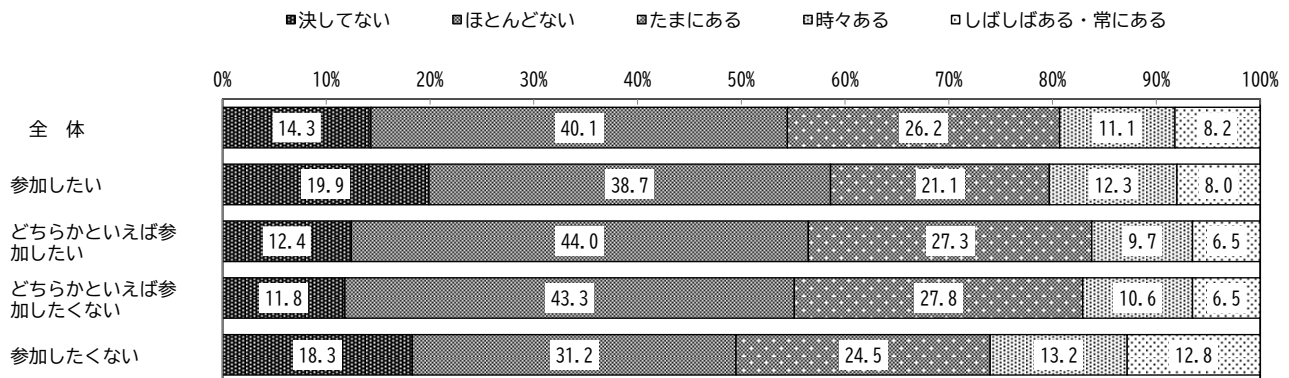


図 2-37

2.2.6 2022年1年間の社会参加活動状況と孤独の度合いについて【問13】×【問8】

2022年1年間の社会参加活動と孤独感の関係については、社会参加活動を行っている場合は『ない』が63.4%で、社会参加活動を行っていない回答者よりも孤独感が低い。

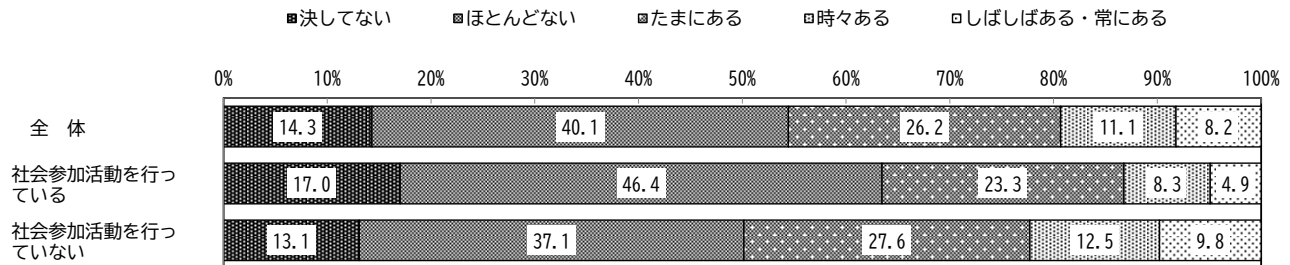


図 2-38

2.2.7 社会参加活動をしない理由と孤独の度合いについて【問15】×【問8】

社会参加活動をしない理由と孤独感との関係については、大きな差はみられない。

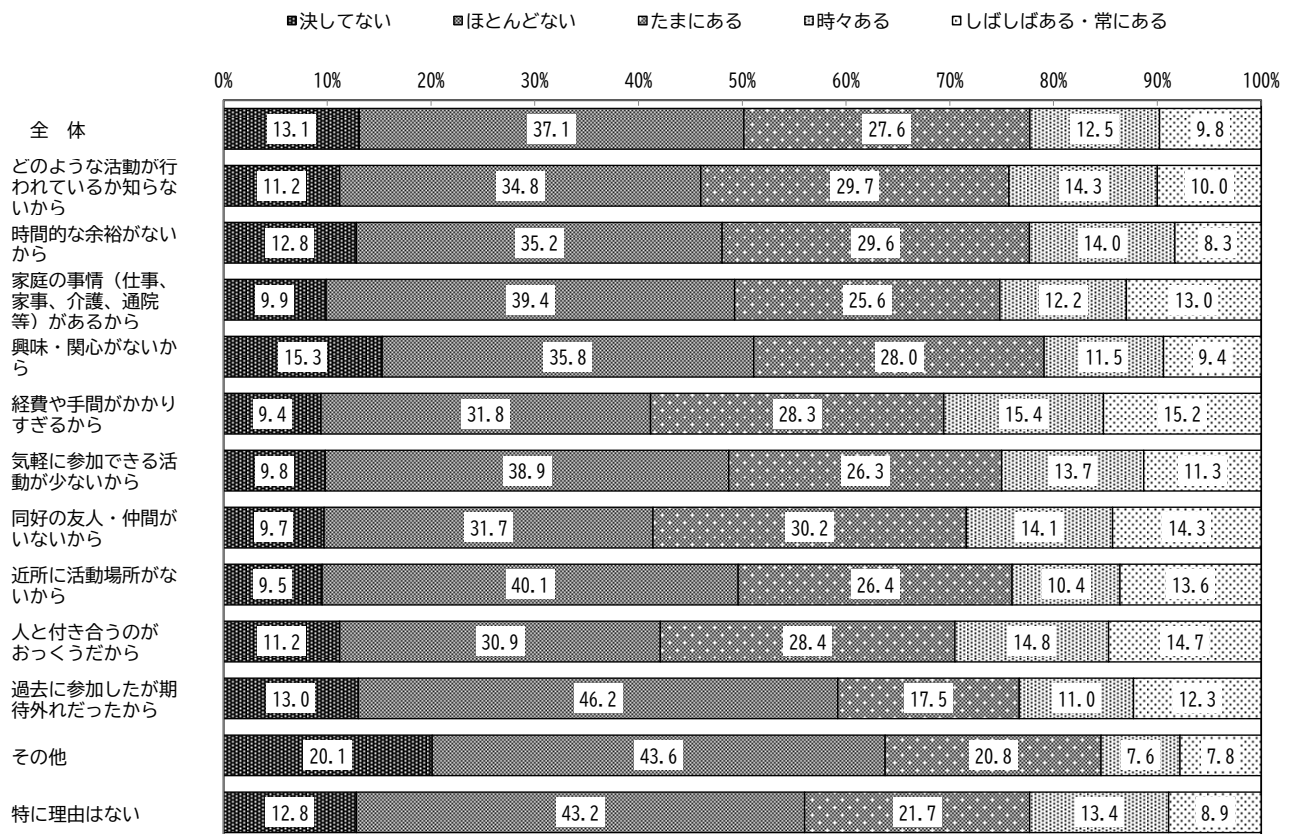


図 2-39

2.3 他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に関する意識等

2.3.1 対面コミュニケーションの状況【問 9】

「同居の家族」とのコミュニケーション頻度が「週5日以上」の人は 90.4%、「現在属している学校・職場の友人・同僚」とのコミュニケーション頻度が「週5日以上」の人は 23.0%と、他の人物よりもコミュニケーション頻度が高い。「居住地域の近隣の人」とのコミュニケーション頻度は、「月1～3日」「年に数回」「まったくない」の人がとも約2割となっている。また、「居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)」「学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人」については約 4 割が、「ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人」については 74.3%の人が、「そのような人はいない」であった。

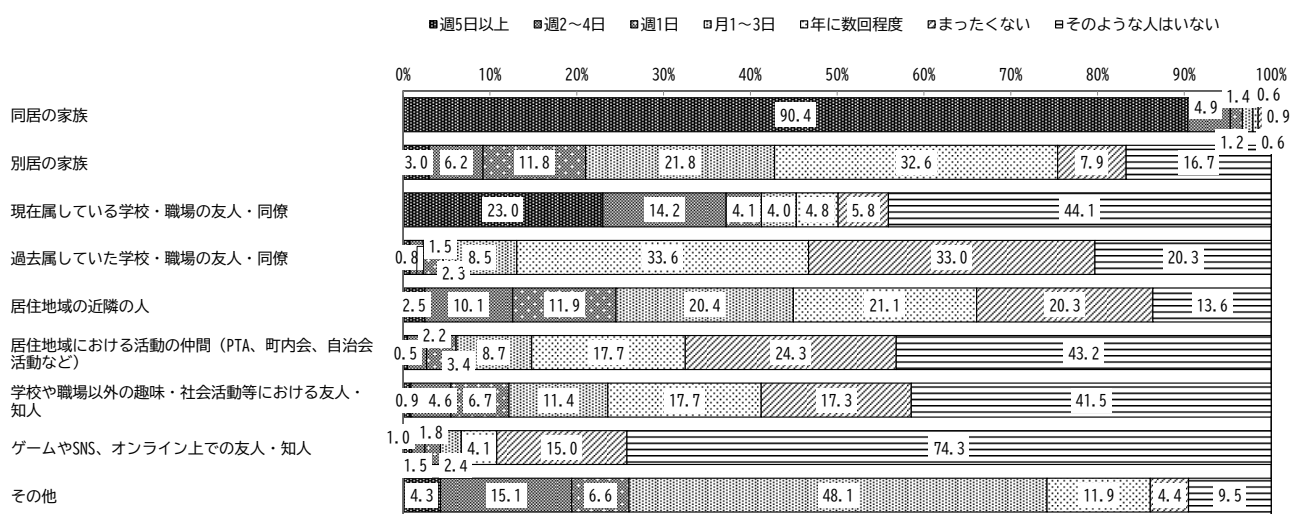
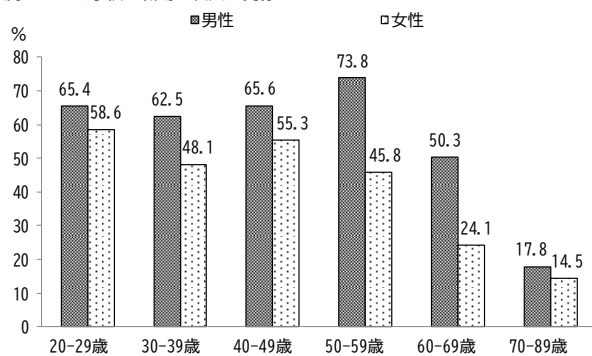


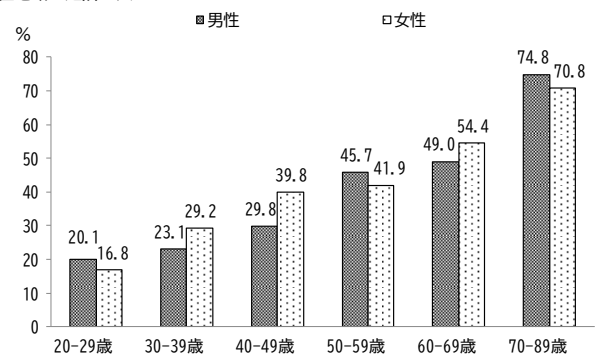
図 2-40

月 1 日以上対面コミュニケーションをとっている場合において、性別と年代で差異があるかを確認した。「現在属している学校・職場の友人・同僚」はいずれの年代も男性が女性を上回り、50-59 歳と 60-69 歳以上で差が開いている。一方で、「居住地域の近隣の人」は年齢を重ねるごとに割合が高く、また 30-39 歳、40-49 歳、60-69 歳は女性が男性を上回っている。「居住地域における活動の仲間」は、20-29 歳から 60-69 歳は 1 割台以下にとどまるのに対し、70 代以上は男性が 35.6%、女性が 23.2%を占めている。「学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人」は、60-69 歳の女性、70-89 歳の男性・女性の割合が高い傾向にある。

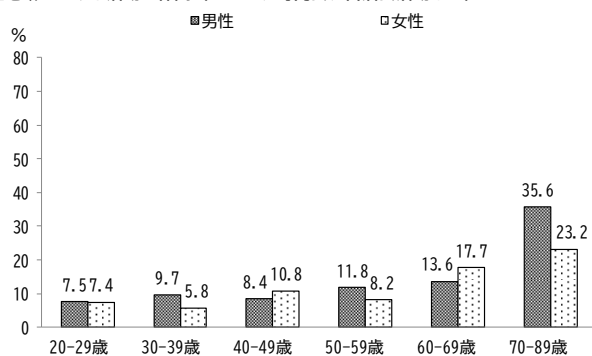
3. 現在属している学校・職場の友人・同僚



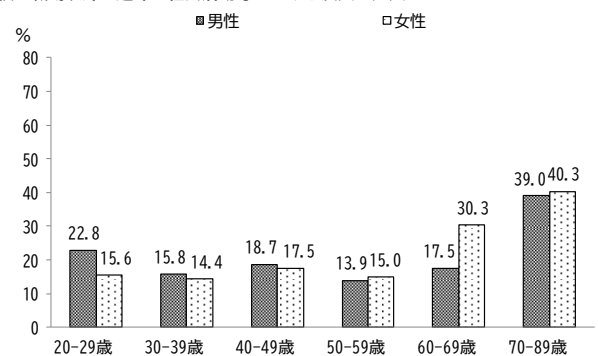
5. 居住地域の近隣の人



6. 居住地域における活動の仲間 (PTA、町内会、自治会活動など)



7. 学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人



8. ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人

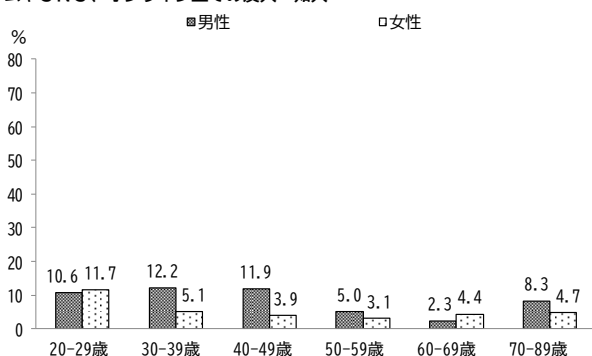


図 2-41

2.3.2 非対面コミュニケーションの状況【問 10】

非対面コミュニケーションについて、「週 5 日以上」は「同居の家族」が 27.2%と他の人的区分よりも頻度が高い。

また、「現在属している学校・職場の友人・同僚」、「居住地域の近隣の人」、「居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)」、「学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人」、「ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人」では、「まったくない」、「そのような人はいない」の合計が 5 割～9 割近くを占めていた。

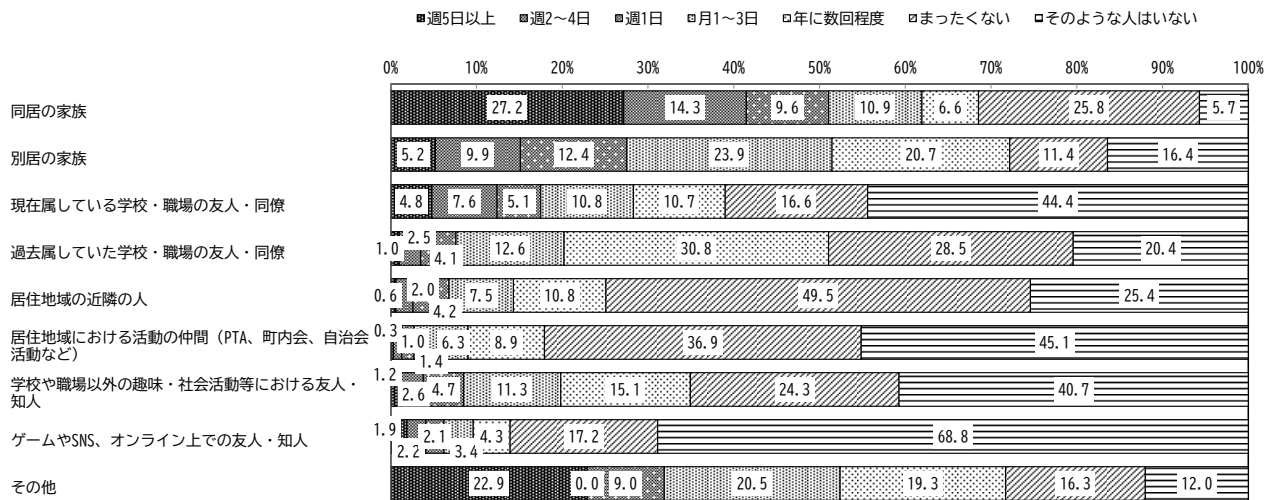
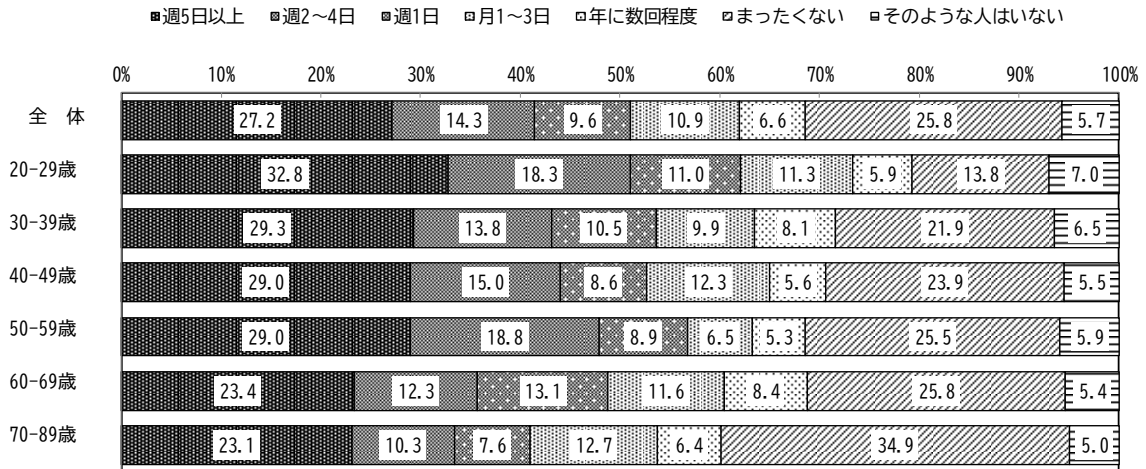


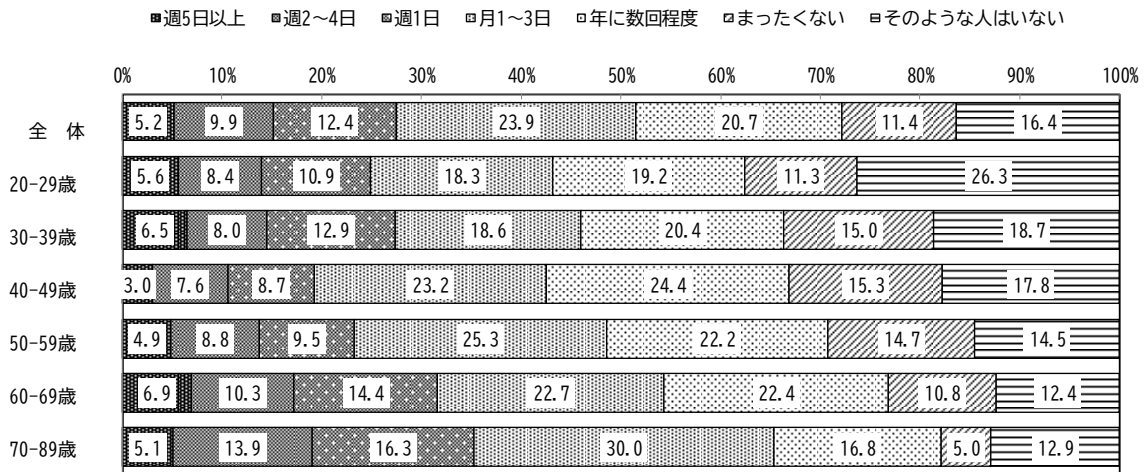
図 2-42

「まったくない」、「そのような人はいない」の合計が 5 割よりも低かった「同居の家族」「別居の家族」「過去属していた学校・職場の友人・同僚」について、年代別に見ると、「同居の家族」では、「まったくない」、「そのような人はいない」の合計は年齢が若いほど低く、週 2 日以上非対面でコミュニケーションをとる割合は、20-29 歳が最も高く 51.1%であった。反対に「別居の家族」では、「まったくない」、「そのような人はいない」の合計は年齢が上になるほど低く、週 2 日以上非対面でコミュニケーションをとる割合は、70-89 歳が最も高く 19.0%であった。「過去属していた学校・職場の友人・同僚」では、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳では「まったくない」、「そのような人はいない」の合計が 5 割を超えた。

1. 同居の家族



2. 別居の家族



4. 過去属していた学校・職場の友人・同僚

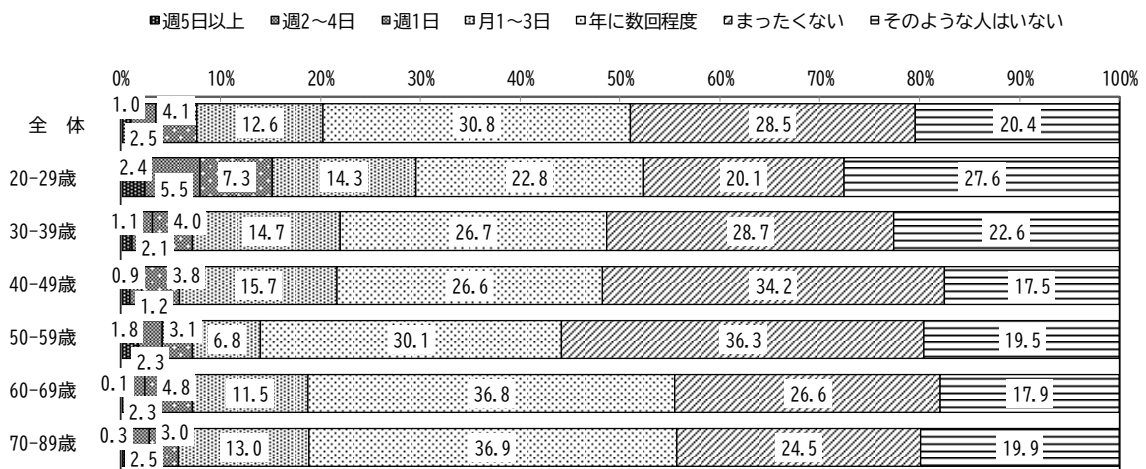


図 2-43

2.3.3 人との付き合い方【問 11】

(1) 同居の家族

「一緒に外出・旅行する」が 67.1%で最多、次いで「お茶・食事・飲み会を一緒にする(自宅での食事を含む)」が 64.0%、「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 58.7%であった。

「外でちょっと立ち話をする」「金銭の貸し借りをする」「他の人には言えないような悩みを相談する」の 3 項目については低いものの、それ以外の項目は 5 割を超えていた。

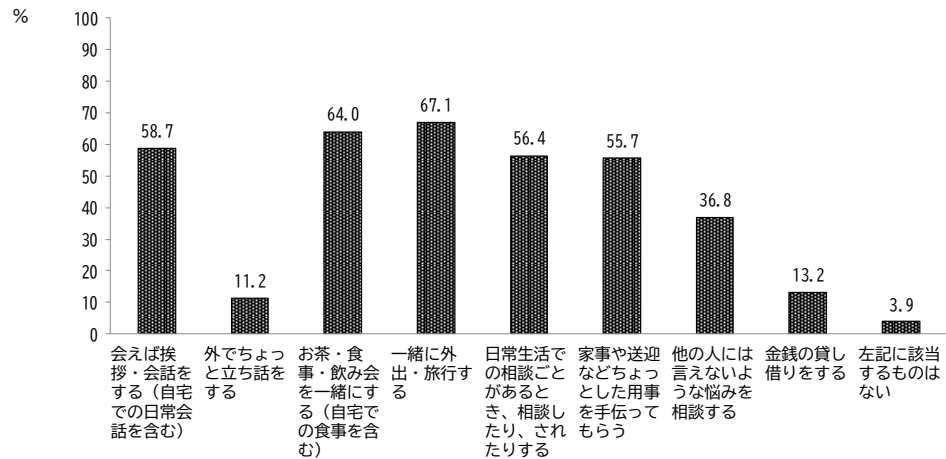


図 2-44

(2) 別居の家族

「お茶・食事・飲み会を一緒にする(自宅での食事を含む)」が 47.6%で最多、次いで「日常生活で相談ごとがあるとき、相談したりされたりする」が 40.4%、「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 40.1%であった。

同居の家族よりは上位項目の回答が分散したものの、金銭の貸し借りは別居の家族でも 5.4%にとどまった。

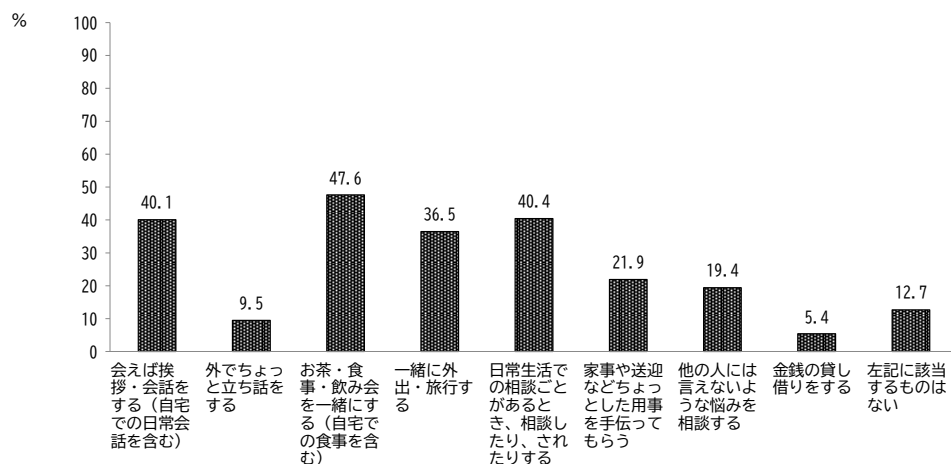


図 2-45

(3) 現在属している学校・職場の友人・同僚

「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 58.1%で最多、それ以外の項目は 3 割以下にとどまった。

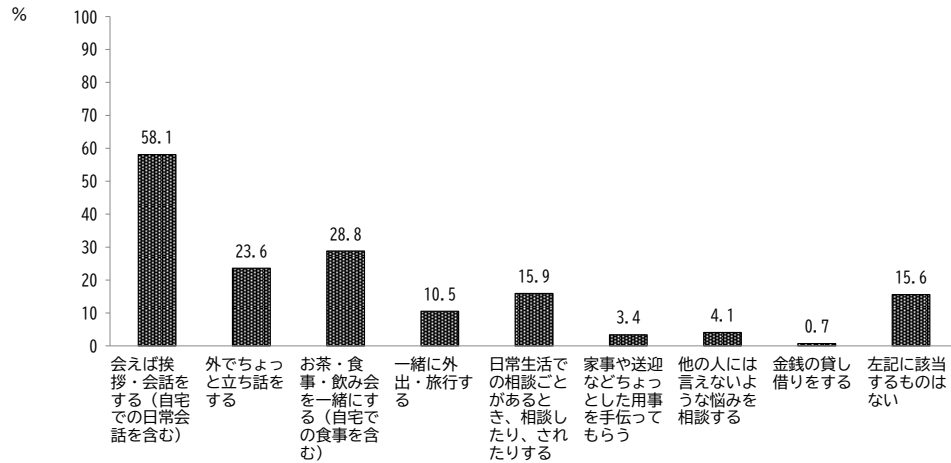


図 2-46

(4) 過去属していた学校・職場の友人・同僚

「お茶・食事・飲み会を一緒にする(自宅での食事を含む)」が 41.9%で最多、次いで「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 40.1%、それ以外の項目は 3 割弱にとどまった。

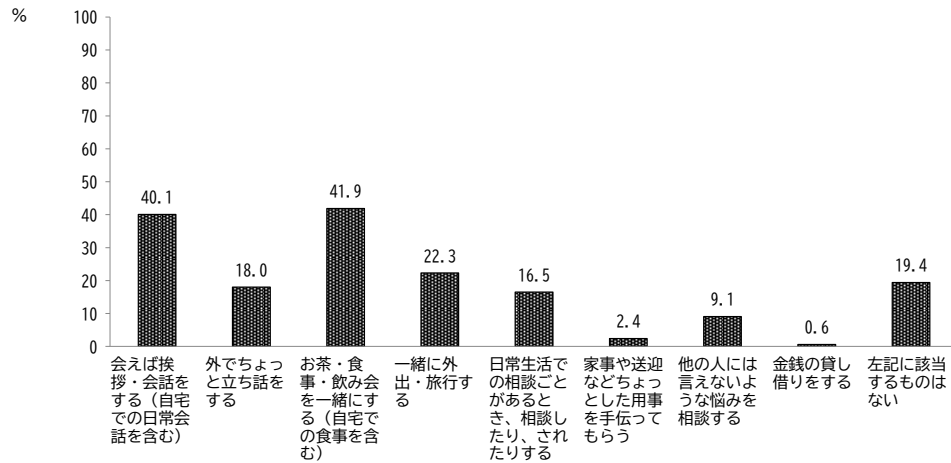


図 2-47

(5) 居住地域の近隣の人

「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 62.7%で最多、次いで「外でちょっと立話をする」が 47.1%、それ以外の項目は概ね 1 割にとどまった。

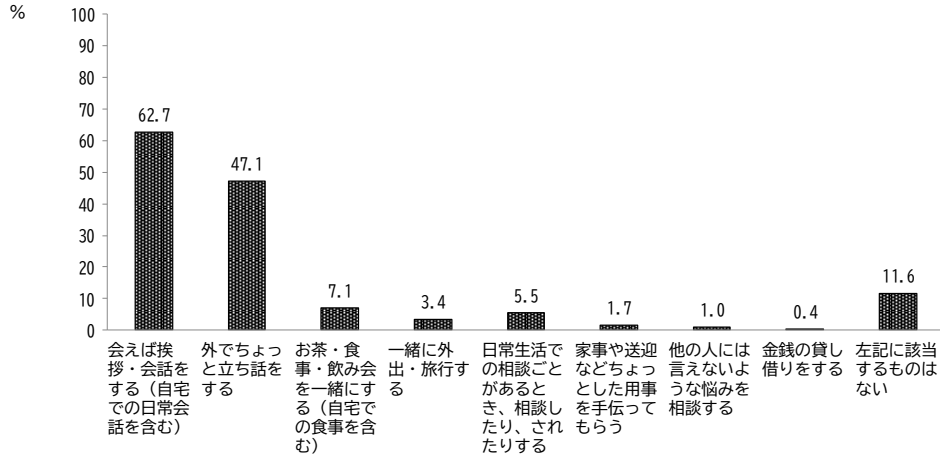


図 2-48

(6) 居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)

「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 55.6%で最多、次いで「外でちょっと立話をする」が 40.1%、それ以外の項目は概ね 1 割にとどまった。

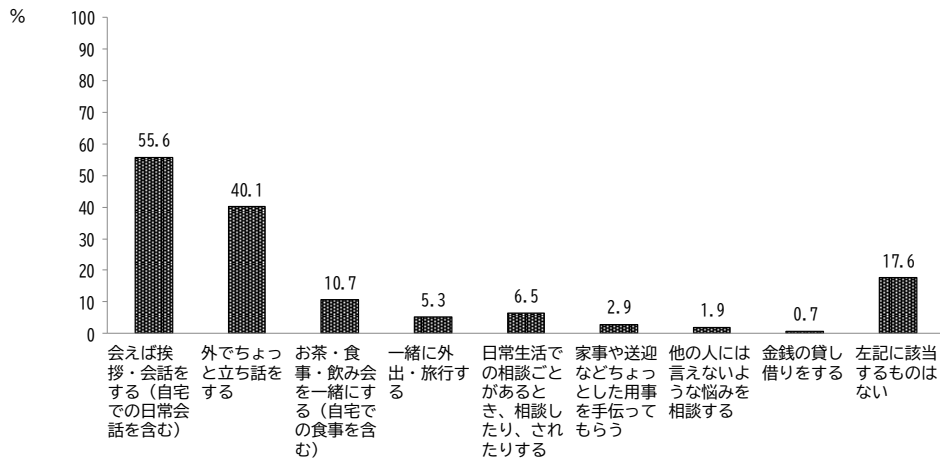


図 2-49

(7) 学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人

「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 46.9%で最多、次いで「お茶・食事・飲み会を一緒にする(自宅での食事を含む)」が 35.5%であった。

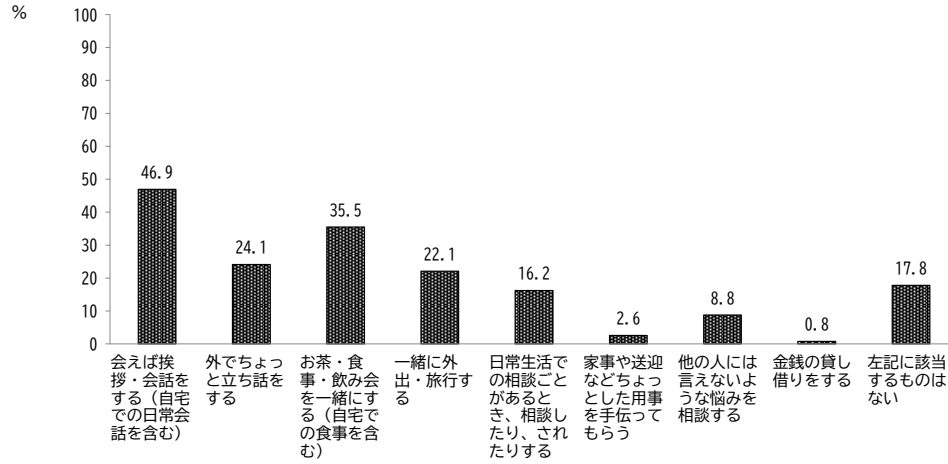


図 2-50

(8) ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人

「会えば挨拶・会話をする(自宅での日常会話を含む)」が 23.0%の回答があるものの、「左記に該当するものはない」が 47.8%と突出している。

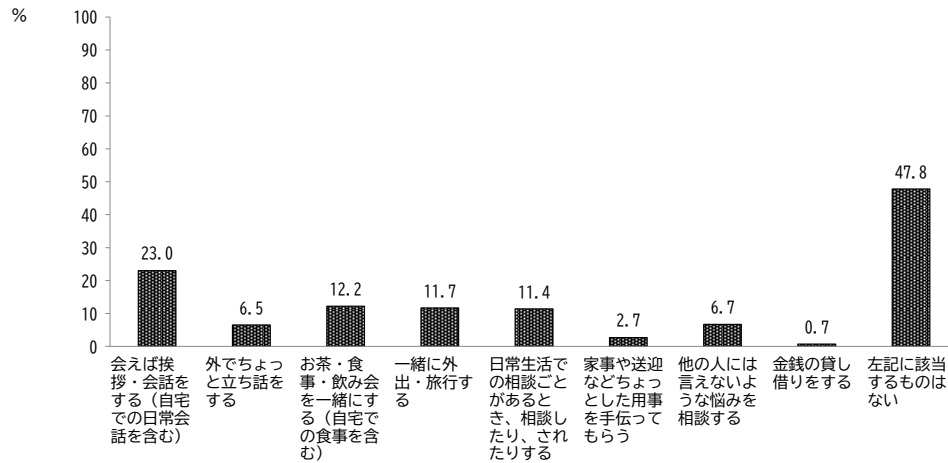


図 2-51

2.4 社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等

2.4.1 今後の社会参加活動参加意向【問 12】

全体では、「どちらかといえば参加したくない」が 39.3%で最多、次いで「どちらかといえば参加したい」が 26.5%、「参加したくない」が 24.8%であった。「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合算すると 35.9%に参加意向がある。

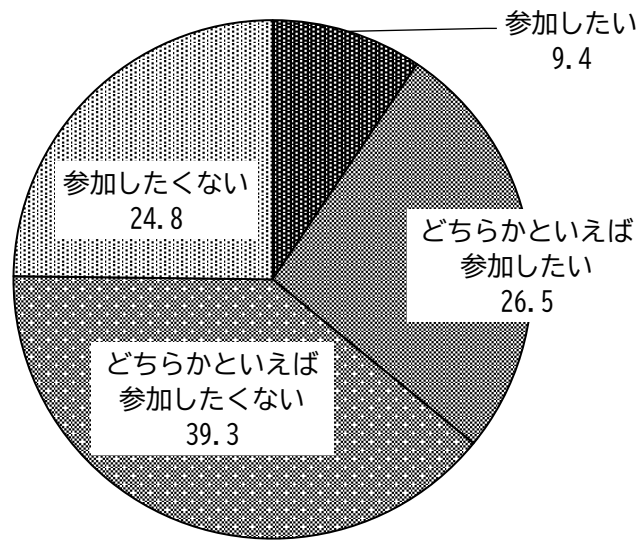


図 2-52

性別と年代別にみると、男女ともに、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と回答した割合が最も高いのは70-89歳であり、男性は61.6%、女性は44.0%であった。一方、「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」と回答した割合が最も高いのは、男性は40-49歳で70.7%、女性は30-39歳で75.6%であった。20-29歳は「参加したい」と答えた割合が男性で8.0%、女性で7.1%であり、男性は30-59歳と同程度、女性は30-59歳よりもやや高い傾向となった。

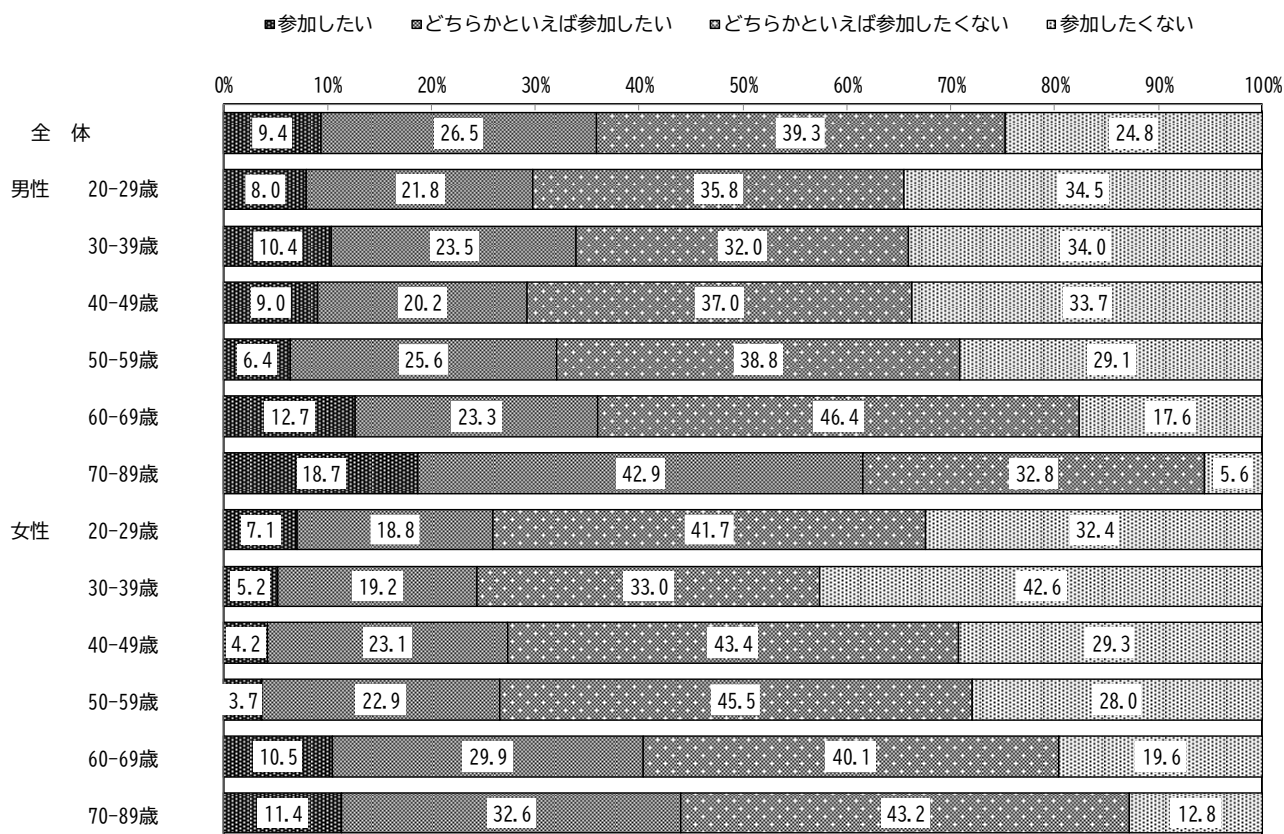


図 2-53

2.4.2 2022年1年間の社会参加活動状況【問13】

2022年1年間の社会参加活動状況について、全体では「社会参加活動を行っていない」が68.0%を占めた。

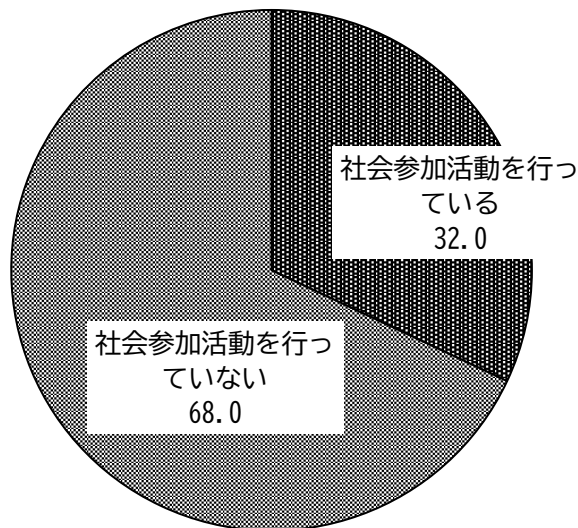


図 2-54

性別と年代別に見ると、男女ともに、「社会参加活動を行っている」と回答した割合が最も高いのは70-89歳であり、男性は56.1%、女性は50.9%であった。年齢を重ねるごとに参加している割合は高く、「社会参加活動を行っている」と回答した割合がもっとも低いのは男女ともに20-29歳であった。

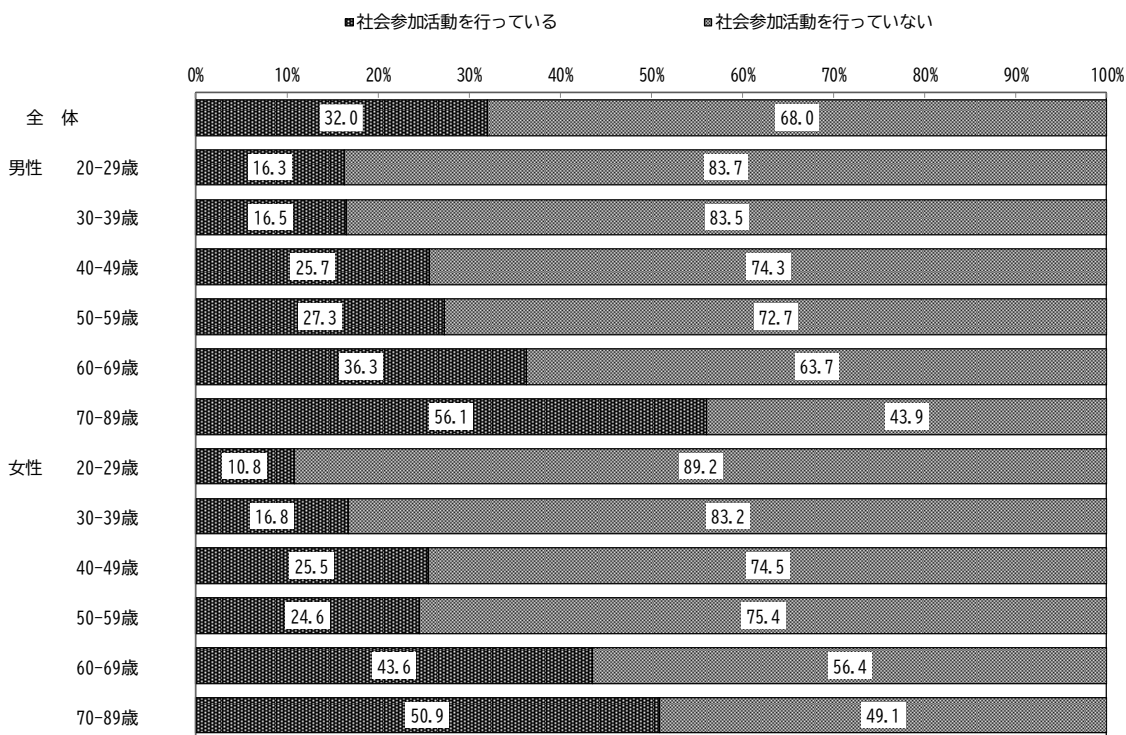


図 2-55

地域規模別にみると、「社会参加活動を行っている」と回答した割合が最も高いのはその他の市町村であり、36.0%であった。

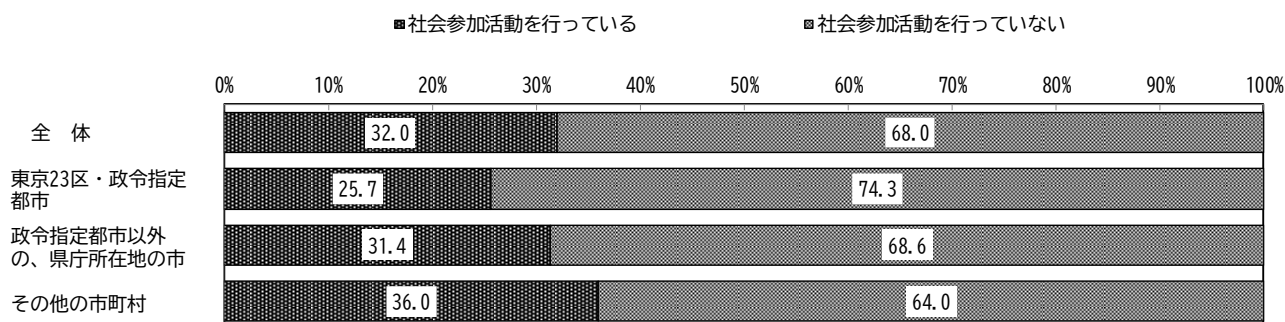


図 2-56

問9の対面でのコミュニケーション頻度について、いずれかの相手のうち最も高い頻度と社会参加活動の有無の関係性をみると、対面での交流頻度が高い人ほど、社会参加活動を行っている割合が高かった。

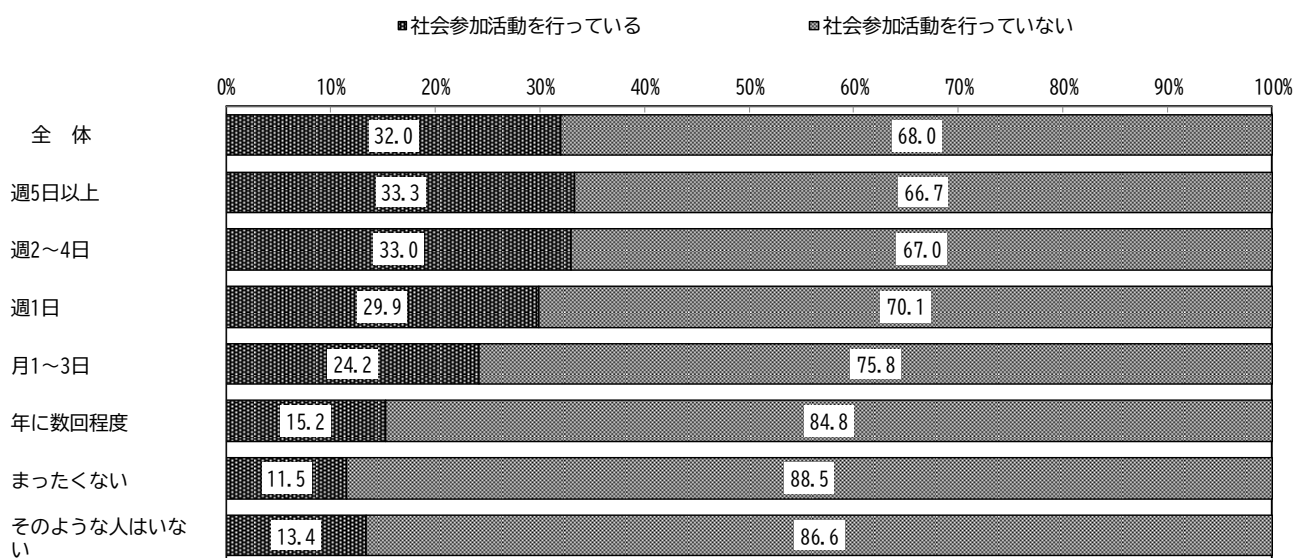
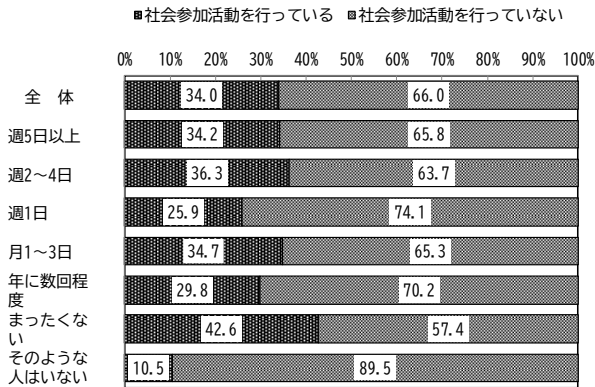


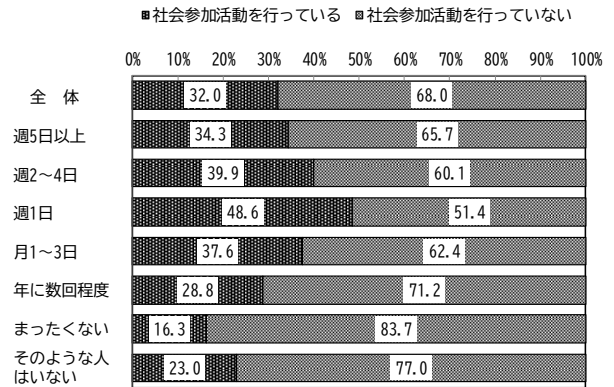
図 2-57

相手別にみると、「居住地域の近隣の人」、「居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)」との交流頻度が高い人は、社会参加活動を行っている割合が高かった。また、「同居の家族」や「現在属している学校・職場の友人・同僚」との交流頻度による差はほとんど見られなかった。

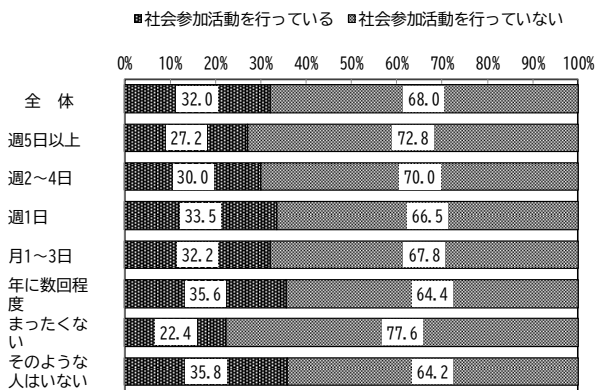
1.同居の家族



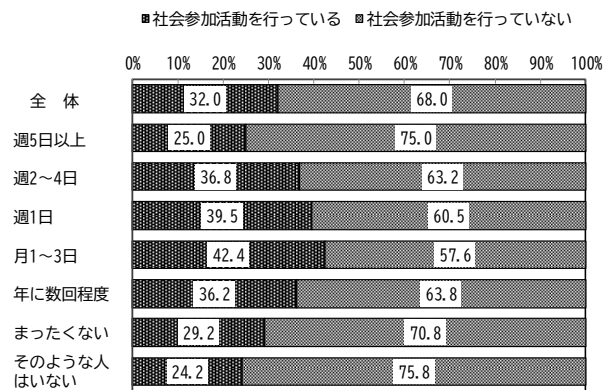
2.別居の家族



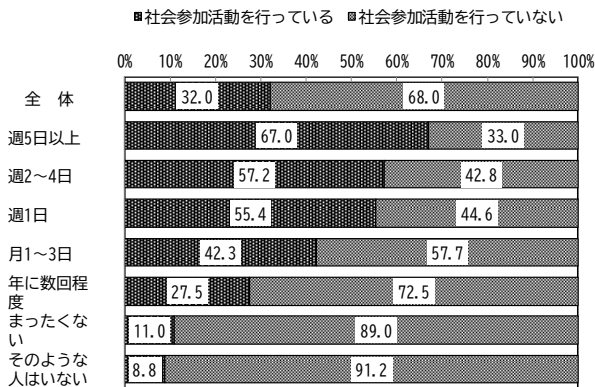
3.現在属している学校・職場の友人・同僚



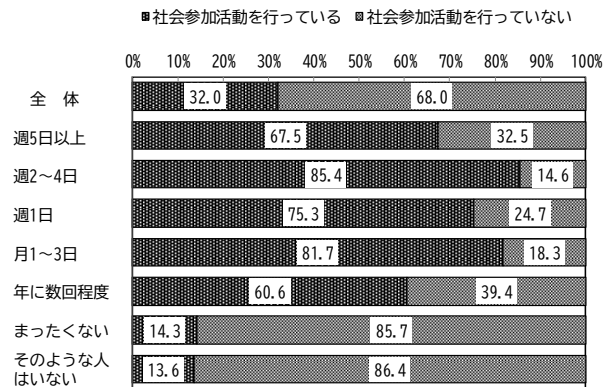
4.過去属していた学校・職場の友人・同僚



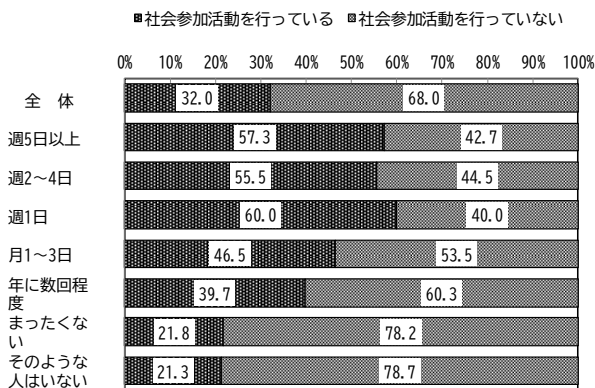
5.居住地域の近隣の人



6.居住地域における活動の仲間（PTA、町内会、自治会活動など）



7.学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人



8.ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人

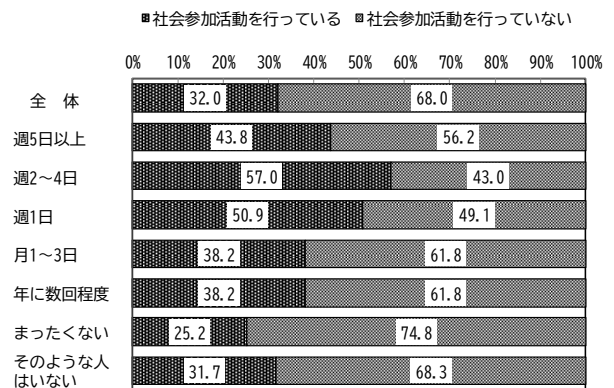


図 2-58

問 10 の非対面でのコミュニケーション頻度について、いずれかの相手のうち最も高い頻度と社会参加活動の有無の関係性をみると、非対面での交流頻度が高い人ほど、社会参加活動を行っている割合が高かった。

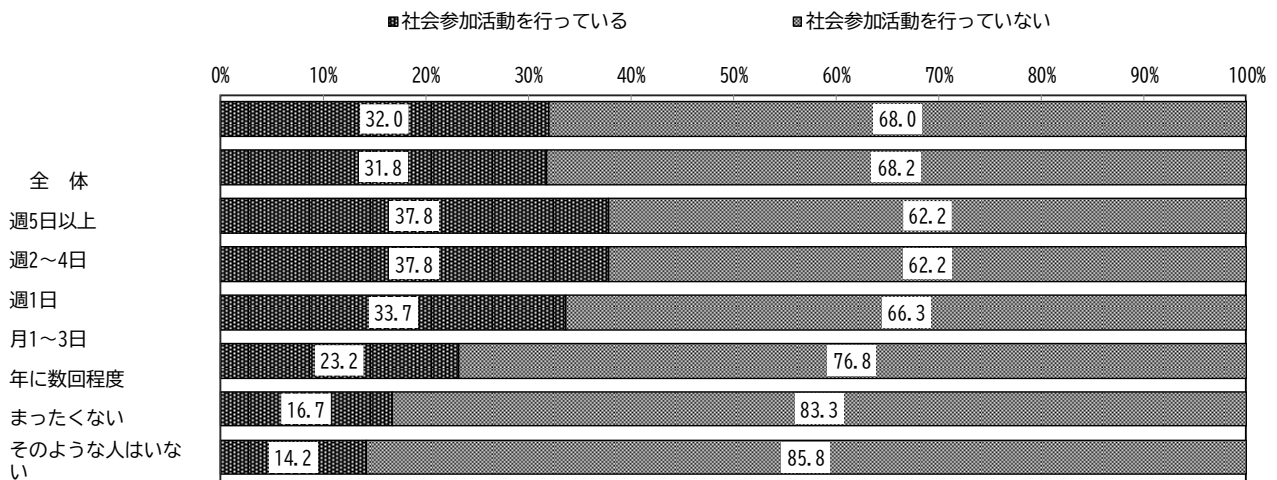
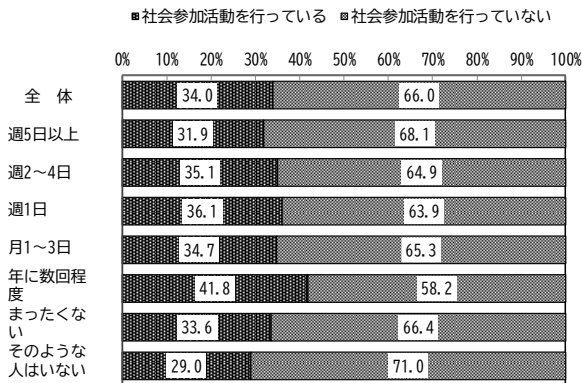


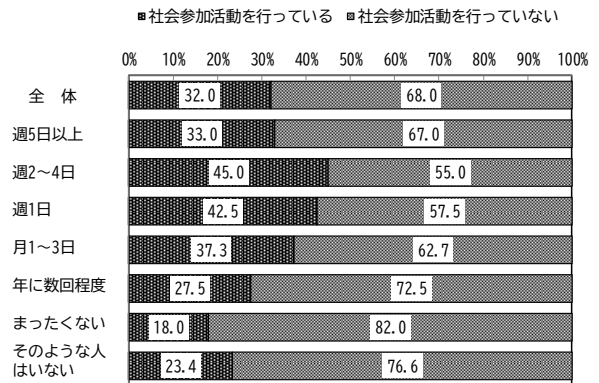
図 2-59

相手別にみると、「居住地における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)」と「週 2~4 日」交流する人が最も社会参加活動を行っている割合が高く、90.2%であった。「居住地の近隣の人」のみで見ると、「週 2~4 日」交流する人が社会参加活動を行っている割合が高く、67.8%であった。

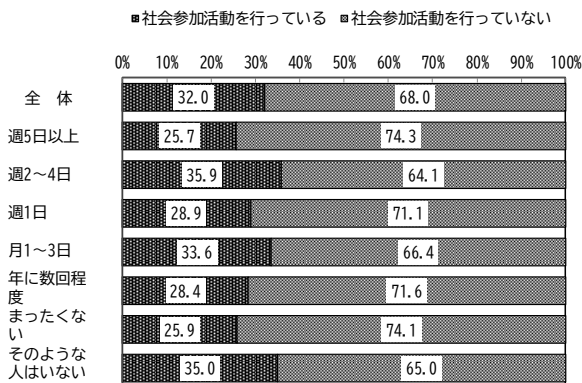
1.同居の家族



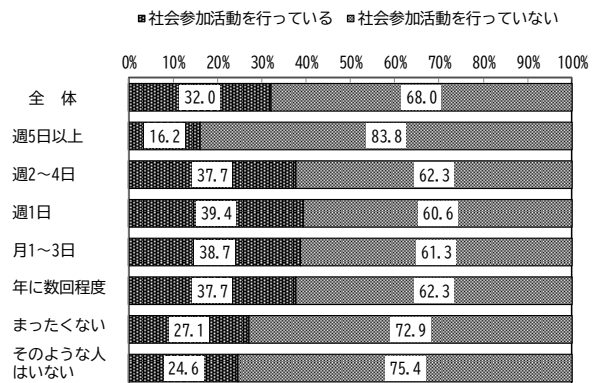
2.別居の家族



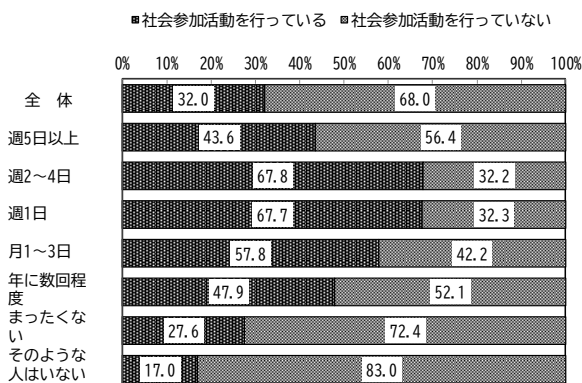
3.現在属している学校・職場の友人・同僚



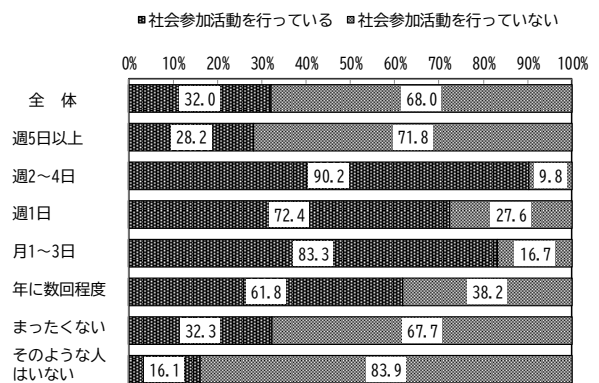
4.過去属していた学校・職場の友人・同僚



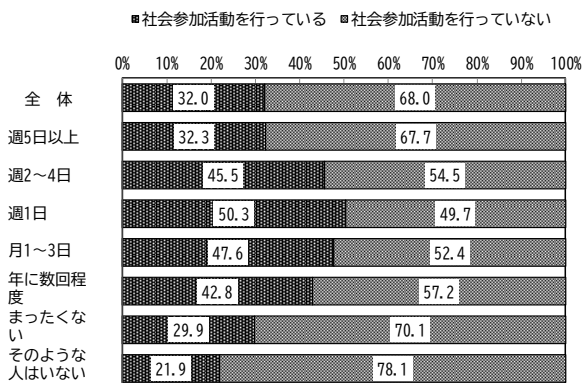
5.居住地域の近隣の人



6.居住地域における活動の仲間（PTA、町内会、自治会活動など）



7.学校や職場以外の趣味・社会活動等における友人・知人



8.ゲームやSNS、オンライン上での友人・知人

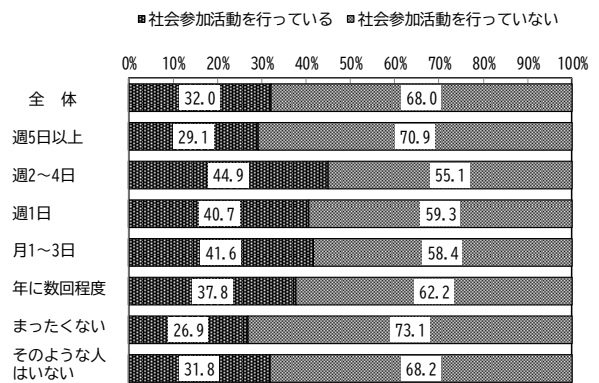


図 2-60

2.4.3 社会参加活動参加のきっかけ【問 14】

社会参加活動参加のきっかけは、全体では「地域内の広報などを通じて知り、自分で連絡をとった」が43.3%で最多、次いで「活動をしている者から勧誘された」が42.8%であった。

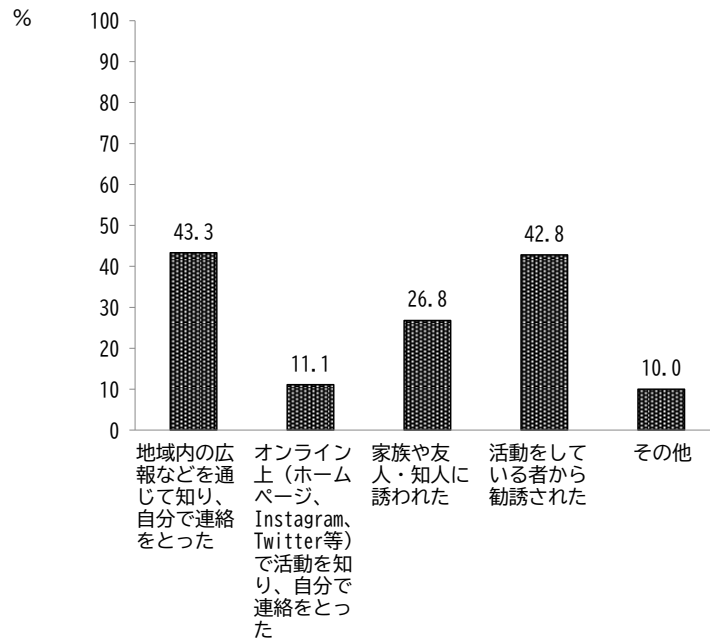


図 2-61

年代別に見ると、20-29歳では「オンライン上(ホームページ、Instagram、Twitter等)で活動を知り、自分で連絡をとった」が56.5%と最も高かった。30-39歳、40-49歳は「地域内の広報などを通じて知り、自分で連絡をとった」が最も高く、30-39歳で40.4%、40-49歳で41.7%であった。

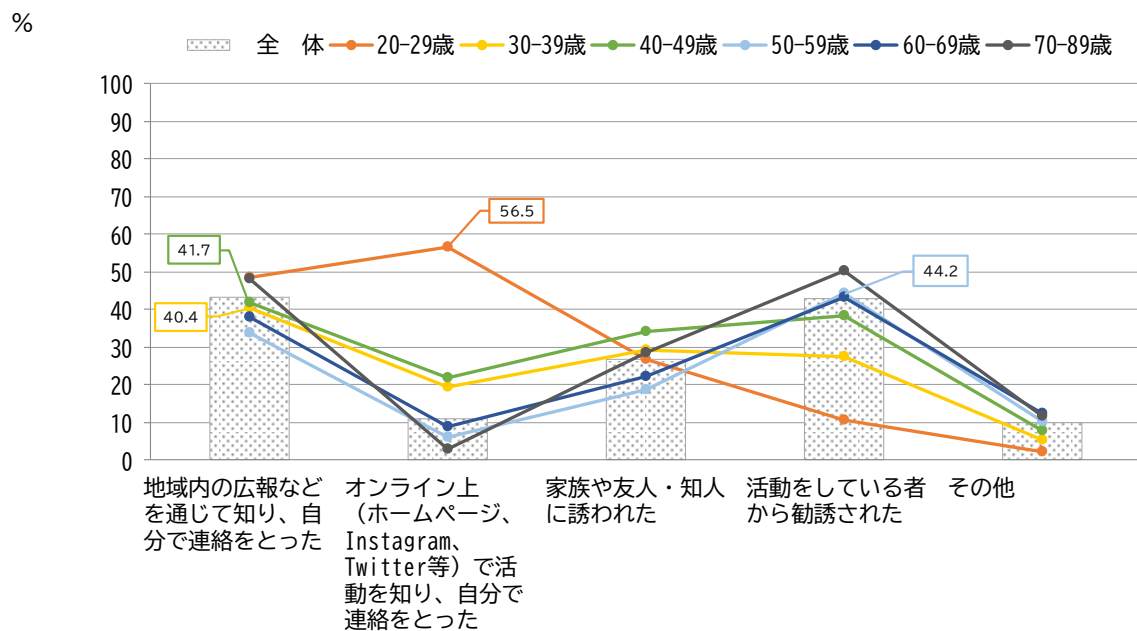


図 2-62

2.4.4 社会参加活動をしない理由【問 15】

社会参加活動をしない理由は、全体では「興味・関心がないから」が 33.1%で最多、次いで「時間的な余裕がないから」が 30.5%、「どのような活動が行われているか知らないから」が 26.6%、「人と付き合うのがおっくうだから」が 25.0%であった。

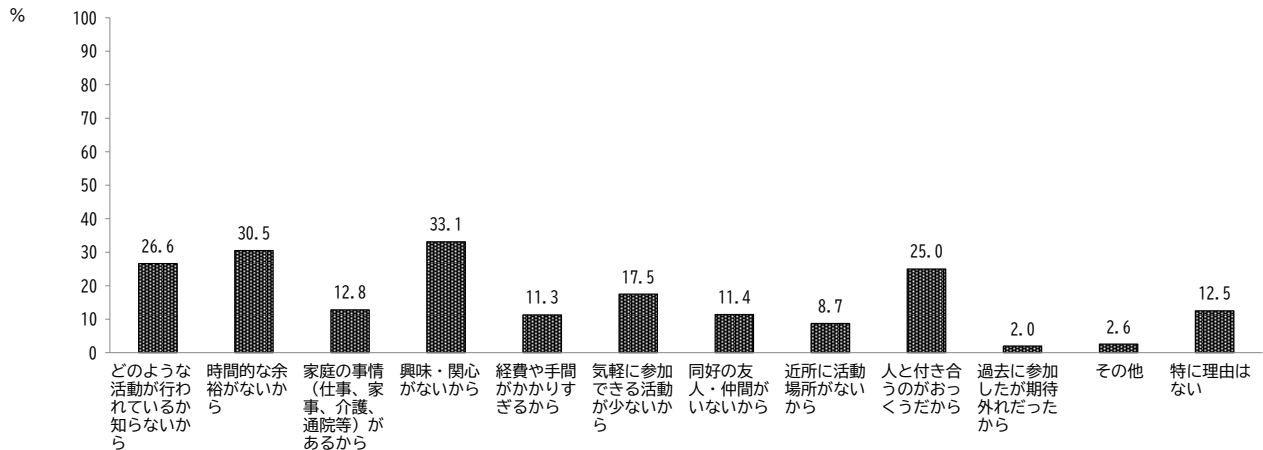


図 2-63

社会参加活動をしない理由を、問 12 今後の社会参加活動参加意向別にみると、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と回答した人の社会参加活動をしていない理由として高かったのは、「どのような活動が行われているか知らないから」(45.5%)、「時間的な余裕がないから」(34.7%)、「気軽に参加できる活動が少ないから」(34.1%)であった。

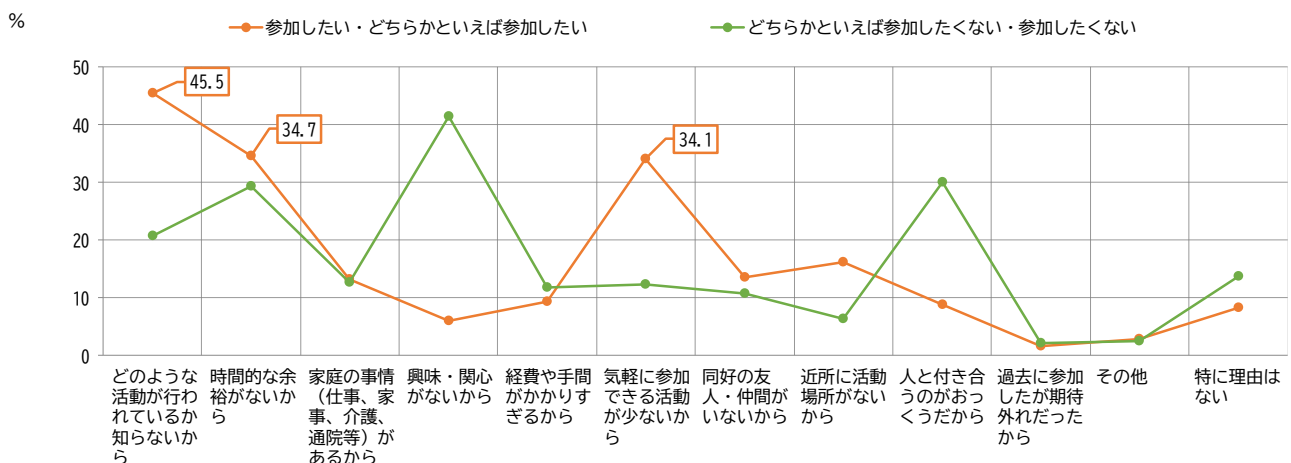


図 2-64

2.4.5 具体的な社会参加活動参加状況【問 16-1】

具体的な社会参加活動の参加状況は、いずれの活動も「現在参加活動していない」が「現在参加をしている」を上回っている。「現在参加している」活動では、「PTA・自治会・町内会などの活動」が 23.7%と突出していた。

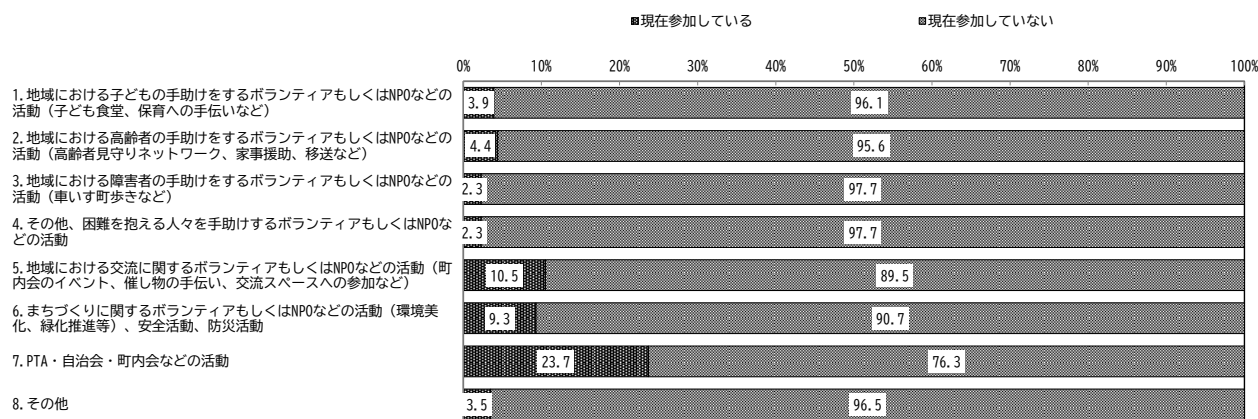
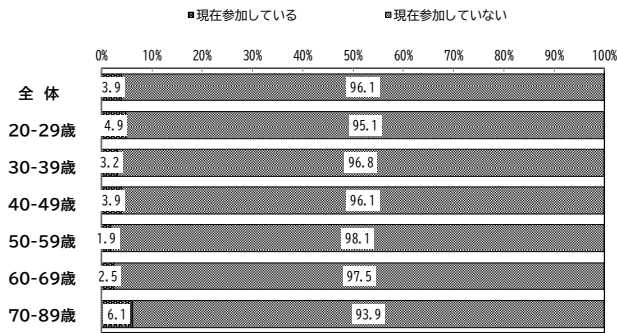


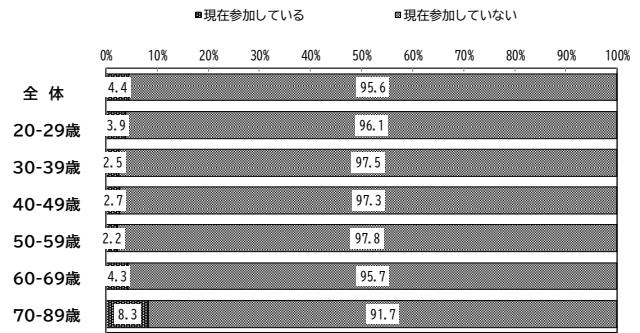
図 2-65

具体的な社会参加活動の参加状況を年代別にみると、「地域における子どもの手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)」、「地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)」、「地域における障害者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(車いす町歩きなど)」、「その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくは NPO などの活動」は、年代別の差は見られなかった。一方、「地域における交流に関するボランティアもしくは NPO などの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)」、「まちづくりに関するボランティアもしくは NPO などの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動」、「PTA・自治会・町内会などの活動」は、年代が上になるほど「現在参加している」と回答した割合が高かった。特に「PTA・自治会・町内会などの活動」は、70-89 歳で「現在参加している」と回答した割合は 40.4%と高い結果になった。

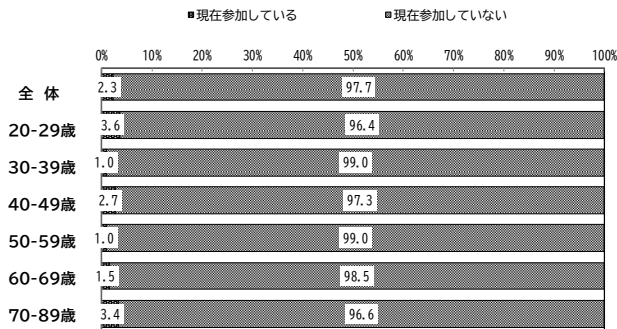
1.地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)



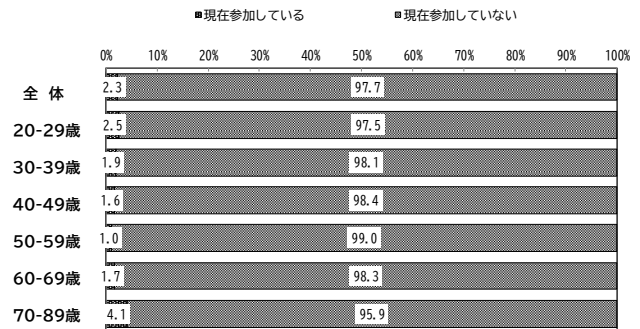
2.地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)



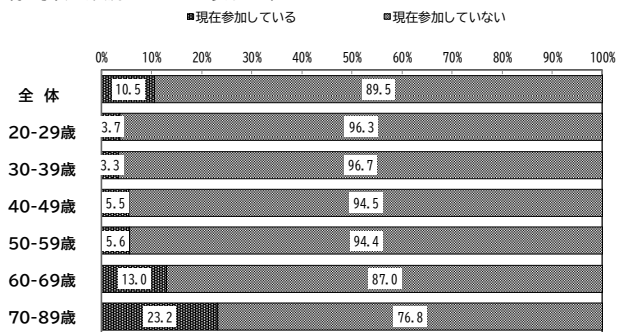
3.地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)



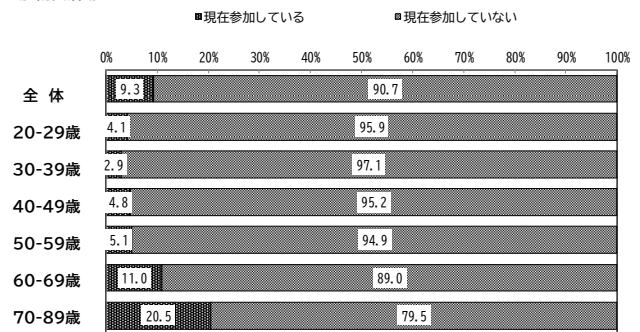
4.その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動



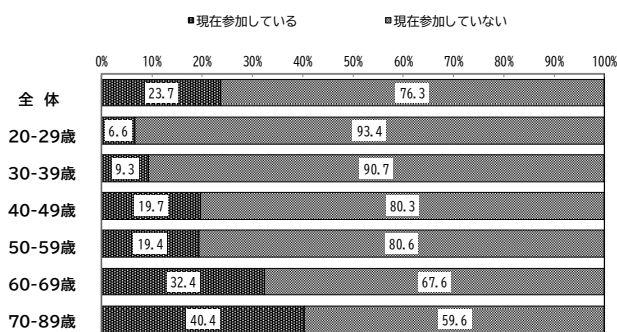
5.地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)



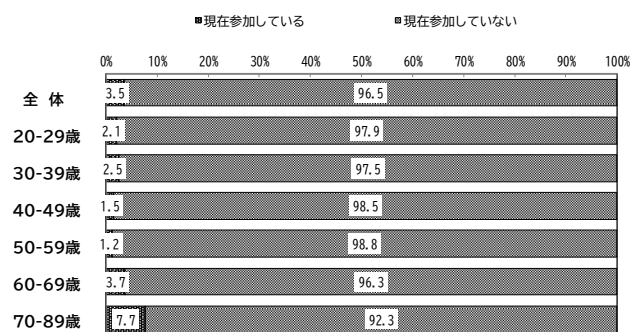
6.まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動



7.PTA・自治会・町内会などの活動

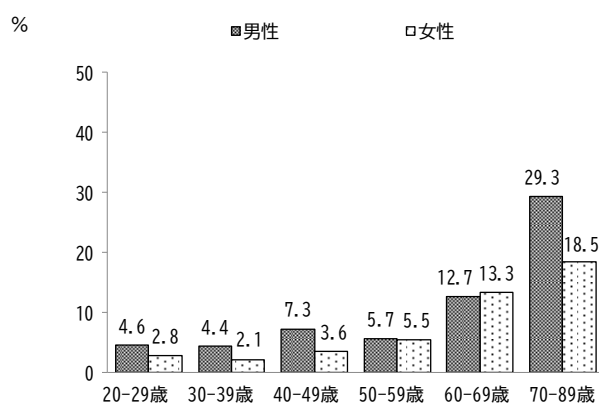


8.その他

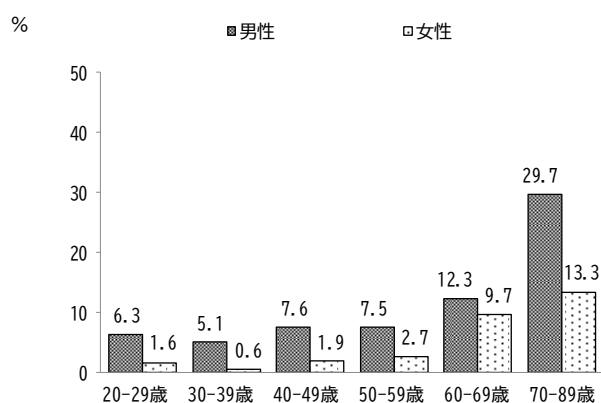


また、年代による違いの見られた「地域における交流に関するボランティアもしくは NPO などの活動（町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など）」、「まちづくりに関するボランティアもしくは NPO などの活動（環境美化、緑化推進等）、安全活動、防災活動」、「PTA・自治会・町内会などの活動」を性別・年代別にみると、いずれも「現在参加している」と回答した割合は 70-89 歳男性で最も高く、「地域における交流に関するボランティアもしくは NPO などの活動（町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など）」で 29.3%、「まちづくりに関するボランティアもしくは NPO などの活動（環境美化、緑化推進等）、安全活動、防災活動」で 29.7%、「PTA・自治会・町内会などの活動」で 42.5%であった。

地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動に現在参加している



まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動、安全活動、防災活動に現在参加している



PTA・自治会・町内会などの活動に現在参加している

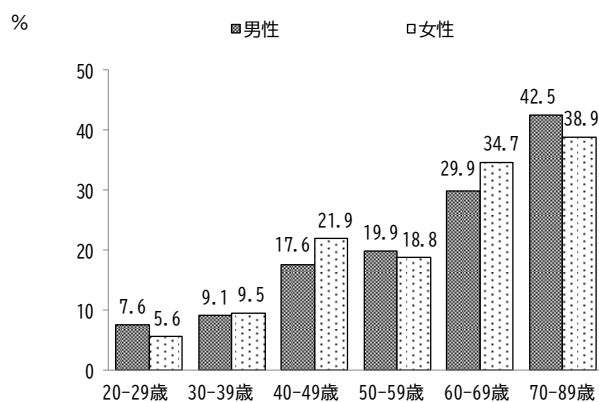
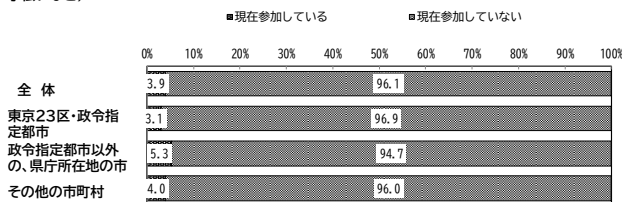


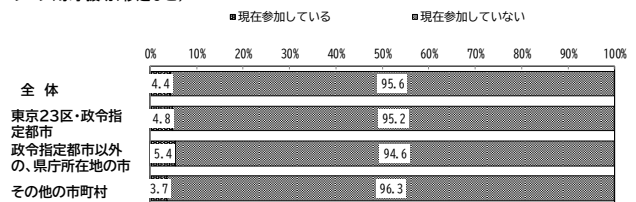
図 2-67

続いて、具体的な社会参加活動の参加状況を地域規模別にみると「地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)」、「地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)」、「地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)」、「その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動」は、大きな差は見られなかった。「地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)」、「まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動」、「PTA・自治会・町内会などの活動」は地域によってやや差があり、「現在参加している」と回答した割合は、いずれも東京23区・政令指定都市が最も低かった。「PTA・自治会・町内会などの活動」に「現在参加している」と回答した割合は、その他の市町村では28.4%であった。

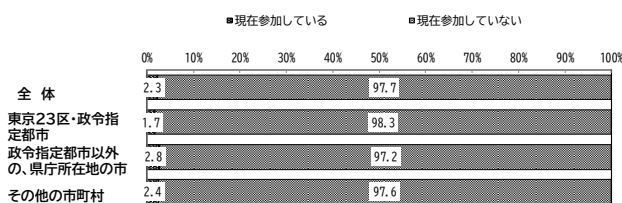
1. 地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)



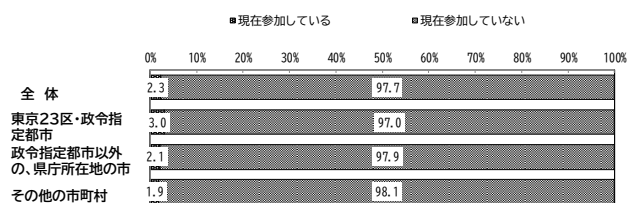
2. 地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)



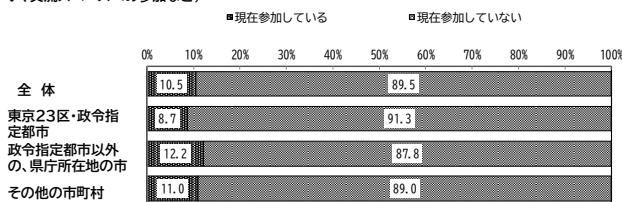
3. 地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)



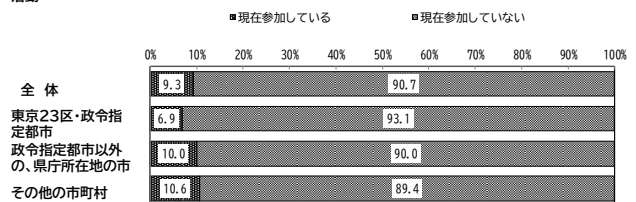
4. その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動



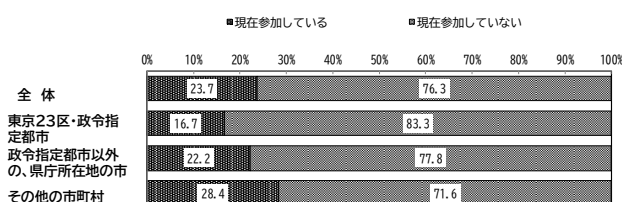
5. 地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)



6. まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動



7. PTA・自治会・町内会などの活動



8. その他

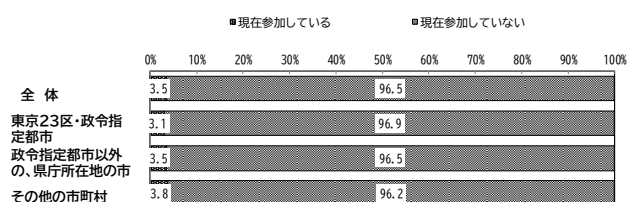


図 2-68

2.4.6 具体的な社会参加活動の今後の参加意向【問 16-2】

具体的な社会参加活動の今後の参加意向の中で、「今後、参加したい」「今後、どちらかといえば参加したい」を合算した『参加したい』と回答した割合が最も高かったのは「まちづくりに関するボランティアもしくは NPO などの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動」(30.7%)であり、次いで「地域における交流に関するボランティアもしくは NPO などの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)」(26.8%)、「地域における子どもの手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)」(23.8%)が高かった。

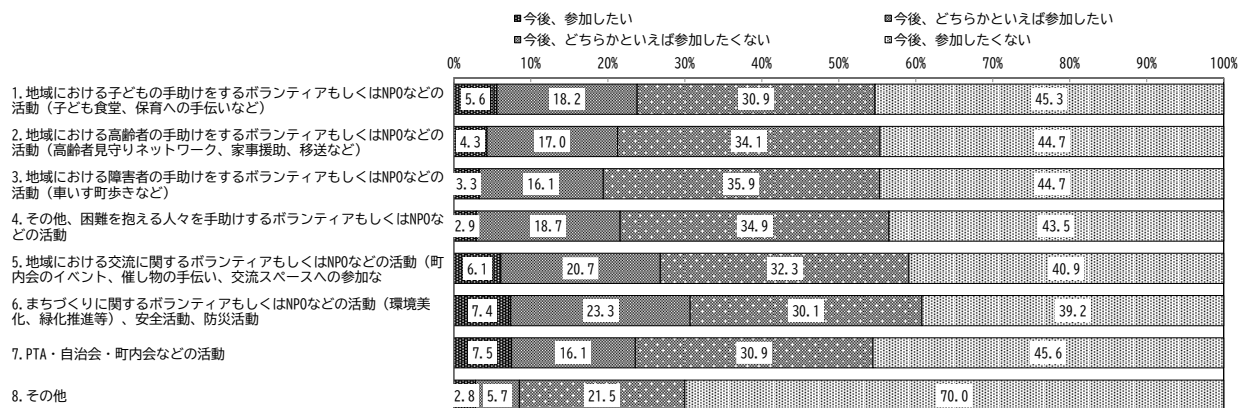
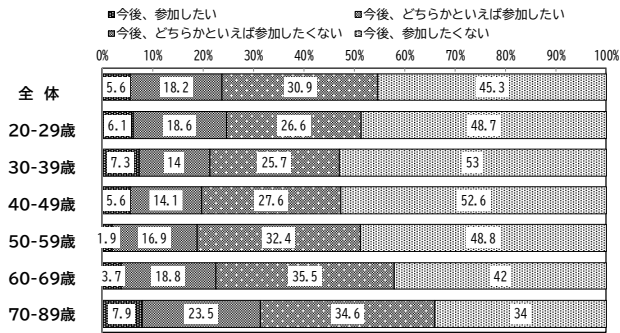


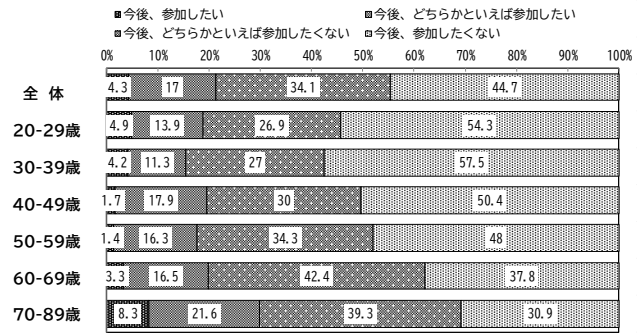
図 2-69

具体的な社会参加活動の今後の参加意向を年代別にみると、「今後、参加したい」「今後、どちらかといえば参加したい」を合算した『参加したい』と回答した割合は、いずれの活動についても、70-89 歳が最も高く、「まちづくりに関するボランティアもしくは NPO などの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動」では 45.9%となった。また、いずれの活動についても、20-29 歳は 30-39 歳よりも、『参加したい』と回答した割合が高かった。

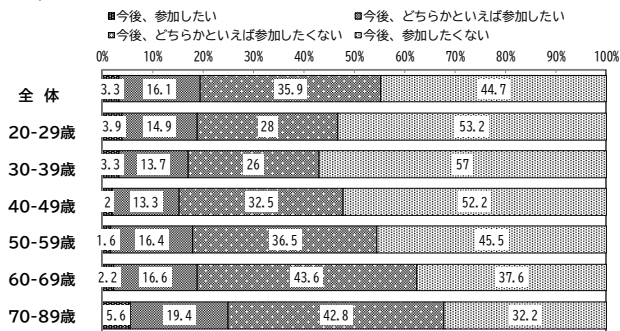
1.地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)



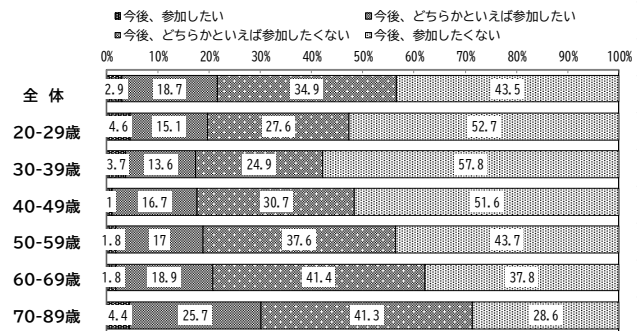
2.地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)



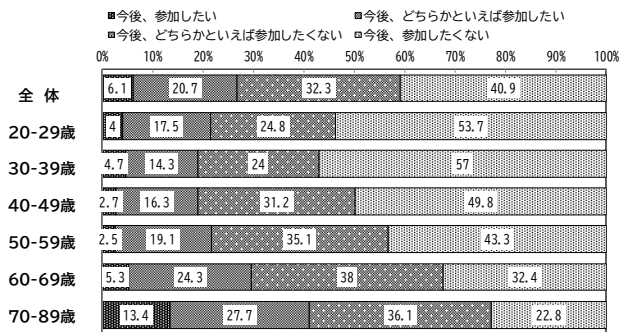
3.地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす町歩きなど)



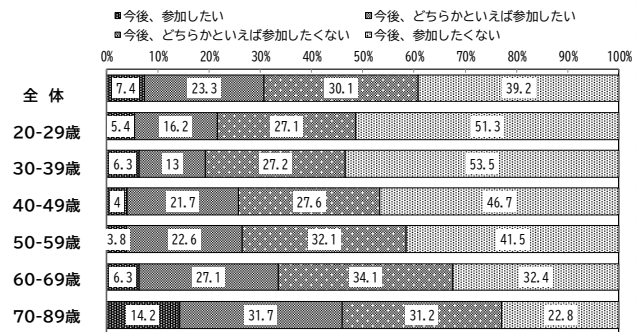
4.その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動



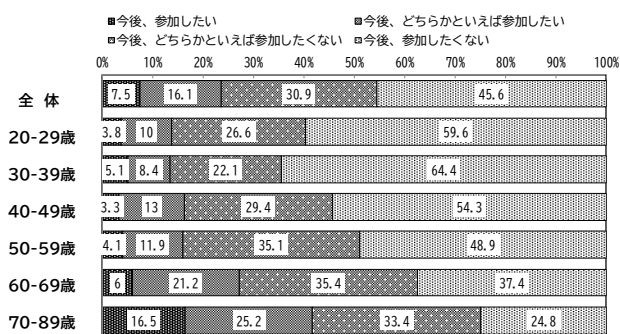
5.地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)



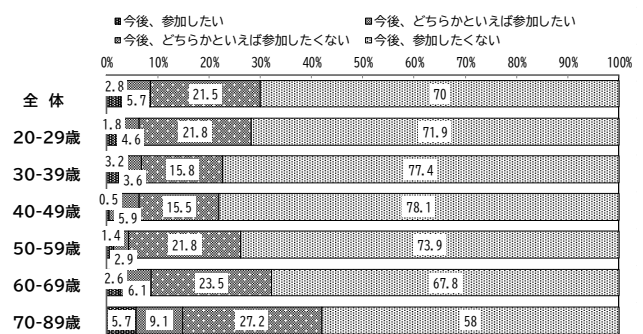
6.まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動



7.PTA・自治会・町内会などの活動



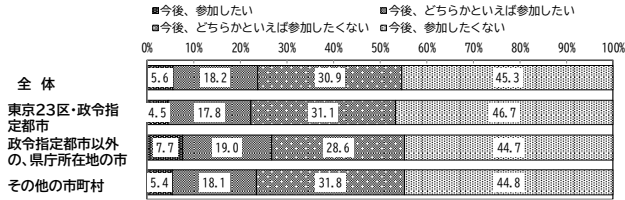
8.その他



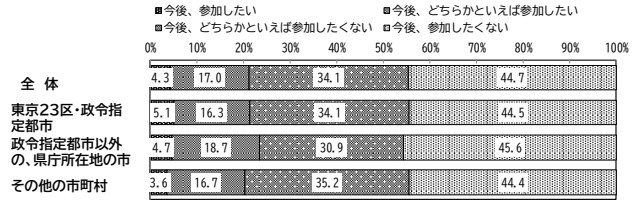
☒ 2-70

続いて、具体的な社会参加活動の今後の参加意向を地域規模別にみると、すべての活動について大きな差は見られなかった。

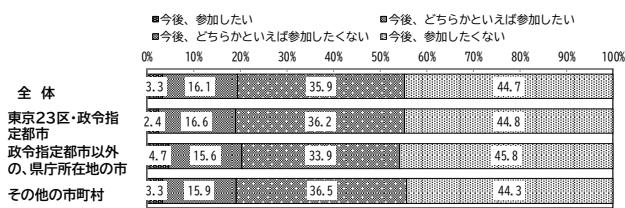
1. 地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)



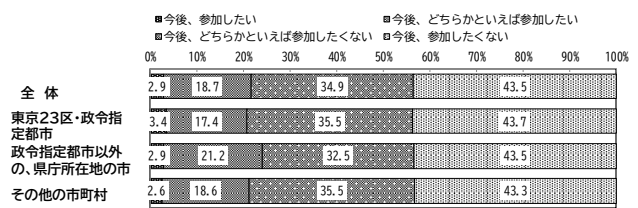
2. 地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)



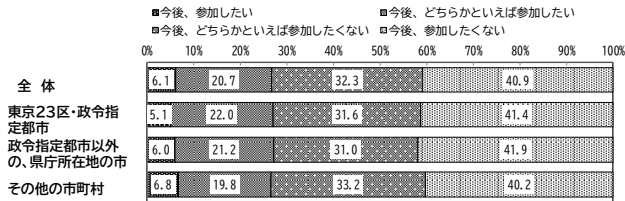
3. 地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動(車いす散歩など)



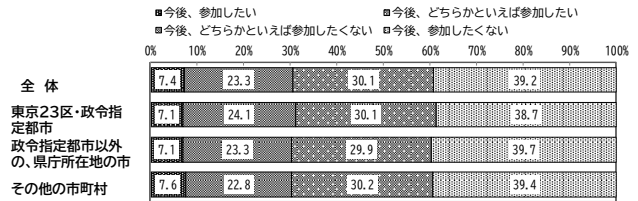
4. その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動



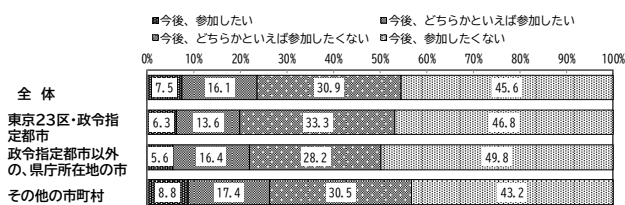
5. 地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)



6. まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動(環境美化、緑化推進等)、安全活動、防災活動



7. PTA・自治会・町内会などの活動



8. その他

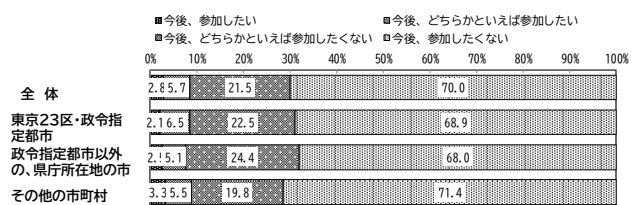


図 2-71

2.4.7 具体的な社会参加活動の参加理由【問 17】

具体的な社会参加活動の参加理由は、全体では「社会や人の役に立ちたいと思ったから」が 44.1% で最多、次いで「時間的な余裕があるから」が 23.6%、「家族以外の人と交流したいから」が 20.9% であった。

%

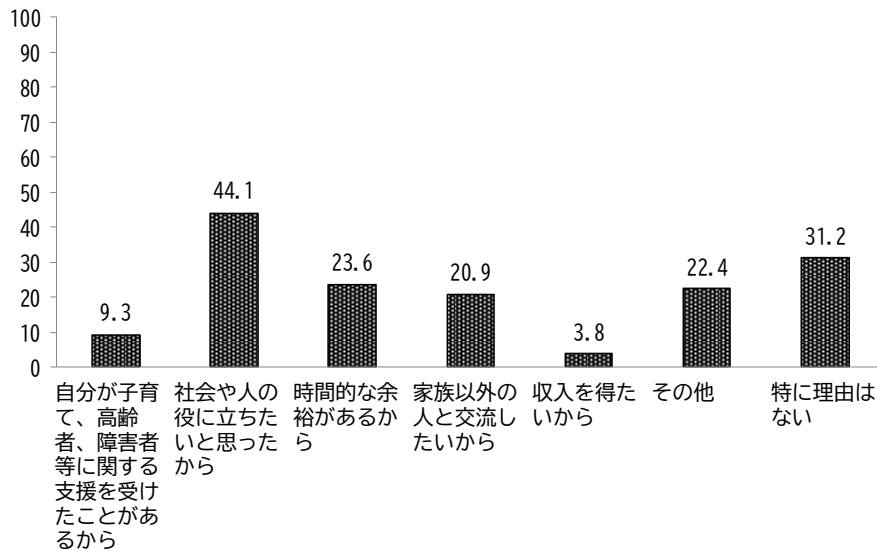


図 2-72

年代別にみると、いずれの年代でも、最も多いのは「社会や人の役に立ちたいと思ったから」であった。20-29 歳では、「家族以外の人と交流したいから」(40.0%)、「収入を得たいから」(19.7%)と回答した割合が、他の年代より多い傾向にあった。30-39 歳、40-49 歳では、「自分が子育て、高齢者、障害者等に関する支援を受けたことがあるから」と回答した割合が比較的高かった。

%

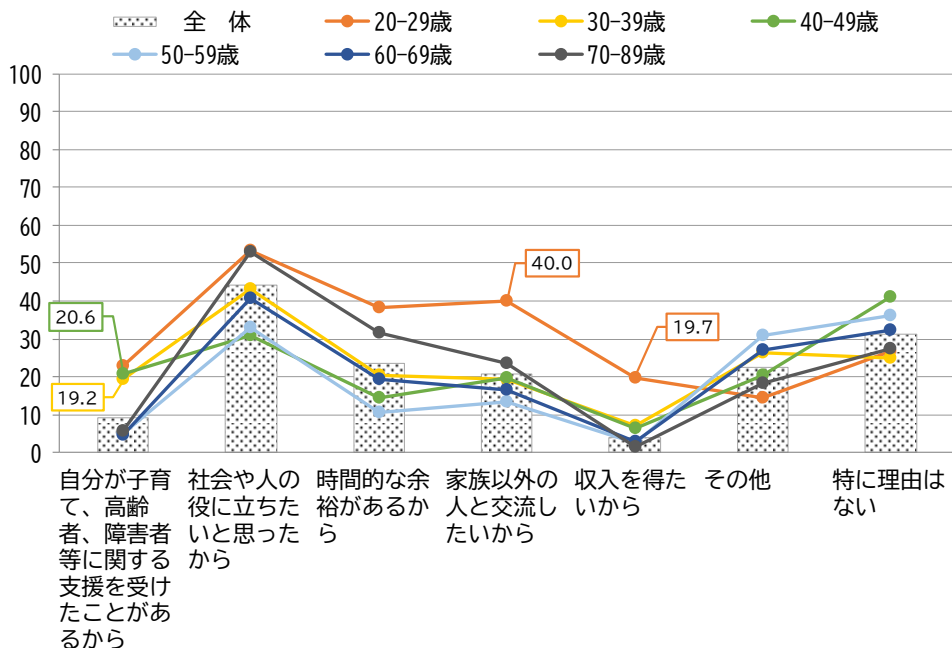


図 2-73

2.4.8 具体的な社会参加活動について良かったと思うこと【問 18】

具体的な社会参加活動について良かったと思うことは、全体では「地域社会に貢献できた」が48.9%で最多、次いで「お互いに助け合うことができた」が35.7%、「新しい友人を得ることができた」が27.3%であった。

%

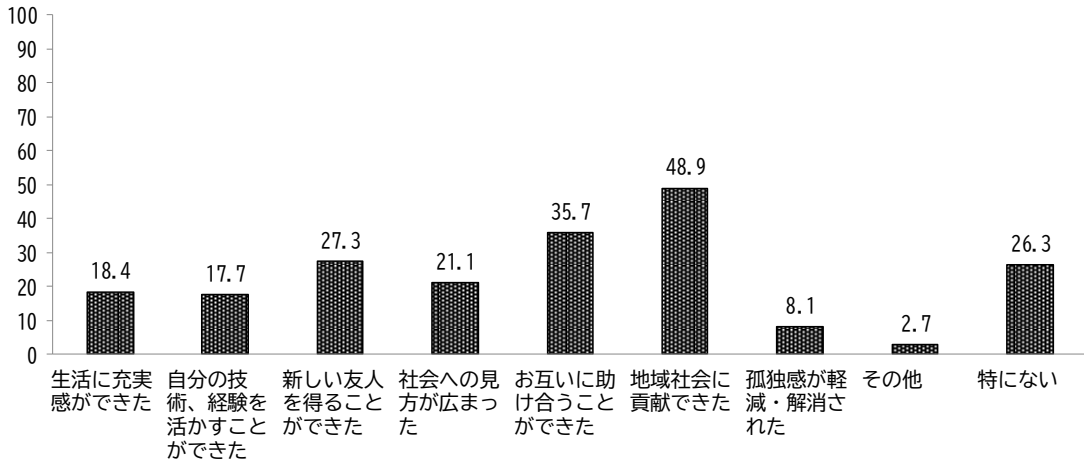


図 2-74

年代別にみると、最も回答が多かったのは、20-29歳では「社会への見方が広まった」(43.2%)、30-39歳では「新しい友人を得ることができた」(31.8%)であった。それ以外の年代では「地域社会に貢献できた」と回答した割合が最も高かった。

%

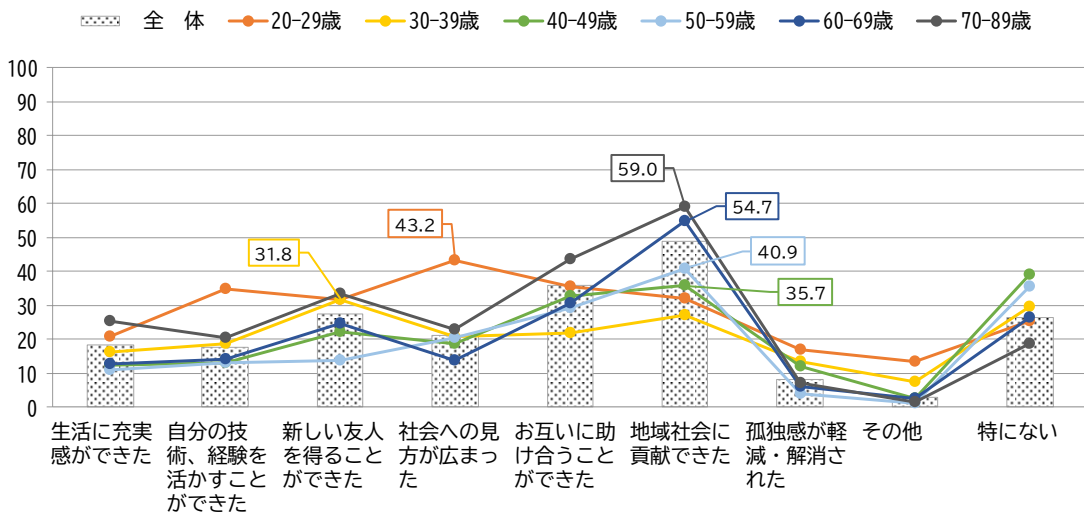


図 2-75

また、現在、社会参加活動に参加している人について、問 12「あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか」という設問への回答別にみたものは以下のとおりである。太字が 4 割以上のものである。

今後も社会参加活動に「参加したい」と回答した人が、現在、行っている活動に参加して良かったと思うことは、「地域社会に貢献できた」が、ほとんどの種類の活動で高い割合であった。

その他、「自分の技術、経験を活かすことができた」と回答した割合が高かったのは、「地域における障害者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(車いす町歩きなど)」(40.8%)であった。「新しい友人を得ることができた」と回答した割合が高かったのは、「地域における子どもの手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(子ども食堂、保育への手伝いなど)」(42.5%)、「地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)」(42.5%)、「地域における交流に関するボランティアもしくは NPO などの活動(町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など)」(40.5%)であった。「社会への見方が広まった」と回答した割合が高かったのは、「地域における障害者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(車いす町歩きなど)」(40.5%)、「その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくは NPO などの活動」(40.3%)であった。「お互いに助け合うことができた」と回答した割合が高かったのは、「地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくは NPO などの活動(高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など)」(40.9%)、「PTA・自治会・町内会などの活動」(44.1%)であった。

表 2-3 今後の社会参加活動参加意向別 具体的な社会参加活動について良かったと思うこと

1. 地域における子どもの手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動（子ども食堂、保育への手伝いなど）

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		27.1	25.0	27.5	27.0	23.6	32.3	10.1	0.6	11.6
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	35.1	28.3	42.5	33.5	31.5	32.9	9.6	-	3.4
	どちらかといえば参加したい	25.7	26.1	17.8	26.5	20.3	36.8	10.0	1.5	5.0
	どちらかといえば参加したくない	7.8	5.5	12.1	10.1	5.6	15.7	15.1	-	60.4
	参加したくない	-	36.5	-	-	20.6	22.8	-	-	42.9

2. 地域における高齢者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動（高齢者見守りネットワーク、家事援助、移送など）

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		24.3	16.3	30.2	30.3	27.7	43.7	8.6	3.8	14.1
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	32.4	17.9	42.5	39.9	40.9	45.8	13.2	4.7	4.9
	どちらかといえば参加したい	24.4	20.8	26.7	27.0	14.1	53.0	4.1	4.3	5.6
	どちらかといえば参加したくない	-	6.0	-	4.0	14.3	29.3	6.3	-	46.2
	参加したくない	-	-	-	12.7	14.4	9.1	-	-	71.1

3. 地域における障害者の手助けをするボランティアもしくはNPOなどの活動（車いす町歩きなど）

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		28.4	27.8	22.4	26.4	20.6	29.7	14.0	3.9	15.9
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	36.4	40.8	28.5	40.5	31.7	23.5	25.8	6.8	9.9
	どちらかといえば参加したい	30.3	20.8	21.8	16.7	17.2	33.4	7.9	2.5	11.9
	どちらかといえば参加したくない	-	15.6	8.5	20.7	-	41.7	-	-	36.0
	参加したくない	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

4. その他、困難を抱える人々を手助けするボランティアもしくはNPOなどの活動

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		11.3	14.3	21.5	35.5	13.7	40.8	17.7	4.0	13.3
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	13.8	12.1	28.2	40.3	18.4	51.0	18.0	3.0	2.5
	どちらかといえば参加したい	11.7	18.5	12.9	35.0	7.7	36.0	19.9	7.0	9.0
	どちらかといえば参加したくない	-	18.1	25.2	25.2	15.5	15.5	15.5	-	56.7
	参加したくない	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

5. 地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動（町内会のイベント、催し物の手伝い、交流スペースへの参加など）

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		20.6	14.3	27.6	18.6	37.1	47.7	7.5	1.5	12.6
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	30.1	24.8	40.5	30.3	36.0	48.1	13.3	2.4	3.1
	どちらかといえば参加したい	21.8	11.3	30.1	14.5	42.8	53.6	5.2	1.0	7.7
	どちらかといえば参加したくない	1.9	3.3	-	6.8	30.2	37.0	2.6	1.0	33.8
	参加したくない	-	-	-	8.0	8.2	22.3	-	-	69.7

6. まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動（環境美化、緑化推進等）、安全活動、防災活動

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		18.8	11.9	26.4	22.1	28.2	57.1	5.8	0.8	12.9
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	28.7	16.9	39.7	34.2	35.6	62.5	9.6	0.6	3.3
	どちらかといえば参加したい	17.6	12.6	21.2	19.4	28.5	62.3	2.0	1.4	5.3
	どちらかといえば参加したくない	1.7	-	13.9	2.6	13.3	37.2	8.3	-	45.7
	参加したくない	-	-	-	9.9	10.1	16.8	-	-	73.3

7. PTA・自治会・町内会などの活動

		生活に充実感ができた	自分の技術、経験を活かすことができた	新しい友人を得ることができた	社会への見方が広がった	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	孤独感が軽減・解消された	その他	特にな
全体		10.1	8.4	18.6	13.4	31.7	43.7	3.3	1.4	26.6
Q12.あなたは今後、社会参加活動を行いたいと思いますか。	参加したい	23.4	18.4	34.2	27.4	44.1	55.3	6.3	2.0	4.6
	どちらかといえば参加したい	10.1	10.3	21.1	15.2	34.6	52.9	3.6	0.3	14.6
	どちらかといえば参加したくない	4.3	2.1	9.4	5.4	22.2	33.6	1.7	2.0	44.5
	参加したくない	-	-	3.6	1.2	25.5	8.0	-	3.2	70.0

2.4.9 地域における社会参加活動を進めるために有効だと思う施策【問 19】

地域における社会参加活動を進めるために有効だと思う施策は、「簡単に社会参加活動に参加できる仕組み」(36.6%)、次いで「実施されている社会参加活動内容の周知・広報」(31.8%)、「社会参加活動を行うことの出来る場の提供」(26.1%)が高かった。

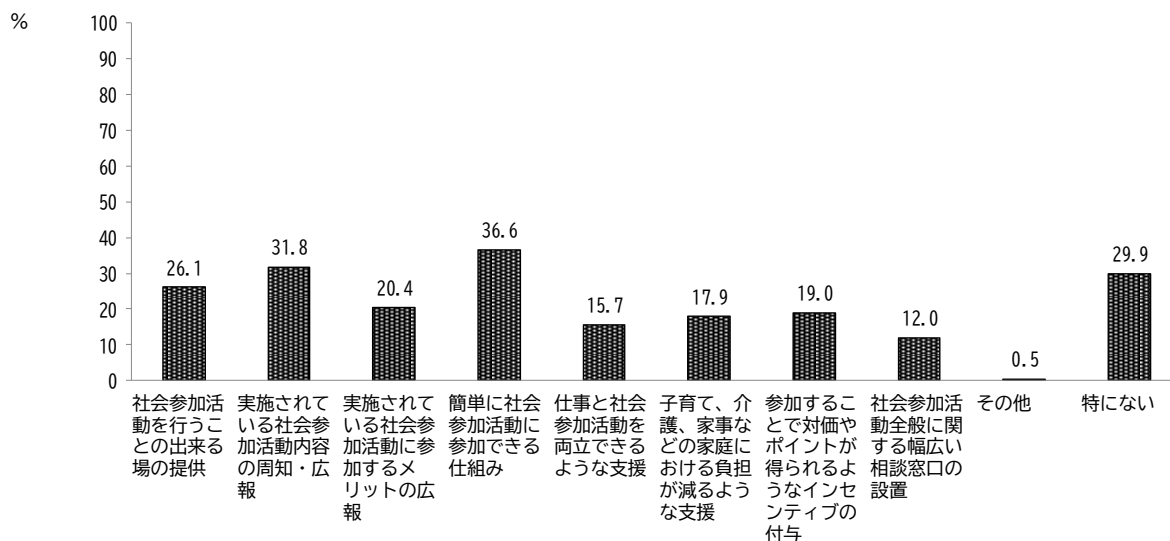


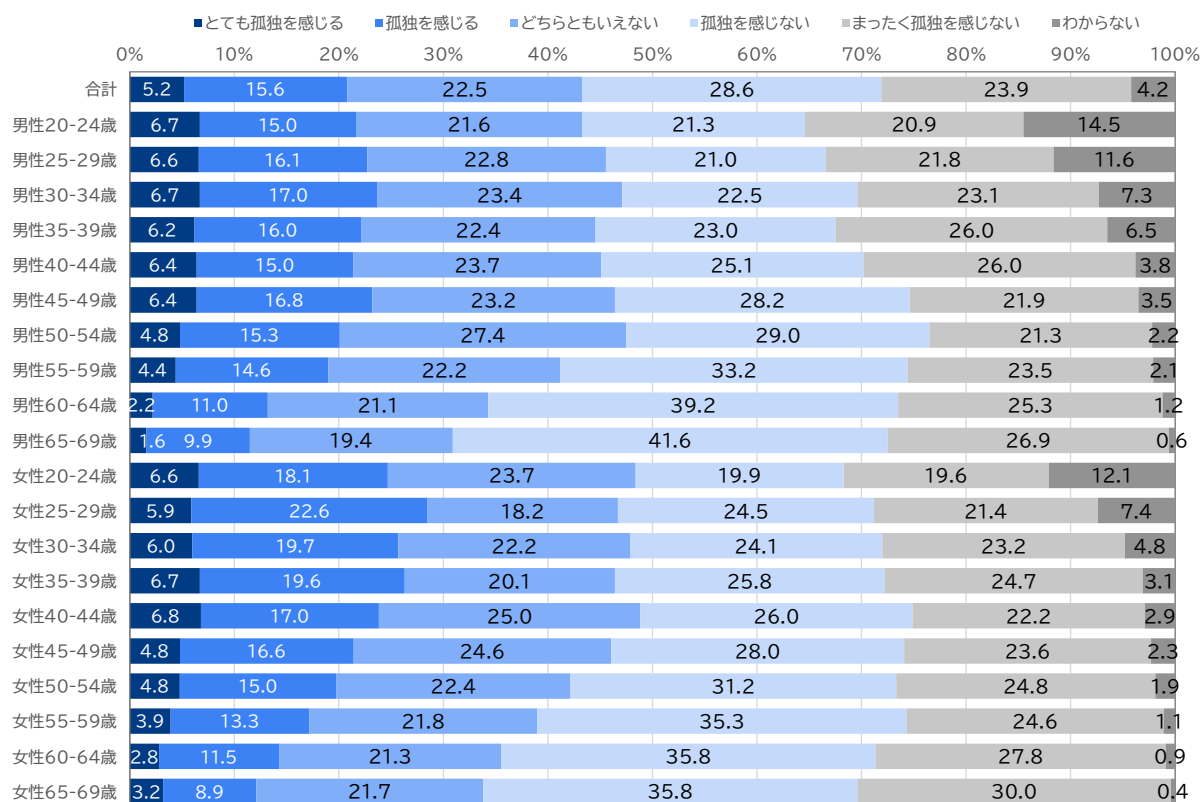
図 2-76

3. 考察

3.1 孤独感の有無

孤独を感じるかについて、「たまにある」が 26.2%、「時々ある」が 11.1%、「しばしばある・常にある」は 8.2%にとどまり、合算した『ある』は 45.5%となった(図 2-8)。本業務では、「どちらでもない」という選択肢を入れない 5 件法として設定して調査を行ったものの、「決してない」「ほとんどない」を合算した『ない』が『ある』を上回る結果となった。性別と年代別にみると、『ある』が 5 割を超えたのは、男性の 30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、女性の 20-29 歳、30-39 歳、40-49 歳であり、男女ともに 60 歳以上は下の世代と比較して孤独感を感じていないという結果となった。

なお、生活者市場予測システム(mif)²では、性別と年代により差はあるものの概ね「どちらともいえない」「まったく孤独を感じない」「孤独を感じない」に分散する傾向にある。また、「どちらともいえない」「わからない」との回答が一定数あることには留意が必要である。



※生活者市場予測システム(mif)2022年6月調査(n=30,000)

図 3-1 【参考情報】孤独を感じるか(性別・年代別/6 件法)

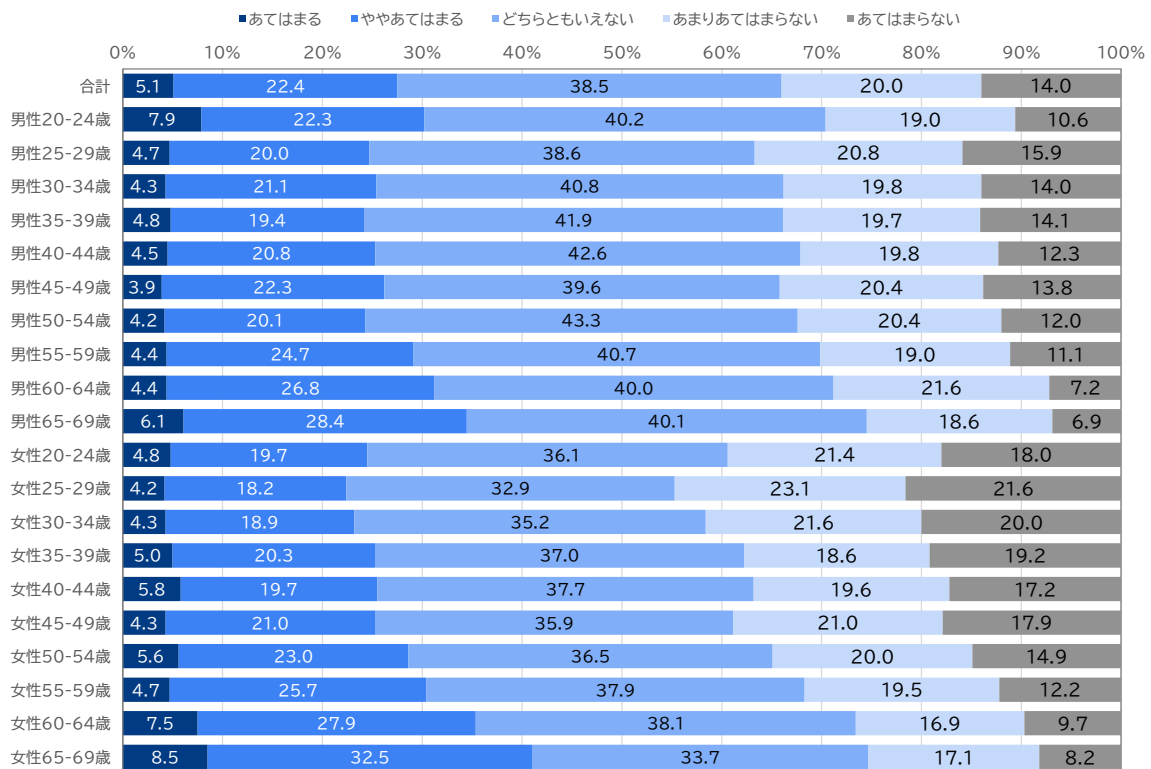
²2022年6月時点の調査結果(ただし20~69歳までの30,000人のサンプルから構成されるパネルに限定)。本調査の詳細は1.2.1を参照。

対面コミュニケーションと孤独の度合いについては、概ねコミュニケーション頻度が高いほど『ない』の割合が高い(図 2-11)。対面コミュニケーションの頻度と孤独度合いについては、家族や友人・知人だけでなく、「居住地域の近隣の人」、「居住地域における活動の仲間」とも概ね対面コミュニケーション頻度の高いほうが孤独感を感じていなかった。なお、非対面コミュニケーションと孤独の度合いについては、対面コミュニケーションほど差が見られなかったが、「居住地域の近隣の人」と「居住地域における活動の仲間」といった地域の住民との非対面コミュニケーションは、頻度が高いほどに『ない』の割合が高かった(図 2-25、図 2-26)。

3.2 他者(近隣住民、友人・知人等)との交流や地域に関する意識等

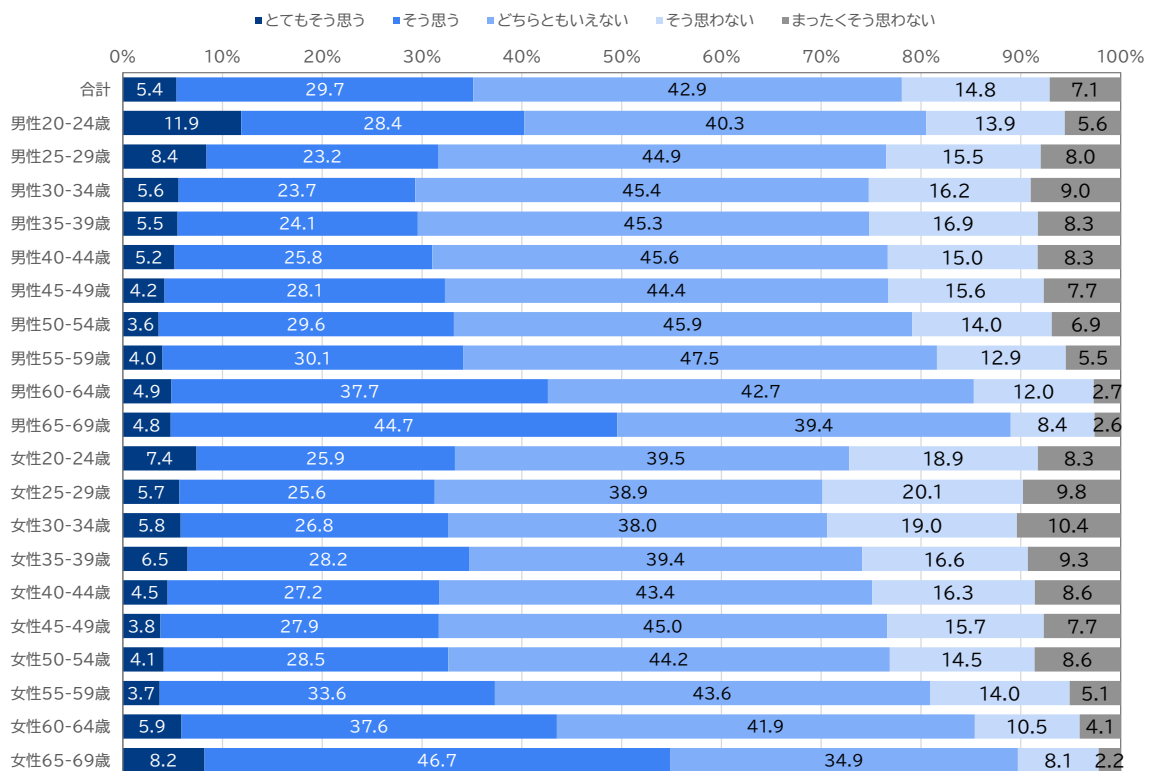
対面コミュニケーションについて、「週 5 日以上」は「同居の家族」と「現在属している学校・職場の友人・同僚」で他の人物よりも割合が高い。コミュニケーション頻度項目の中で、「そのような人はいない」が突出しているのは、「居住地域における活動の仲間(PTA、町内会、自治会活動など)」、「学校や職場以外の趣味・社会参加活動等における友人・知人」「ゲームや SNS、オンライン上での友人・知人」であった(図 2-40)。月 1 日以上対面コミュニケーションをとっている場合において、コミュニケーション対象毎に性別と年齢で違いがないか確認したところ、「居住地域の近隣の人」は年齢を重ねるごとに割合が高く、30-39 歳、40-49 歳、60-69 歳は女性が男性を上回った(図 2-41)。非対面コミュニケーションは、「同居の家族」以外は「週 5 日以上」と回答した割合は 1 割に満たない(図 2-42)。

なお、生活者市場予測システム(mif)では、住んでいる街について隣近所との交流があると回答しているのは全体では 3 割以下であり、どの年代においても「どちらともいえない」との回答が 3~4 割あった。近所の人とのふれあいを大切にしたいとの回答は、全体では 4 割以下と、交流があるよりは少し高い。男性は 20 代前半と 60 代が「とてもそう思う」と「そう思う」が 4 割以上と高いが、女性は 4 割を超えたのは 60 代のみであった。



※生活者市場予測システム(mif)2022年6月調査(n=30,000)

図 3-2 【参考情報】住んでいる街について隣近所の住民との交流がある(性別・年代別)



※生活者市場予測システム(mif)2022年6月調査(n=30,000)

図 3-3 【参考情報】近所の人とのふれあいを大切にしたい(性別・年代別)

3.3 社会参加活動(地域活動、ボランティア活動等)に関する意識等

今後の社会参加活動意向については、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」は合計で35.9%であった(図 2-52)。性別と年代別にみると、男女ともに「参加したい」「どちらかといえば参加したい」の回答割合が高いのは70-89歳であった。一方、「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」は男性が40-49歳で70.7%、女性は30-39歳で75.6%であった(図 2-53)。2022年1年間の社会参加活動状況については、「社会参加活動を行っていない」が68.0%を占めた(図 2-54)。

社会参加活動参加のきっかけは、「地域内の広報などを通じて知り、自分で連絡をとった」、「活動をしているものから勧誘された」が約4割と高い(図 2-61)。年代別にみると、20-29歳は、「オンライン上(ホームページ、Instagram、Twitter等)で活動を知り、自分で連絡をとった」が56.5%と他の年代よりも高かった。30-39歳、40-49歳で最も回答が多かったのは「地域内の広報などを通じて知り、自分で連絡をとった」であり、4割台であった(図 2-62)。

社会参加活動をしない理由については、「興味・関心がない」、「時間的な余裕がないから」、「どのような活動が行われているか知らないから」、「人と付き合うのがおっくうだから」に分散していた(図 2-63)。この理由を、今後の社会参加活動意向別にみると、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」人は「どのような活動が行われているか知らなかったから」が45.5%を占めており、活動状況等の公開が社会参加活動につながるものと見受けられる(図 2-64)。

具体的な社会参加活動の参加状況は、いずれの活動も不参加が参加を上回った。しかしながら、「PTA・自治会・町内会などの活動」は23.7%の人が参加しており、他の活動よりも参加割合が高い(図 2-65)。年代別にみると、「PTA・自治会・町内会などの活動」は40-49歳と50-59歳で2割弱、60-69歳で32.4%、70-89歳で40.4%であった(図 2-66)。

具体的な社会参加活動の今後の参加意向は、いずれの活動も不参加意向が参加意向を上回った(図 2-69)。年代別にみると、「地域における交流に関するボランティアもしくはNPOなどの活動」、「まちづくりに関するボランティアもしくはNPOなどの活動」、「PTA・自治会・町内会などの活動」への参加意向が70-89歳で高い(図 2-70)。

いずれかの具体的な社会参加活動経験のある人の参加理由は、「社会や人の役に立ちたいと思ったから」が44.1%で突出していた(図 2-72)。年代別にみると、20-29歳では「家族以外の人と交流したいから」、「収入を得たいから」の割合が他の年代より高く、30-39歳、40-49歳では「自分が子育て、高齢者、障害者等に関する支援を受けたことがあるから」の回答割合が高い(図 2-73)。

具体的な社会参加活動について良かったと思うことは、「地域社会に貢献できた」が48.9%で最も高かった(図 2-74)。年代別にみると、20-29歳では「社会への見方が広まった」、30-39歳では「新しい友人を得ることができた」が最多であった。それ以外の年代では「地域社会に貢献できた」と回答した割合が最も高かった(図 2-75)。